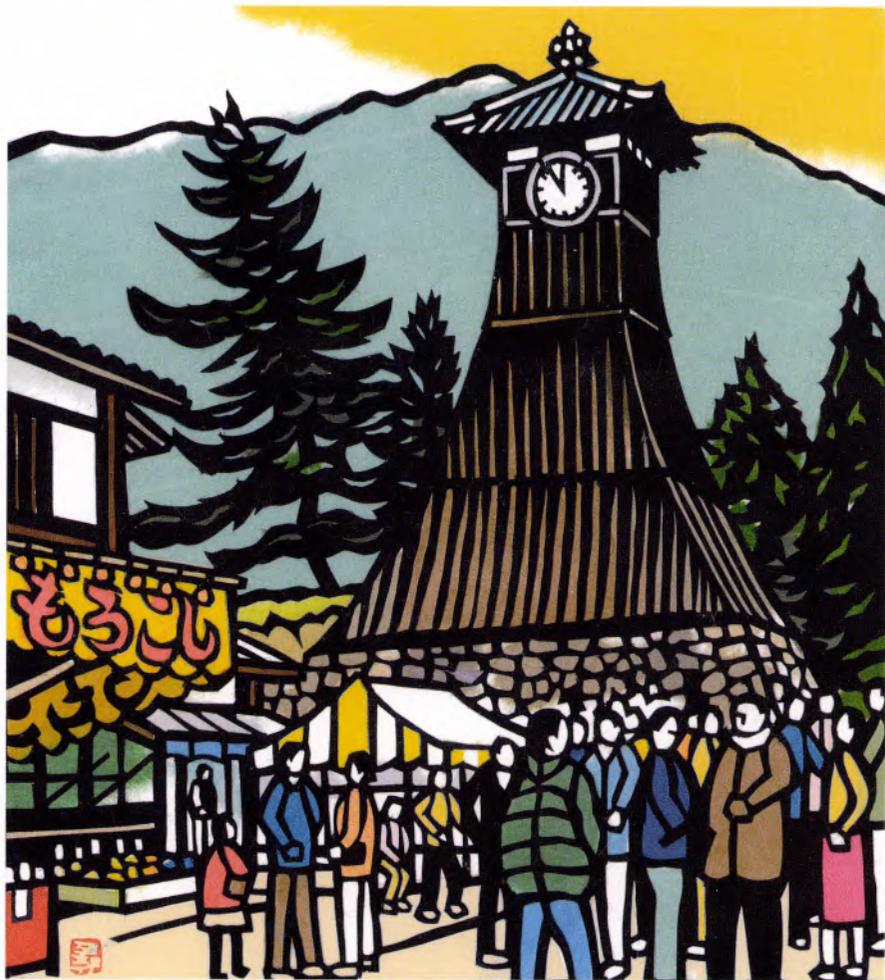


川柳塔

平成三十一年三月
創刊大正十三年 通卷一〇二号
発行一毎月一日発行



日川協加盟

No.1102

三月号

「川柳雑誌」「川柳塔」通巻一〇〇〇号記念出版

『麻生路郎読本』



麻生路郎
読本

A5版

514頁

頒価 三〇〇〇円

(郵送料共)

目次

麻生路郎アルバム

麻生路郎作品「旅人」「旅人その後の作品」

麻生路郎文集・麻生路郎語録

麻生路郎物語（東野大八）

麻生路郎の人と作品

麻生路郎作品「福寿草」

麻生路郎著作解題・麻生路郎年譜

麻生路郎・葎乃作品索引

ご希望の方は左記の事務所までお申し込みください。

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

花野ビル201号

電話

06-6779-3490

川柳塔社

振替 〇〇九八〇一四二九八四七九番

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにするお手伝いをいたします。

美研アート

事務所移転しました

TEL 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日:土/日/祝

大会ふたつ

小島 蘭 幸

2月9日、しまなみ海道の五つの大橋を渡って、まっすぐ山を越えるとそこはもう松山でした。会場の県民文化会館には、早く着き過ぎたのですが、すでにスタッフの皆様が受付等の準備に慌ただしく動いておられました。暫くすると松山の重鎮、塩見草映氏が出席されて選者室まで案内して下さいました。第59回伍健まつり川柳大会の会場には、各地からすでに多く柳人が出席されていました。その中で出席者に挨拶をされている女性がおられました。昨年六月に急逝された田辺進水氏の奥様でした。私は以前出席した伍健まつりで進水会長に大変お世話になったことを伝えることが出来ました。

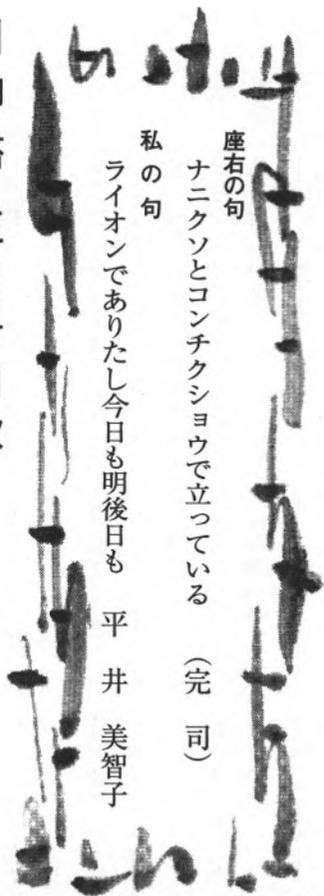
第一部・事前投句は二題二名ずつの共選、第二部・当日投句は四題四名の選者、私は「青」の選者を務めました。出席者は一七〇名を越える盛会でし

た。番傘の記念大会に続いて今回も真島久美子氏の披講を聞くことが出来ました。至福の時間でした。

二次選を経て最高賞の伍健盾は川柳塔社編集長の木本朱夏氏が受賞されました。

翌日は、山陽道を走って、第68回西大寺会陽川柳大会に出席しました。会場の西大寺ふれあい文化センターは、すでに多くの出席者で溢れていました。出席者のお顔を拝見していると初めて出席した日の光景が鮮やかに甦ります。私と会陽川柳大会の出会いは、数十年前、寺尾俊平先生から頂いた一本の電話からです。その時は「野」という課題の選をしたと記憶しています。今回は「指」の選者を務めました。選者は七名、川柳塔社から、平井美智子氏と石橋芳山氏も選者を務めました。七名の披講を聞いていますと、伍健まつりもそうでしたが、川柳って本当に素晴らしいなと思うことしきりでした。

憧れの川柳作家の披講を直接生で聞ける川柳大会、これはもう至福の時間です。多くの人に是非味わっていただきたいと、しみじみと思った二日間でした。



座右の句

ナニクソとコンチクシヨウで立っている (完 司)

私の句

ライオンでありたし今日も明後日も 平井美智子

川柳塔 三月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「出石・初午祭の日」

■巻頭言 大会ふたつ	小島 蘭 幸	(1)
踏んづけちやう	川上三太郎	(2)
川柳塔 (同人吟)	小島蘭幸選	(4)
自選集		(40)
句集の森		(43)
温故知新		(43)
川柳塔の川柳讃歌	木津川 計	(44)
橘高薫風句抄		(45)
水煙抄	西出楓葉選	(46)
英語 de Senryu	吉村侑久代	(64)
■エッセイ (薫風川柳を拾い出す)	水野黒兔	(65)
誹風柳多留一二篇研究	新家完司選	(68)
愛染帖		(68)

踏んづけちやう

川上 三太郎

『川柳雑誌』は故人の志によって廢刊とあつた―そして私にはうなづけた。いかにもあの入らしい結着だからである。あの人の一生は

君見たまえほうれん草が伸びてゐる
雲の峰という手もありさらばさらばです

の二句に尽きる。第一句のこれから―第二句のこれまで。しかもこれはあの人のこれまでであつて、あの雑誌に拠つて川柳の道を歩く事を知つた人たちの、その作品までやめてしまえといふのではない事もちろんである。だからこの雑誌が創られたのである。

この雑誌に拠る人々はその人の追慕で終始してゐるだけでは意味をなさぬ。そ

樽椽抄「あれこれ」	川端一步・山岡富美子共選	(72)
せんりゆう飛行船 ⁹⁹	新家完司	(75)
一路集	藤村亜成選	(76)
「モットー」	柳田かおる選	(77)
「調べる」	高瀬霜石	(78)
初歩教室「小さい」	伊達郁夫	(80)
川柳塔鑑賞	武本 碧	(82)
水煙抄鑑賞	島田駱舟・斉尾くにこ共選	(83)
川柳塔WEB句会「臨む」	大西泰世	(84)
インスピレーション・ナビ	印象吟	(86)
二月本社句会	板垣孝志	(90)
句会燦燦	各地柳壇(佳句地十選/竹信照彦・川本 畔)	(91)
二月各地句会案内		(104)
柳界展望		(106)
■編集後記(ひとこと/延寿庵野鶴)	朱夏・憲彦	(108)

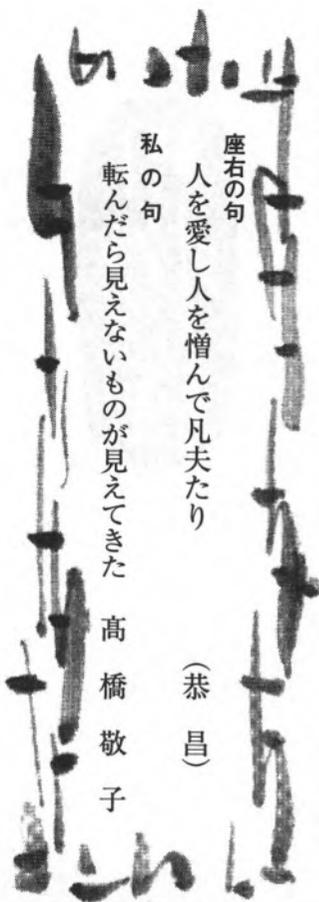
座右の句

人を愛し人を憎んで凡夫たり

(恭 昌)

私の句

転んだら見えないものが見えてきた 高橋 敬子



れこそ却ってあの人の遺志に反する事になる。言ひ換えればこの雑誌の人々はあの人の求めたものを追ふのみならず更に一步前進して、あの人の求めて得られなかったものを求めるべきである。否、更に三步前進してあの人の求めようとしなかったものまでを追って頂く。ここに川柳の生涯を懸けてもらひたい。

私たち七十才の時代はもう過ぎた。いやもうとつくに実は過ぎてゐるのだ。それを私たちは一少くとも私はあまえて易きについてゐた。これではいけない。私などは押し転ばして踏んづけてドンドン五歩十歩前進しなければならぬ。さうしなければ川柳の前途はない。かまはず踏んづけちやって更に諸君、さあ前へ。

(原文のまま)

川柳雑誌改題第一号・昭和40年10月1日発行

川柳塔

小島蘭幸選

神戸市 細川花門

弥栄の日本を祈る一市民

正直に生きて来たから瘤だらけ

一〇〇号の記念誌に僕もいる

老妻に I LOVE YOU は気障ですか

僕からは妻に大日菊花章

隙間風これぞ山家の換気扇

檀原市 居谷真理子

碎け散るものをプライドとは呼ばぬ

寂しさの極みであろう金閣寺

失恋をしたので角砂糖三つ

儂さの今その夢を見ています

かすら橋洗って冬の雨となる

旅先の図書館で天声人語

東京都 川本真理子

触角を伸ばし明日を確かめる

子も三十路うまの合う友達になる

そういうことを言わないと子に諭される

よく来たと老母の代わりに老犬が言う

先週の刺り忘れ老母のおごひげ

良いことがあって餃子の餡包む

広島市 岸本清

遅咲きの僕は酒場で開花した

犯罪の奥底にある低所得

体力が落ちて戻った夫婦仲

あれは嫌これも嫌だとフリーター

耳打ちになぜか不思議な親近感

駅伝でスタートを切るニューイヤー

奈良県 安福和夫

歌会始め入選の義姉舞い上がる

平成を閉じる歌会感無量

エスコートできない亡夫さぞ無念

非凡さも努力無くして輝かず

僥倖は継続讀える褒美かも

気負わずに自然体での大快挙

鳥取県 斉尾くにこ

予定表何もない日のセレナーデ
消音をして真昼間はバクになる
顔上げて日暮れたことに驚いて
楽じゃないこと楽しみにする人と
おあいことして今晚はこれまでに
湯たんぼはまだあたたかさ残している

大阪府 谷口 義

何もせん方が長生き出来るらしい
酸素は足りてます油は切れてます
体操は嫌いでマッサージに行く
守秘義務があるのでマスクを掛けている
姉さんは曾孫妹は孫が出来
ご挨拶が遅れましたが卑弥呼です

箕面市 中山 春代

古里の水に呼ばれる回遊魚
元旦の手袋脱いで鈴を振る
狛犬を撫でて痛いので飛んで行け
七福神巡りにはまるスニーカー
ブラックコーヒー喜寿なんてまだ青い
アナログの世界で妻はよく遊ぶ

岡山市 工藤 千代子

財政難だから賽銭値切ります
猪が島民抜くという賀状
コーヒーをどうぞ平成は終わります

やわらかな嘘で元気になる命
回復を行き先にする旅カバン
婆ちゃんになったから本読んでます

熊本市 杉野 羅天

花いろいろ寒の机のコンチエルト
自然愛無農薬へと辿り着き
地小豆に目がない甘党の一人
鷹一羽飛んで猟場の静けさよ
同窓会メタボなキミは見たくない
肩で風を切る老後の空元氣

豊中市 水野 黒兔

初日の出見る物みんな新しい
書初めの檸檬の文字に師を偲ぶ
朝酒にこたつでとろり三ヶ日
アパ地下を妻の僕として歩く
コーヒーは恋 珈琲はノスタルジー
窓は雨ポインセチアが暖かい

鈴鹿市 小河 柳女

定位置に枯れ葉二枚が座ってる
湯の神に抱かれ無念無想になる
芽を出そう出そうとしての小石です
噛み切れぬ世で雑炊を食べている
昨日より一ミリ減っていく身体
雑踏ではあんほあん塵になる

鳥取市 岸 本 宏 章

ご退位の気持が痛いほど分かる
恩返ししたい人生四コマ目
重い物は通販で買う老い二人
猫だまし小兵力士のためにある
校長の死角でいじめあと絶たぬ
自宅葬昔ばなしになつてくる

松江市 石 橋 芳 山

ピブラートきつくて一日が重い
納豆を掻き混ぜ午後はくもり空
ぐしゃぐしゃにしたくて今日を切り刻む
騙されはしない雲ひとつない空
天気よし気分よし腹すいている
休日の輪郭霧になつている

男鹿市 伊 藤 のぶよし

凍み大根あてにするのは過疎の冷え
生きるチエ雪の嵩には逆らわぬ
無為の日もわたしの命しかと抱く
衣食住たりてやっぱり呑むサブリ
年金枠の暮らしに春のくる予感
起きろ起きろとゴビの黄砂が窓たたく

藤井寺市 鴨 谷 瑠美子

雪の降る音を聞きたいなと思う
まずは手を洗ってからにするメール
ビデオには撮れぬみずみずしいこころ

重ね着の中でぼかぼかするハート
お邪魔なようでいとしいような夫の嵩
鎮痛剤じわり記憶を消されそう

札幌市 三 浦 強 一

推敲の足りぬわが子を旅に出す
生涯現役周り迷惑見えてない
自分史に燦と米寿のクラス会
似非平和監視カメラの包囲網
私にも責任がある温暖化
人類の未来も地球あればこそ

香芝市 山 下 純 子

宇宙人だった息子もパパになり
子のために地球を守るリサイクル
別々の道を進むが永遠の友
鮮やかなルージユが似合う年になる
満足でも夫の返事まあまあや
戦乱の遙かな国を忘れまい

大阪市 寺 本 実

初夢がさめてこの世に舞い戻る
わからんと良いドクターは言ってくれ
お年玉振りこみまだとメールくる
経歴を彫ると墓石をうめつくす
背を伸ばす明日がどんなにつらくても
陽だまりで孫をお膝に抱っこして

鳥取市 倉益一瑤

黄昏のここらあたりで筆洗う

指パッチン鳴らすと右脳動き出す

距離おいて見ればかみつく事でない

疑問符をいっぱい抱いた四コマ目

あと五分化ける時間が足りません

嘘泣きでちゃっかりハート鷲掴み

八幡市 今井万紗子

ショートケーキ亡母にも一つクリスマス

終活か欠礼ハガキよく届く

御近所は老人会の顔馴染み

連れ糸解し紡いで春を待つ

輝いています亡母さんわたし見えますか

孫とするスキップならば出来そうだ
寝屋川市 森茜

梅一輪亡母の思いにたどりつく

七草粥一種足りないホトケノザ

日めくりがほおっとかれた三ヶ日

クッションになる老い父の静かな間

ちよほちよほと開くわたしの冬そうび

なにげなく声かけ消えた蟠り

尼崎市 藤井宏造

ささやかな年金だけどありがたい

子や孫が帰りがラガラ冷蔵庫

処分前ギターをちよっと弾いてみる

元氣よく病院通いできている

北風が真正面から攻めてくる

雪の夜は友とまつたりおでん酒

大阪市 江島谷勝弘

床暖にして冬が楽しくなりました

今日もまた飲めそうなのでウヒヒヒヒ

みつをさんになかなかなりきれぬ私

亥の刻はわたし熟睡しています

誰からも指図されるのキライドな

七十五まだスキップができました

奈良市 辻内げんえい

亥の妻にどうあがいても勝てぬ戌

猪鹿蝶孫に教えて叱られる

何にでも平成最後つけたがる

団塊に五輪万博二度の夢

自動車の空飛ぶ時代すぐそこに

流行りより昭和ファッションよく似合う

鳥取市 前田楓花

ポリ袋川で魚の餌になる

熱をもつうちに書きたいラブレター

渡す宛ない恋文を書いている

演歌に似合う細い指薄い肩

脇腹の死角でヘルベスが疼く

一つずつ増えていくもの減らすモノ

さいたま市 星野育子

中高年バブルの夢を追い続け
性別欄消えて紅白どうなるの
素面ではアイドル曲は歌えない
助詞並べ迷ったままで二日すぎ
いつからか笑い上戸が居なくなり

上尾市 中村伸子

「ごめんね」と言えば「いいよ」という笑顔
この人を残して死ねぬまた思う
冒険の八十六歳への不安

お年玉一つは減って寂しさも
命ある句はほんとうに作れるか

朝霞市 前田洋子

だからっていつ起きるやら大地震
さて何を出すんだったか冷蔵庫
一年目やっとな覚えた新住所
横文字は読めて空気はよめぬ人
北風が止めば私の花が咲く

千葉市 海老池洋

ひこばえといのちの話したくなる
来年の漢字は幸であれかしと
半端じゃない僕も川柳依存症
老いはれて書く終活の年賀状
一心に祈るソフトな影法師

八王子市 川名洋子

路線バス消えたふる里雪積る
街中に気ぜわしさなく年の暮れ
繁華街淋しい子らが群れている
神様が邪魔をしたのか初日の出
読みかけに葉を挟み今日を閉じ

横浜市 菊地政勝

着膨れた噂たどれば他愛ない
日溜りの場所譲り合う夫婦仲
昼下がり社交場めく診療所
頼られて邪魔にされてる好々爺
ポックリと逝きたいなどと無責任

犬山市 金子美千代

遠慮なく歳を聞かれるようになり
原発輸出の頓挫にほっとする
本当に知りたい事は小さい文字
鯖の味噌煮食べながら聞くアベマリア
代襲相続放棄に戸籍十一通

犬山市 関本かつ子

本当に嬉しい時は酔わぬ酒
下駄箱の整理迷わずハイヒール
未熟児で産まれた孫も早や二十
みつ豆を追加おしゃべりエンドレス
父親と同じ息子の叱りよう

愛知県 早川 遡行

望郷の枕を濡らす波の音
八十路なお残る若さに縋る日々
凡人は凡人なりに風を読み
ではでは池干しすれば外来種
台所妻の代りは務まらず

富山市 島 ひかる

米持参修学旅行行った日々
米の無い友のお米も持つて行き
星空を仰ぐと観えてくるあなた
若い日々耐えた痛さに今がある
脳一つ洗い流してゆく旅路

可児市 板山 まみ子

三箇日過ぎの古刹へ願ひ事
己捨て他に尽くすなど出来はせぬ
慌てずに行けるのだからかその時は
お節より出来たての粥モテまくる
魚屋に総菜魚ない年の暮

大阪市 磯島 福貴子

生まれ変わつてもまたあなたと夫婦
バツイチに三國一の花嫁が
ランドセル背に早く来い来い春を待つ
沖繩の海珊瑚と共に泣いている
先ず自分用そして友チョコバレンタイン

大阪市 岩崎 玲子

お正月楽しいよりもしんどおす
持続したい気力体力ちよい財も
弱気の時夢に出てきて欲しい亡母
便利さに慣れた暮しに疲れぎみ
片付けを明日あしたでまた明日

大阪市 内田 志津子

土の香と地方紙届く寒い冬
母の手に痛み和らぐひとさすり
過疎地にも棚田は育つ実も熟れる
初参り寺と神社と教会と
病む友に温い言葉と春の種

大阪市 宇都 満知子

道なりに歩けば怪我はなかったか
優しさが風邪をひいたか口喧嘩
誰に付こうか運がこっそり見つめてる
それぞれの個性が愉快孫四人
春彼岸子の運転で墓まいり

大阪市 榎本 日の出

年金を使い切れない夢を見た
ハルカスの上でストレス置いて来た
八十路坂普通の暮し難しい
手の平で愛をころばすにくい人
夕食はいらんと言われ手をたたく

大阪市 大川 桃花

大阪市 笠嶋 惠美

簾外れいつも通りの年が明け
一つ歳重ねて増やす小休止
千両の葉で越冬の小さき虫
拡大鏡眉間がふっと楽になる
必死で思い出しているこれも老い防止

大阪市 大治 重信

おばんにはおばんの流儀ございます
逃道のない二人になって金婚日
言い訳を繰り返してきた蔦紅葉
寒くても独り占めして冬星座
忘年会忘れたきことお過ぎる

大阪市 奥村 五月

三箇日少し控えた妻小言
審判も最後はテレビ多数決
米寿まで認知も無いが金も無い
クリスマスどうしているのお坊さん
貯金残タバコ止めても増えもせず

大阪市 小野 雅美

振り向けば後ろ姿が跳ねている
命日が近づく母の服纏う
経歴はもう問わぬあなたはあなた
明日へのステップ過去を継ぎ足して
振り出しに戻る勇気を試される

気分転換機の上の配置換え
新聞の切り抜きすべてエイと捨て
パンひとつ友と半分味が倍
オーケストラに娘付き添いクリスマス
一月二日夫の命日子等が来る

大阪市 金川 宣子

いち早く春の芽生えを待っている
福袋ゲットで見せる底力
重ね着も懐までは届かない
年賀状温い言葉が書き連ね
脳トレに辞書を携え五七五

大阪市 川端 一步

もう少し役に立ちたいなと思う
嬉しい日雨の色まで美しい
歩を合わす孫の気配り嬉しくて
B面のボクの特技は眠ること
百兆の予算の行方気にかかる

大阪市 古今堂 蕉子

問いつめて心にやけど負いました
アルバム整理過去を旅しただけだった
あの笑顔あの声 友の死が痛い
一言が多い夫婦の頭脳戦
平凡な日々にもあった愛や狂

大阪市 近藤 正

土砂投入破れかぶれで意地を張る

猪の年は政治が動く潮目どき

あの時が私の転機だったかも

難局をくぐり抜けつつ早や傘寿

追いつまれ改憲の夢遠くなる

大阪市 坂 裕之

お詣りは家族揃って太鼓橋

良い事が有ったお札の絵馬を書く

この歳で仕事の出来る有難さ

降る雪に心弾ませ孫が来る

面付けて生きてるような人が居る

大阪市 高杉 力

タイ赴任クリスマスでも半袖だ

なんでやろそのやさしさの裏を読む

リーダーの色がチームの色となり

幸せの形いろいろあるのです

ミステリーツアーの宿を予測する

大阪市 高杉 千歩

歩くのを忘れた千歩を叱咤する

大阪マラソン一しよに走るベッド

老人ホーム無言の行二十四時

三食昼寝歩くこと忘れ

やっとなつとの一昨日喰べました

大阪市 田中 廣子

姪の兄に元氣をもらおうお正月

震災も語りつがれる年月に

囲碁界も可愛い娘幕開けだ

腰かばい夕餉の支度合わせだ

計画の半分出来れば上機嫌

大阪市 田中 ゆみ子

お雑煮をいただきました日本晴

新米の一粒毎に父の汗

心にも肌にも乾燥注意報

祖母になった光る薔薇の芽牡丹の芽

出直すに遅いことなし顔洗う

大阪市 津村 志華子

苔むした亀はガッツで生きている

肉食が好きでもりもり卒寿とや

終章の果てまで欲は付きまとう

転ぶなよ転ぶなよとて亡母の声

母は子を子は母思うおぼろ月

大阪市 寺井 弘子

でこはこの出発でしたと老いふたり

リハビリへ明るい色の服を選ぶ

ふところ工合口に出そうか言うまいか

病む友と歩幅合わせる試歩の杖

明朗な妻のタクトに踊らされ

大阪市 原田 すみ子

待つ人の彩で灯った窓ばかり
デパートとスーパ―財布を変え
自己暗示笑って難を寄せ付けず

粗方は散って裸木腰据える
出ぬ名前思い出すまで小半日

大阪市 平井 美智子

淋しさを奏でる冬の金魚鉢
破ろうと決めた約束抱いて寝る

変化球ポトリと神に試される
デザートはみかん 賑やかだった頃

大阪市 平賀 国和

めでたくも家族が増えて春迎え
亥の年に期するものあり年男

護王神社のイノシシ拌む年男
大阪城異国語の中散歩する

大阪市 藤原 千恵子

新元号も平和志向であつて欲し
一日に一ヶ所ずつの大掃除

新年の準備まあるく納めとく
おばちゃんが集い静かな年忘れ
映画館にもプレミアシートあつたんだ

ゴミ箱に捨てたダイヤはゴミになる

大阪市 升成 好

今日洗う明日はいつでも白い画布
ムンク展私も叫びそうになる

もう何も見えなくなつた有頂天
物忘れ老人力がついて来た
ゆるまない男結びの父の自負

大阪市 吉内 夕カ子

笑い合う同じ大吉よめ私
婆ちゃんと正月したさに休暇取り

同志こそ逢うて嬉しい新年会
逢うだけで嬉しい声に目がうるみ
また逢おな帰り挨拶気が若い

堺市 奥時 雄

お屠蘇からまた日本酒に逆戻り
雪便り浪速の冬は有難い

ふる里は海から雪が舞い上がる
タイヤチェーン錆びてとごろを巻いている
タコ焼きもおでんも作らなくなつた

堺市 柿花 和夫

終電車未練ひとつを積み残す
はじめての寒行らしい声の張り

無粋な男ソフトクリーム舐めている
もやい綱解いて心の旅に出る
時時は自分を信じます私

初夢は被災地に行きポランテイヤ
孝行をせよと孫には教えてる

堺市 加島 由一

寒いのもいいと思わず寒椿
紅白をビデオに撮って忘れてた

夕焼けが美し過ぎて胸騒ぎ

堺市 源田 八千代

健康長寿のお守りも有り初詣で

古稀過ぎて猪突猛進とは行かず
励ましとなるか思案のメッセージ

彼の世でも四方山話に花が咲く
水仙と蠟梅香る庭に佇つ

堺市 齋藤 さくら

初詣で着物姿を見かけない

年賀状来ない友達しみじみと
一日を大事にしよう古希過ぎて

母さんに感謝してると水臭い
夫より長生きする気スクワット

堺市 坂上 淳司

天気図は縦編戌の大晦日

大寒波抜け穏やかな亥年春
家族寄り祝う御節は娘作

和装する女性いかにも初句会
来年はきつと貰うぞ皆勤賞

母の句を見ると重なる亡母のこと
巻き紙の香りに畳む母の影

全員集合乾杯だけの父の役
七草粥ふしぎよく合うレモン一滴

寒の空満月もよし星もよし

堺市 遠山 唯教

亥のはるに虎視眈眈と立ち向かう

親にしてやれないことをして貰い
せめてもと祈るくらしがまだ続く

友が逝くひとりぼっちはたくさんだ
口髭の存在感がひとり酌む

堺市 内藤 憲彦

新元号一步踏み出すチャンスです

当り前の顔して猫に跨がれる
雛まつり妻は少女を失わず

元気が出るまで上を向いて歩く
信じれば道が不思議と見えてくる

堺市 矢倉 五月

大丈夫元氣と起床時の呪文

パワフルな友にもあった泣きどころ
好きですと伝えた後の不整脈

ようはしゃぐきつと淋しかったのね
心ならずも体が不義理するのです

池田市 栗田久子

猛進の前に開ける野は洋々
健康で暮らせるならばそれでもう
少子化の新成人に待つ期待
新元号へ思い巡らせ待つわたし
断崖は海風水仙のたより

茨木市 島田誠一

寒風の街にほっこりおでんの香
便利さの裏に潜んだハイリスク
あの追求どこへ閉会後の野党
せかせかと近道探すウォーキング
他人事で無い念仏も辞世句も

貝塚市 石田ひろ子

数え年さて幾つかと考える
年末年始嵐を呼んだ孫一家
正月の疲れも消えておでん鍋
厭な事すぐに忘れるのが特技
病む話弾んで午後のティータイム

河内長野市 大島ともこ

突き抜ける青空の下点になる
真っ向勝負けして使わぬ色眼鏡
すぐ弾む単純おきゃん生まれつき
独りが好き皆といるのはもつと好き
肩肘張らず浮世の旅は自分流

河内長野市 梶原弘光

後期入りその日来し方振り返る
金銀銅よりも僕には天地人
値切れるかどうか踏まえて店内へ
告白にビリケンさんを立ち会わせ
天敵の破顔一笑には参る

河内長野市 木見谷孝代

年初めハードル少しだけ上げる
時どきのヒットが生きる糧になる
ジョーカーの生かしどころが試される
猪の土鈴のんびり行けと言っている
守られてきたこれからは守る番

河内長野市 黒岩靖博

福の神招いて祝う寝正月
歳とって雑煮が好きになりました
暖冬も鍋一色になるらしい
心齋橋がインパウンドに占拠され
百均の衝動買いで憂さ晴らす

河内長野市 辻村ヒロ

腕白な息子も嫁の手の平に
神様も四苦八苦する絵馬の文字
ゴミ出し日近所の安否確かめる
べらべらとお喋り脳が若返る
娘から貰って照れたお年玉

河内長野市 藤塚克三

退院日眩しい空に湧く希望

何しても埒が明かずに酒にする

持て余す老いてキラキラ欲の皮

おむつ揃え笑顔眩しいマタニティー

震度3閤に手探り妻捜す

河内長野市 村上直樹

今は夢ジルバで妻を振り回す

緩急自在老騎支える妻の鞭

タイスツきりりと孫の鹿島立ち

その昔扱いた部下に扱かれる

既成概念破れば描ける未来地図

河内長野市 森田旅人

和やかに平成バンザイと皇居

三代の雛ならべたと母ひとり

雛たちに場所をとられてカフエ無聊

仮の宿この世の旅を楽しまん

離陸音翼の生えてくるわたし

河内長野市 山岡富美子

牡丹雪はらりと春の巻頭に

AIの時代へ手探りの八十路

戦友になってしまった皺と染み

自分との戦に処方箋はない
足元にあつたわたしの不発弾

河内長野市 山室光弘

選択肢増えるばかりの迷い道

悔いのない覚悟が凜と宿る胸

天国か地獄か裁き腹くくる

したい事全てリセット過去を消す

無理をせずスカタンもせず無事名馬

岸和田市 岩佐ダン吉

一塊の土壮大なドラマ生む

時どきは素顔のまま生きている

手を上げる声なき声と言わさない

悴む手核ゼロ署名一筆を

直線が一番近いと思つてた

岸和田市 宮野みつ江

添えられた一句の春を呼ぶ賀状

チラチラと雪淋しさを足しに来る

ラインでもメールでもいい欲しい夜

口紅を買う春を迎えにちよつと跳ぶ

願いごと多くて絵馬の白いまま

人生論猫に語つて家出され

今日もまた貴方の影を追っている

エステして心とからだ解きほぐす

年金を潤らす少子の空っ風

人情味薄れなんだか生きにくい

岸和田市 雪本珠子

四條畷市 吉岡 修

そこまでは薬そこからお酒です

ここからは土足敵禁夢の城

肩書きの軽いおかげで首つなく

お茶の間の一人なによりリフレッシェ

スッポンも食べたが役にたたなんだ

吹田市 木下 敏子

我が家にも春が来ました孫が来て

春だよと教えてくれた庭の梅

たんぼぼの丸く咲いてる踏まれても

お喋りをしながら歩く友が居る

食卓に今朝は一輪紅椿

吹田市 須磨 活恵

如月の風に負けるな冬帽子

落椿芯の強さをそのままに

花束をより花束にするカスミ草

冬うらら野良猫二匹ひなたぼこ

もうすでに時代おくれの私です

吹田市 野下 之男

大統領アメリカがお気に入りに

簡単に射撃リーダーよく見てね

大物もまさかと思う再逮捕

奥様の手にぎる総理やさしいね

カラス達議題が無いかすぐ解散

高槻市 指宿 千枝子

澄み渡る天に諭吉の言葉あり

草花と心がかようお元日

一步一步大事に生きる歳になり

瓜坊に元気をもらう傘寿です

バス電車乗り継ぎ友と初ランチ

高槻市 片山 かずお

五十年の夫婦寡黙でことが足り

順番で採めたら歳の順にする

厳しいと鬼と呼ばれることになる

レンジでチンレンジ料理というらしい

黒はボク赤は妻です予定表

高槻市 島田 千鶴子

雪雪雪冬將軍は本気です

落ちてなおボツと咲いてる白椿

子も孫も帰りふたりの鏡割り

微調整しながら今日も元氣です

凜として卒寿の叔母は茶の湯の師

高槻市 初代 正彦

陽を浴びて未来へ萌えるつぶらな目

一〇〇歳へ生きるつもり登山靴

安全パイどうやら僕のことらしい

トビウオのジャンプ羨む雑魚の群れ

平成が終るレジエンドが退く

被災者の高さで話す両陛下

大相撲欲しい横綱の存在感

幸せを支える母の存在感

ライバルと競う棒グラフの高さ

親友でいつも味方の友が逝き

高槻市 杉本義昭

健康長寿幸せだから他人に言え

健康が我が家の家訓手抜き不可

長寿村脚光浴びる地産地消

習慣病治す見直し先ず朝餉

自慢する時代でもナシ長寿とて

高槻市 富田美義

ほかほかの便座に感謝冬の朝

雪の中五感を溶かす露天風呂

強情な夫の足を支え持つ

ハンカチに包めるほどの夢がある

気配りと嬉しい握手持ち帰る

高槻市 富田保子

ガラクタの中に昭和の生活苦

マイウエイ派閥なんかに加わらず

監視カメラに心の中も覗かれる

スマイルでたいていのことフリーパス

駅伝のたすきに燃えた跡がある

高槻市 原洋志

節酒する決意鈍らすお正月

病院であいさつ交わす年の明け

帰省した人だけ居れば過疎もなく

社長業子に譲ったら老い加速

老老の介護は愛が礎に

高槻市 松岡篤

夢のよう仕事に追われ悩んだ日

家の人仕事仕事とよく遊ぶ

この橋を渡ればきつとある灯り

お出でをされ渡るの止めて目が覚める

輝かしい成人式の孫眩し

高槻市 安田忠子

ごまめ煎る猫が味見にやって来る

黒豆も今日でおしまい小正月

猛進は致しません走ります

肩凝りを知らぬ貴方に申します

還暦になって投げたい豪速球

豊中市 池田純子

妻とつく平成閉じる除夜の鐘

ジングルベル聞いて心も走り出す

立ち漕ぎで坂の向こうの雲を追う

年老いてみんなが願うピンコロリ

文春に大臣の椅子蹴飛ばされ

豊中市 上出修

豊中市 藤井則彦

あるがままの自分をさらけ出す勇氣
ほどほどにしてると晴れてゆく余生

良いことがあると信じて聞くお経

メモとると余計に忘れやすくなる

新元号で少しは変わるはずの僕

豊中市 松尾美智代

背筋伸ばし古希から喜寿の橋向かう

初詣で初雪を見た多賀大社

一年間のご褒美嬉し皆勤賞

去年のと二枚並べて笑ってる

朝焼けの見事ベランダから拝む

富田林市 片岡智恵子

窓ガラス拭けば大空近くなり

生きのびて友ひとり増え二人減り

老いてまだ画布書き残す事ばかり

落とし所考えて返事しておく

初発電車で初釜参加若かりし

富田林市 関よしみ

紅のちよろぎの渦は祝長寿

延命を断りらしく生きた人

曲がる事知らぬ私は楷書好き

豆撒きに福は内だけ言うわが家

人間は恐いと鬼が豆をまく

富田林市 中崎深雪

この痛み我が生き様の罰なのか

「痛むのね」優しく擦るヘルパーさん

医者薬よりよく効いた優しい手

顔見てよ話聞いてよお医者さま

折るようおもねるように医者に問う

富田林市 中村恵

一瞬の現この世は玉手箱

ひたすらに信用だけを積んでいる

ちゃっかりのポケットの中見てしまふ

劳いの言葉素直に受け介護

たっぶりの笑顔で棘を抜いている

富田林市 山野寿之

真後ろの死角を守る影法師

ポケットが一人になってから寒い

微力だが傘寿の力ポランティア

平凡が幸せなのにまだ不満

ほっこりと優しい愛を置いて去ぬ

寝屋川市 籠島恵子

玉子かけご飯と決めた帰り道

昨日会った人からお誘いのハガキ

一番という響きが頭から取れぬ

チョコレートに「母の薬」と書いておく

クラゲから金魚に孫のスイミング

寝屋川市 伊達郁夫

夢詰めた風船だけは放さない
惚れたかな足し算ばかりしてしまふ
割り箸を割って決心つきました
愚痴溶かす猪口が今夜も離せない
冬の便座この冷たさが堪らない

寝屋川市 富山ルイ子

震災日一病持って来た米寿
六十九息子元気でパイロット
それぞれに皆おだやかに暮らしてる
私には過ぎた家族でありがたい
和やかに母は百寿を祝われた

寝屋川市 平松かすみ

恒例の甘酒提げて行く句会
甘酒のファンが多く居て感謝
お年玉今年も孫に貰ったよ
転がったボールの相手して上げる
頼もしい孫のアンテナ長くなり

羽曳野市 安芸田泰子

坪庭が薄化粧した細雪
齢一つ積んで背中が尚曲がる
運という後押しもあり花開く
土産買うために来たのか妻の旅
古筆筒若い私が眠ってる

羽曳野市 宇都宮ちづる

入院の夫に届ける節少し
レシビ見て帰省の孫の好む食
七草粥いやがる孫に食べさせる
帰省の娘等見送りあとはダウンする
娘等が来て断捨離弾み物寂し

羽曳野市 徳山みつこ

百までの元気を猪に託す
どうあるうとも安全はない再稼働
空転の補償残るはローンだけ
わが国の総理不信という不幸
櫛うけ感謝を忘れずに走る

羽曳野市 中川ひろ介

恵比須さん韋駄天走り福を撒く
変幻自在おでん沢庵ぶり大根
句碑の山一字一句にある矜持
避難所に犬連れて来た外人さん
自治会の夜回り外人来てくれた

羽曳野市 藤原大子

すつきりと明日への準備冬木立
前向きの言葉見つけて前を向く
10億円より健やかを願う歳
勝つ為に鉄剤注射とは哀れ
思い出しっこクイズのように老い二人

羽曳野市 三好専平

はったりとべんちゃら相手に使いわけ

ロボットにみんな任せて昼寝をし

布袋さんすこしも痩せぬ天王寺

マスコミが悪いと怒鳴る独裁者

臭い球投げて気を抜く大投手

羽曳野市 吉村久仁雄

橋のたもとまで二人渡るの一人

落ち込めばみつをみすゞの声を聞く

忍者のようにドロロンと消えて逝きましよう

四季の花病母を笑顔にしてくれた

僕だって甘く切ない過去がある

東大阪市 北村賢子

成人式同じ晴れ着で娘も孫も

春めいた空へジャンプをするところ

趣味の会寧ろ楽しいのはその後

車椅子の人のオシヤレなイアリング

まだ生きる新元号へ組むプラン

東大阪市 佐々木満作

したたかに昭和平成生き抜いた

男の歩紆余曲折を乗り越えて

フルムーン列島制覇目差してる

出世と家庭サラリーマンは辛いもの

ルーティーン出来なくなつて来た齢

枚方市 丹後屋肇

丹頂鶴のダンス スマホが待ち受ける

満身創痕月桂冠に癒される

浪花節漏れ出る露天風呂の隅

その眉毛とてほしい阿修羅像

天空城趾登れば霧に閉ざされる

枚方市 二宮山久

老いなどに負けてなるかとウォーキング

募金して平和を願う青い空

ふる里の沿線たどる花ごよみ

人生を生き抜く鍵は妻が持ち

幸せをつかむ確かな汗をかか

枚方市 二宮紫鳳

穏やかな日々で埋めたい初日記

しなやかさ秘めて猛進年女

伸びやかに生きて平成締めくくる

勝利へのチャンスをくれたオフタイム

一枚の賀状でつなぐ友がいる

枚方市 藤村亜成

氾濫する愛に叛乱されるだろう

愛の密林さ迷っている孤狼

流行歌愛をばら撒きすぎないか

理解し合えたふたりに小さな虹架かる

反省はしてるがまだまだ懲りてない

枚方市 山口 弘委智

一寸した励まし言葉我が身恥ず
囁りが一樹一樹に春を告げ
ポランティア爽快感を倍にする
句読点足らない分は汗で埋め
足るを知り水の恵みもつい忘れ

藤井寺市 太田 扶美代

靴下を二枚根っから冬嫌い
ひっそりと咲く仕合せを知っている
感謝状夫がくれるかも知れぬ
DNA母の歩いた道を行く
美人に産んで欲しかったけど感謝

藤井寺市 鈴木 いさお

妻は元号派 私は西暦派
ワンカップ空けて迷いを折りたたむ
我慢した自分へ花丸をやろう
ロボットの掌には生命線が無い
どうしても駄目なら振り出しへ戻る

藤井寺市 若松 雅枝

子に電話あの声きつと美人だな
絆着た幼少の父仏壇に
正月は囲炉裏囲んで酒肴
優秀棋士の輩出に沸く順位戦
餅食べる老母を見守る家族の目

松原市 森松 まつお

私には真似の出来ない処世術
十億円当れば月へ行つてやる
パソコンの将棋待ったをしてくれず
この頃は娘に負ける酒の量
電話して出ずメールして返事なし

箕面市 大浦 初音

恙なく過ぎた一日感謝のみ
平均寿命こえればおまけの人生
拾う神あると思つて生きている
人は皆忘れることで生きられる
アケオメにコトヨロメルわかるかな

箕面市 酒井 紀華

甘えるな自分の足で立ちなさい
遠くから父の声するお正月
往復書簡過去を焼き捨て冬の空
一升瓶粹に包んで京の町
男の料理肉ジャガ匂う換気扇

箕面市 出口 セツ子

ゆつたりと明ける独りのお正月
人混みに酔つて疲れる初詣
三回で切れて電話を取りそこね
子の声も聞こえず静かお正月
目移りで満腹になるバイキング

箕面市 広島 巴子

おだやかな年始幸せ感謝する
宇宙まで飛んだか凧を見失う
初夢やうちへは寄らぬ宝船
子がくれたお年玉まず神棚へ
電線に雀楽しげドレミファソ

八尾市 内海 幸生

良い話らしいが声が小さくて
歳だから少し甘えていませんか
咲いてるよ温室育ちの梅なのに
露地の菊ビニール袋を霜除けに
良く効くと認知症薬貰うたけど

八尾市 寺川 はじむ

世渡りへ濡れも渴きもする睫毛
蕎麦食べて八十路の新春へ喝入れる
今日よりも素敵な明日が来るこの世
うやむやも保身術だと言う総理
百歳時代古希は青春ど真ん中

八尾市 宮崎 シマ子

忘れたいあのこと太平洋へ流し込む
茶呑み友欲しいが彼は遠く住む
近所の目に愛あり頼る紅椿
ゴミの日も一人は一人のゴミを出す
よく遊んだベッタタンビー玉かくれんぼ

八尾市 村上 ミツ子

もち食べてないのに目方増えている
かえってこいともう言ってくれぬ山
好きなアナの言葉に元気をもらう
ごはんがうまいダイエツトなど出来ぬ
いよいよの時のお金をためなけりゃ

八尾市 山根 妙子

新聞がずつしり温いお正月
被災地も小さなステップ注連飾り
騙された振りも楽しい孫相手
軍神の父に平成感謝する
一年の計は半年毎に更新を

大阪府 米澤 俣子

百歳時代磨きかけ恋でもするか
筋一本通す加減が難しい
本音など書けないエンディングノート
ドッコイシヨで座りヨイシヨで横になる
貯めている閻魔に渡す袖の下

神戸市 上田 和宏

人生百年きつと僕への応援歌
八十でやつと気付いたことがある
仏さまこんなどころに隠し球
避難所で芽生えた愛の子が二十歳
寒風に燃える松明春を呼ぶ

神戸市 奥澤 洋次郎

せめてもと買う百均の鏡餅
裸木になって世の中透けて見え

歩の運びやとと合わせる八十の路

これじゃまあ有って当然医療ミス

お隣りには勝てそうにない仲の良さ

神戸市 富永 恭子

逢えぬ間に義姉は杖つくようになる

残り火をとろとろ燃やし夫婦旅

喪のハガキ介護ねぎらいながら読む

「ありがとう」老いて変わらぬ義母の声

マンリヨウの赤い実鳥がくれました

神戸市 能勢 利子

家族旅行小二の孫はウツキウキ

旅行中 中一ゲームしてただけ

家族旅行そろそろこれで最後かな

妹に介護頼んで羽伸ばす

旅のため病気はしない怪我しない

神戸市 山口 光久

果てのない介護の旅が始まりぬ

三猿に徹し守ろうマイベース

いざと言う時に恩師の声を聞く

悔しさの残像と酌む縄のれん

背伸びせず自分サイズの暮し向き

神戸市 山口 美穂

おでん鍋先ずお大根の味見して

大勢で囲んだ鍋をふと思ひ

晦そばみなと神戸は汽笛きく

会いたいね賀状に呼ばれ長電話

ひとり雑煮いえ佛さまご一緒に

神戸市 山崎 武彦

ゆるゆるのハンドルこれも生きる道

即吟を急かせるように散る木の葉

タイガース確りしろと蕨の檄

てっぺんに座ると読めぬ風の向き

リハビリの一步を試す向い風

明石市 糺 谷和郎

あれこれと言うがあなたに他意はない

私には真似のできない多様性

モットーは一途朝から攻め立てる

予定のない日は忠敬と行脚する

満員車拾えぬコインそつと踏む

尼崎市 加川 靖鬼

フェルメールの青空の碧海の蒼

免許更新まずは認知のテストから

面影はどこも見当たらない遺影

深海魚に化した不気味なサンングラス

落花生を土に埋めた豆の知恵

指輪跡残る未練の薬指

めがね掛けマスクに帽子顔が無い

朝夕刊届く文化よいつまでも

新元号また遠くなる昭和の灯

返り花狂い咲きではありません

尼崎市 永田紀恵

尼崎市 山田耕治

みんなよく働いた手だクラス会

好きですと弾むボールをわたされる

塾の子の家路をお星様見てる

亡き妻の知らぬ姿で生きている

バイバイの後ひっそりとお正月

川西市 山口不動

鎮魂の旅を続けてサイパンも

皇后をねぎらう声の震えかな

寄り添って六十年の女雛かな

大晦日延命拒否を子に伝え

朝ドラに寒いけれども布田出る

篠山市 北澤稠民

汗キラリいのち燃やしている余生

今日もまた朝の誓いが守れない

冬ごもり野良に出ないとうつになる

豊かさの中に汚れて行く心

昭和史を力いっぱい生きてきた

過去を持つ男の顔をして笑う

四捨五入大事なものを見失う

正月に自動ピアノが鳴る茶店

大層な夢は捨てても生きられる

いつに無くやさしい妻がお見送り

篠山市 酒井健二

篠山市 酒井真由

ガラス吹く男と女外は吹雪

ひっそりと生きる美しい素顔

涼しげな目元気立てがよいという

遠ざかる尾灯月夜のサスペンス

星空がきれいな卑弥呼のデスマスク

三田市 足立つな子

宝くじ寄付のつもりで買っている

悔やんでも人生歩むもう少し

変貌の赴任地めぐり懐かしむ

馬鹿な女も男しだいでのはほん

病癒え私を照らす冴えた月

三田市 上田ひとみ

年齢がとても愛しくなってきた

時間ならタップリあったはずですが

どうしてもどうしようから抜け出せぬ

私を丸ごと好きなこの私

言い訳も尽きてシナリオ書き直す

孝行に旅行を兼ねて寺参り

三田市 尾崎 一子

すっかり親父亡父のころ継ぐしぐさ

皆揃う母のおせちに祝いばし

それぞれに家あり子あり皆帰る

皆帰りしあわせ滲む初視

三田市 北野 哲男

凶減らし大吉増やす神の技

未采へのヒント落ちてる子供部屋

二人して一人前とダイヤ婚

聞こえたら仏赤面する弔辞

マイカーの希望ナンバー五七五

三田市 久保田 千代

めでたさは酒と賀状の三ヶ日

どんな句を書くのか新しい手帳

この人と幾星霜の春を酌む

初日浴びあすへわが影生まれくる

十二支のラストランナー頼もしい

三田市 多田 雅尚

元氣だと知らせるだけの年賀状

原因は直ぐに加齢と言うお医者

生産者に迷惑な名の林檎病

霊長類など呼ばせたくない榮譽賞

ジャンケンも最初はグーと呼吸みる

脳からの指令足腰無視をする

もう誰の指図も受けぬ酔っ払い

ロボットが指図する日も遠くない

年金が指を啜えているハワイ

栄転と言われたけれど無人駅

三田市 野口 真桜子

尾ひれにはピンクの話酒宴盛る

痛告知妻は保険が出る安堵

豊かさはほら足元の霜の音

せめて笑うキミマロを聞く停滞中

路地裏にサンマが匂う特価日だ

三田市 福田 好文

一つ屋根目線合わせぬ反抗期

蒲焼きの味を知らずに孫育つ

よく噛めば僕にだって味が出る

並んでも可愛い子から買うみくじ

また一人机並べた友が逝く

三田市 堀 正和

書初めへ床の間の軸入れ替り

三代の天皇仰ぐ幸といふ

日本を災の一字が振り回す

四島だまず二島だと半世紀

三が日許してあげるゲーム漬け

三田市 村田 博

押しくら饅頭仲間いなくてただ寒い

人だかりついつい覗く好奇心

賽の目の気紛れ僕を悩ませる

段取りを済ませ梯子を外される

お正月瀬戸の小島の蜜柑買う

高砂市 松尾 柳右子

いたわりにどっぷり浸る年女

お見舞に行き一泊になる八十路

娘から息子にバトン往き帰り

三姉妹揃うて孫はカメラマン

ストレスを感じぬ老後デイ四日

宝塚市 丸山 孔一

新しく仔犬の買えぬ歳になり

枯れ果てた鉢にもそっと水を遣る

終活の名簿の友が先に逝く

手放した筈の小鳥が舞い戻る

傷何処も無くて多発筋痛症

西宮市 秋元 てる

君ももう故郷の文字に弱いのか

恋愛はそんなものさと中二孫

お互いに弱さ晒して生き抜いた

親切の押売り笑って受きる年齢

苦も楽もあつけらかんと生き白寿

西宮市 緒方 美津子

今年の願い災の文字福となれ

着ぶくれた人の隣は掛けにくい

探り合いしてまた楽し酒を注ぐ

ロソクは増えてケーキは小さくなり

たくましまや下水の蓋に春を見た

西宮市 亀岡 哲子

澄み渡る空だ日の出だスタートだ

老犬が主役となった年賀状

茶柱も立たぬ一人のティーバッグ

あやふやな英語へ日本語が返る

スマホには勝てぬが電子辞書がある

西宮市 福島 弘子

初対面自信たつぷり苦手だな

墓参り雪うつすらと鳥の声

うちだけになってしまった七五三飾

お守りしてくれた娘を見直した

来し方の思いを刻む老母の皺

西宮市 福田 正彦

向き合ってトゲを抜き合う平和論

万歩計主人の病いかかえてる

なぜ急ぐゆっくり行こう余生だよ

送られたマフラー愛がまといつく

福男私生活が暴かれる

西脇市 七反田 順子

さてさてと四方八方神おわす

休火山マグマブクブク言うている

なんたつて神戸の夜景ひけとらぬ

とうとうと灯をとすムンク展

ホコホコと自家製パンが出来上り

南あわじ市 萩原 狸月

帰省して振り子時計の音と寝る

人情の殊更沁みる年の暮

今更に歳意識して屠蘇を酌む

深刻な顔見当らぬ初詣

氏神に世界平和は荷が重い

奈良市 阿部 紀子

民生の委員その後のものがたり

老爺会う元気でっせ生きてまっせ

ワンマンが妻を亡くしてしょんぼりと

ホーム行き念願ピアノ弾けた老婦

クリスマスソング伴奏嬉しそう

奈良市 宇賀史 郎

履歴書は紆余曲折を簡条書き

見目姿気立てを褒めて頼み事

彼女となら抜け出せそうだバラサイト

ハイタッチハグをしている老人会

跳ね返り金髪ピアス手にタツ

奈良市 大久保 眞澄

この店は花まるトイレがピカピカ

楽な方へ流れる家事もウエストも

結局はネズミも引つ越した豊洲

鼻メガネ昔は美男美女だった

事情通が微妙に笑いながら来る

奈良市 高橋 敬子

プラスチック土に還れず海に浮く

風消えた初春の空雲遊ぶ

使い方しよっちゅう忘れ聞くスマホ

亥の絵馬の準備に揺れる緋の袴

ロープウエーでアルプスの峰一望に

奈良市 山本 昌代

あほやもんくじけそうでもくじけない

ひざ痛も消えて眉間のシワも消え

重くなるグルグルと腕と首

クルリクルリ何か見つけたハトの首

ホツとして感情線も晴れてくる

奈良市 米田 恭昌

異国語に取り囲まれた初詣

品行方正いつも一人で浮いている

帰省車輛こころ和ます国訛

じゃじゃ馬もさすがに師走主婦となる

猪突猛進そんな昔を懐かしむ

生駒市 飛 永 ぶりこ

石仏のオーラ私が改まる

石仏がくよくよするな お達しが

やんわりの底に折れない棘があり

年女恋のカーブは心して

ツアー中まあるい座から打ち解ける

香芝市 大 内 朝 子

晩成へまだわたしにも可能性

冬の蚊にガンバレコールするひとり

オハヨウと鳴くカラスいて返事する

腹括る白馬の王子もう来ない

美しい夫婦の姿両陛下

桜井市 安 土 理 恵

クレヨンが走る孫の夢走る

紅一点ほどほどいける口がいい

その川はいつかあなたと渡る川

ステップバイステップ杖もいっしょにいくデート

帰らねばやがて氷雨も雪になる

奈良県 谷 川 憲

参詣道ふと横見れば猪の親子

陽だまりに妻の手塩の花あふれ

台風の傷痕癒えぬ冬木立

老犬に大丈夫かと見上げられ

町工場世界に通ず技を持つ

奈良県 長谷川 崇 明

米中の対話の裏に抱く火種

野次ったり居眠りしても多数決

トンネルをいくつ抜けたかこの命

人間の弱味噂が気にかかり

夢抱きひとり旅立つ青春譜

奈良県 渡 辺 富 子

木の実ばとり明日のいのち予約する

喜怒哀楽つり合い取って生きのびる

思いきり破調の弦をかき鳴らす

身の内の尖りを消した風の向き

この世の憂さ積んだ小舟が沖へ向く

和歌山市 磯 部 義 雄

参加者が増えて足りない祝い酒

元号が変わる変わらぬ我が暮らし

元号を占っている初日の出

蟻の列耳を澄ませば労働歌

AIを喜ぶべきか高齢者

和歌山市 上 田 紀 子

時どきはマグマのように吐く本音

着メロにその人らしさ醸し出す

生きてゆくパワー太陽大地から

ぬるま湯に浸り明日を見失う

神様よ今もあなたは幸せか

和歌山市 坂部 紀久子

目度さを詰め冷蔵庫年を越す
カレンダーはずす一年の重さよ
米寿ですさあこれからを咲かす花
度の過ぎた親切水やり過ぎた花
生きのびた蚊だ叩かずに追い払う

和歌山市 武本 碧

新元号十連休で祝う国
まだまだがいよいよになるとっこいしょ
バラ色になった知恵の輪解けてから
思い出をたたむ扉が締まらない
一日をたたむ夕陽にありがとう

和歌山市 土屋 起世子

誰も往ぬ無人駅舎に松飾り
子沢山援助のつもりお年玉
福引券ポッケの中で期限切れ
長所だけ見つめて絆太くする
句会の日ごみの日だけのカレンダー

和歌山市 福井 菜摘

ふんざりがついて歩幅が広くなり
自我ひとつ畳めば坂も楽になり
たいていの事はおお目に見ることに
寄り添えば同じ思いの歩が揃い
良く笑い運命線を太くする

和歌山市 古久保 和子

甘露甘露朝一杯の水の味
雑巾になる日の覚悟出来ている
飼い主が似たのかベット似てきたか
時時はシッポもツノも生えてくる
頭よりハートで答出すことに

和歌山市 堀 富美子

永らえて初春の五体を締め直す
よき時代孫の婚殿かいがいし
ポジションを弁えている傘寿坂
翔べば金籠もれば呆けと綱を引く
家中が私と同じ息をする

和歌山市 松原 寿子

ひと目ごと民話編み込む毛糸玉
試作する手料理孤独遠ざける
寄りそうは野に咲く花で満ち足りる
周波数びつたり合った家族の輪
鳩尾のあたりに雪が降り積もる

岩出市 藤原 ほか

新年が明けても年賀届かない
御来光ありがたく受け歩き出す
御来光すべての人を照らして
すんなりと子育て終ることはない
子の言葉すんなり聞けぬ我が身です

海南省 小谷小雪

ぼたん雪と春の隣を持ち帰る
ばあちゃんになつて童女の仲間入り
魚眼レンズで探す最短コース
あと一人だけなら席はありますか
近道も知っていますが回り道

海南省 堂上泰女
サンセット ドヴォルザークが幕を引く

電話来る時間で誰かすぐ分かる
次次咲いて嬉しがらせる福寿草
正月の花は自前の庭に咲く
賀状読む創意工夫に満ちし子の

紀の川市 楠原富香

血の濃さの煩わしさに狼狽える
夕焼けの向こうで延びている命
不本意ながら子供に合わせ生きている
悲しみの涙も乾く形見分け
七色をたつぷり使ういい余生

紀の川市 山東日出男

早起きのカラスも拜む御来光
甘かった自分を恥じるキリギリス
新雪に弾けるシユプールのロンド
太古の海で命の素が出来上がる
限界を知らない世界新記録

橋本市 石田隆彦

据え膳に朝湯朝酒こんな贅
円満な夫婦の糸は蝶結び
団塊に合うブルースと反戦歌
黄泉の国定時の船で行く予定
タコ焼きはさすが大阪大衆派

京都市 藤井文代

老化に不安抱けば葉増えるだけ
言うよりも聞いた失言流しとく
永田町には絶対居ない閻魔さま
わくわくよりはがゆい思い虎ファン
自己アピールしないとわたし気化しそう

長岡京市 山田葉子

今日出来たことが明日も出来るかな
ペットロス風が匂いをもてあそぶ
自己流の仙人暮らし子が笑う
梅の蕾並び咲くのを待っている
立木山もう登れなくなりました

松江市 藤井寿代

平成のスマホが生んだのつべらぼう
いつか来る介護の海に溺れそう
アンダーライン引くと私が消えていた
夕焼けの真ん中光るケアハウス
冬空に四季を失くしたぼたん咲く

松江市 松本 知恵子

真つ直ぐに行かねば迷い多すぎる
さざんかが咲いても焚火見当たらず
乱れては餌場へ行けぬ鴨の列
鳥が食う赤い実減らぬ温い冬
小雪降る庭の赤い実ぐつと減る

松江市 松本文子

白鳥に逢いに自転車走らせる
線引きをされ悠々と生きられる
先ず一杯水飲んでから走り出す
人は人 今年は今 自分流
何をしようと時計はまわる夜が来る

出雲市 伊藤 玲峰

「越天楽」の調べを聴いてバスを待つ
おおらかに多病息災背の縮み
なつてみたいあのほろ酔いを私にも
木の葉髪ほっこりさせるヘアピース
負けた日本努力の平和崩すまい

出雲市 岸 桂子

子を杖にすがって登る米寿坂
はじめある日本の四季が狂い出す
他人には見せない顔が家にある
亡母が残したメモが今頃役に立つ
神さまに時々嘘をついている

雲南市 菅田 かつ子

連れ合いのお供で今日も医者通い
愛らしく並んで待つてるお年玉
初日の出ただエプロンをニューにして
仕事中孫の顔見に途中下車
もの忘れ人並だとかほつとさせ

鳥根県 伊藤 寿美

成る程と希林語録を読んでいる
振り向けば消したい冬の章がある
仏間から「お帰り」の声灯を点ける
終章は夕焼け色に染まりたい
古里はビルより高い城がある

岡山市 丹下 凱夫

跨線橋の四五十人に初日の出
初鴉用事あつてもなかつても
一月二日というめでたさもありにけり
束子かも知れない僕のヒストリー
鈍らな人間だから打ち直す

岡山市 永見 心咲

かぶれると知って漆の葉に触れる
消したのに私の中で影になる
根雪ゆるゆるもう告白をしろと言う
ピラカンサ私に似合う彩は真紅
哀しみの波低くあれ寒桜

岡山市 前田 恵美子
いつまでも注射こわくて目をつぶる

夫という分身の術十二月

平成はよく動いたと我が身誉め

紅つけてちよっとおしゃれに公民館

お正月孫はかならず顔見せる

笠岡市 藤井 智史

婚活のトライアウトで生き残り

未知数な回転ドアの四季に住む

穴杓子掬い残ったのは愛だ

生き方を覚えて死に方を忘れ

両翼を作る私のミニ句集

岡山市 高岡 茂子

元旦雑煮二日ピザ餅新年や

一年の計ジャンボはずれてやり直し

手作りのおせちの重はずぐに空

起こしてみる冬眠させている和服

喪中です飼ってた猫が死にました

岡山市 田中 恵

初恋のときめき胸に吊っている

せせらぎのリズムに乗っている歩幅

割烹着のパワーで今日を乗り越える

素人が主治医のような事を言う

紅椿あつめてシャボン玉飛ばす

岡山市 紫 しめの

使い捨て出来ぬハンカチ持て余す

マイ箸とマイストローが世を救う

正論を吐けばしつぺい返し来る

花火でも上げるか娘戻り来る

運命に逆らえなくて君と居る

岡山市 山縣 のぶ子

頼りなく見えてばあちゃんよく笑う

ばあちゃんの昔話を待つ炬燵

はや五年亡夫のバジヤマ心地いい

泡飛ばし喧嘩も楽し兄がいた

イチゴ大福かぶれば冬が満ちてくる

竹原市 石原 淑子

紅梅が咲いた咲いたと黄帽子

風にのる平和が好きな奴風

倅せを家族にエール昼の月

おみくじの大吉胸に孫受験

希望校十五の春の雛かざる

竹原市 岩本 笑子

古里の蕾は固いままでもよし

今日も飲む薬自分を誉めるため

川柳を杖に句会へ足運ぶ

青春を走る箱根の春そこに

みかんと炬燵一日の長いこと

三原市 鳴田昭紀

雀つても雀つても欲が蔓延る

川柳と共に楽しく黄昏れる

老人の形になっていく背中

常識の壁を若さが突き破る

弁解をするたび止まらない欠伸

岩国市 上村夢香

今年また笑顔あふれる初句会

初詣陽を浴びながら坂登る

急ブレーキ猫のスピードはつとずる

チコちゃんに叱ってほしい永田町

「ていねいな説明」今は信じない

宇部市 平田実男

川柳をサブリメントにして米寿

川柳と俳句垣根が低くなる

逃げ道も抜け道もある永田町

句を添えた賀状待っててくれる友

心まで埋め立てられぬ基地の海

下松市 有海静枝

破裂せよ不運いっばい食った毬

邪魔ですが曲がらないのよ自尊心

前を向け笑いとばして蹴とばして

耐えるより術がないのかねえ 亀よ

眠りから覚めたら浄化して朝陽

防府市 坂本加代

吹きだまり肩寄せあつてあたたかい

世界中新年になる仲間です

位牌には雲が並んだ父母がいる

風を見て野焼きを決める思いやり

本心を隠して添っておだやかに

鳥取市 池澤大鯨

スキージャンプ滞空時間永遠に

御御御付三つ葉ふわりと浮かせてる

かすかだが燻製ガマの香が届き

うたたねの孫に毛布を一枚かけ

寝不足が有明の月眺めてる

鳥取市 奥田由美

断捨離の熱意が消えた退院後

存続の嘆願に乗る路線バス

紅白歌合戦中の睡魔持ち去る除夜の鐘

帰省客が無いから猫と寝正月

歯が立たぬ嫁とのバトル不戦勝

鳥取市 加藤茶人

良い言葉大器晩成かも知れぬ

答えなら出ている視点変えて見る

何事も笑いですます三枚目

知らぬのが良い事もある子のサンタ

引き立ててなんぼの役目月見草

鳥取市 岸 本 孝 子

願い事ひとつと決めて鈴を振る

大掃除手抜きをしても気にならず

脇見など出来ぬ猪年の女です

あかぎれで血の滲む手の亡母だった

末席の酒が一番性に合い

鳥取市 坂 本 とも 湖

少子化でイノシシ親子活気づく

平成は輝く元氣儲けたよ

月夜の湯夜空と語りあんどする

ロケットが汗とはなにか聞いてくる

野菜市場消費者の目と声響く

鳥取市 田 中 天 翔

幸先のいい字にしたい亥の年は

元朝の空気がっぱり違います

身体中の螺子が緩んで外れそう

目の前のことは受け入れざるを得ん

見え過ぎてごめんなさいを聞き流す

鳥取市 棚 田 大

仏壇に手合わず孫に教えられ

造花見て水がないよと孫叫ぶ

時代かな猪道で会議する

除夜の鐘打つのを忘れ飲んでいる

雪掻きも芸術的にやりたいよ

鳥取市 谷 口 回 春 子

数独が俺の頭脳を弄ぶ

窓越しにじつと俺見るタマとシロ

愚痴小言ストープ囲み花咲かす

年賀状元氣ですかとやってきた

亡夫亡母歟の中に生きかえる

鳥取市 永 原 昌 鼓

挨拶は寒いですねでみな通る

何度汗かいても無理な逆上がり

チョコちゃんに詰めが甘いと叱られる

今日かいた汗は明日の糧となる

白髪染め止めてロマンズグレーです

鳥取市 中 村 金 祥

夢一つ完結したがまだ眠い

仕事始め掃除洗濯老い二人

着地点目指して雲に乗っている

平成の御代が平和で閉じる幸

普段どおりの暮らしを願う初詣

鳥取市 夏 目 一 粹

マイナンバー死ぬまで使う事はない

一〇〇歳を越えて終活棒に振る

禁酒禁煙する人は鬼だろう

死ぬ前にどなた様かと言った父

清濁の濁だけ吞んで慕われる

鳥取市 平尾菜美

貧乏神のお蔭か元氣貼り付いた
守り抜くキッチン姑の城らしい
父の愛知らず遺影を撫で摩り
人生論苦勞柱によく弾む
百歳へ孤独ひたひた迫り来る

鳥取市 福西茶子

陽に干した布団カメムシちゃっかりと
にこやかな笑顔に魔性など見えぬ
我がままなアナタ私が壊れます
削除キー押してないのに記憶消え
鉛筆も口も間違はなく凶器

鳥取市 山下凱柳

ふんぎりはつけた心は青い空
年共に減りゆく賀状友偲ぶ
少子化に生めよ増やせが蘇る
美味い酒飲みたく励む柳の道
新しい御代に私の夢託す

鳥取市 吉田孔美子

剥製も迫力満点の雛
任すのはあなたの明日のためですヨ
任せたんでしょ愚痴はわたしにどうぞ
錨捲くるが未だこれは僕の船
うっとりまったり洗濯物乾く

鳥取市 吉田弘子

孤独と自由たのしさを少しずつ
涙にはさよならしたい三回忌
物忘れ日日進化する独り言
年齢に格差などないお年玉
ウォーキング程よい距離を足が知る

倉吉市 猪川由美子

安倍総理この頃存在がばやけ
頑張った吾を褒めバランスを取る
喜怒哀楽の切り換え早い方が良い
ラジオ聴き声に惚れ惚れ安らげる
疲れ果てビールだんだん不味くなり

倉吉市 牧野芳光

一部屋を片付けただけで正月
運のない男が試す運試し
壁を背にしたら闘志が湧いてくる
恥ずかしいので父の遺影を裏返す
冬が来て山陰らしくなってきた

倉吉市 山中康子

負けて勝つ涙をためているハート
湯タンポと仲の良い足のうらです
オッパイを飲んでるとこは見せません
とても苦手なことを引き受けた嫁
仏様拜まぬと落ち着きません

米子市 後藤 宏之

悪人の私でも言い分はある
夕焼が好き沈むまでながめてる
来世ではもしも会っても雲がくれ
かんじんなどころで支えられていた
生きていくための違反だしようがない

米子市 後藤 美恵子

善人にリセットさせる除夜の鐘
良いリーダーいろんな音をハモらせる
知ら間に痣がついたり薄れたり
児童とのクイズ対決むきになる
不法投棄干上がる池が暴露する

米子市 竹村 紀の治

検診日名前何度も言わされる
図書館で探す自分の仕舞い方
平等にくる人生のゴールイン
聞く人は無いが一応おめでとう
やんわりとお断りするお茶の会

米子市 中原 章子

初詣戦争のないこと折る
災いと縁を切る世の到来を
出る杭を伸ばす戦略素晴らしい
フィクションの恋は楽しいことばかり
前向きという言葉纏れた糸を解く

米子市 成田 雨奇

まだ遊び足りないもつとここに居る
老人会ロマン生まれるかも知れぬ
坂と聞けばなんだかロマン生まれそう
断捨離に内緒の品は後回し
母の日も父の日も子は知らん顔

米子市 吉田 陽子

山一つ掃き切った頃やつと冬
再生の神話をたどる初詣
さざ波を立てる私の惚け防止
パソコンの注意一方的である
淋しくて愛しいものになった過去

鳥取県 石谷 美恵子

四コマへ日々なるほどと教えられ
弾んでも主役になれぬカスミ草
信念を曲げぬ男の背も曲がり
通販で友はいつでも洒落ている
使い捨てできない性も母ゆずり

鳥取県 竹信 照彦

今日亡母の月命日と妻のいう
ご先祖の百回忌寺よりお触れ
墓終いするご時世に百回忌
過疎になる地区に墓守り減るばかり
隣組の世話役をする当り年

鳥取県 松川行男

同人が頑張る時の四季がある
今年こそ泣いて笑って運掘む
町指定ゴミ袋買う釣銭で
募金する出かけその先薬局だ
年末の募金御苦労頭下げ

鳥取県 山下節子

一定の距離間あって仲がよい
重箱に変わるタッパ―便利です
重箱を重ね蒔絵の柄目立つ
過疎の村鳴物入りで嫁むかえ
四コマで終る話の絵の力

松山市 栗田忠士

骨になっても命が宿る喉ほとけ
枯野から枯野へ父は迎るのか
プライドを捨てるとただの木偶になる
貫いた無骨を愛しいと思う
昭和史の彼方で父が濡れている

松山市 古手川光

増えてきたこれが最後という賀状
正月が年々速く来る恐さ
冬景色ふと人生を重ね見る
名曲のような名句をつくる夢
川柳は今のわたしのオアシスだ

松山市 宮尾みのり

あの頃はよかった団地高齢化
身に余る重さ書棚の広辞苑
プロフィール裏の部分は覗かせず
化粧って不思議背筋も伸びてくる
今は亡き人の指針に生かされて

松山市 柳田かおる

いい人でいたい自分がきらいだな
本心は見えないのです磨りガラス
振り返る日々が字余りだったころ
こらえ性がなくなつたなとふと思う
地図のない旅へ荷物を軽くする

大洲市 中居善信

取り巻きの色に染まない意思を持つ
マドンナは甘い言葉を聞き飽きた
核の傘誰も信じてなどいない
一つだけ持つてる鎮守さまの役
人の世の深いところに傷がある

西予市 黒田茂代

娘と行った秋の宗谷も今は雪
布団干すのにも全力要り出した
獐猛な鷺の目鶴のやさしい目
殆んどがイケメン小鳥たちのオス
伯父 父叔母不思議と命日が同じ

西予市 西田 美恵子

生かされる乳房一つを失くしても

だとしてもとても美味しいパセリです

熟したら落ちます柿も私も

三越で妻よ値切ってみませんか

笑い好きの酒なら少し頂こう

高知市 小澤 幸 泉

欲深く生きて静かなデスマスク

暖かく去り行く過去にありがとう

七十余年の支えと妻の鞭

東京に捨てられました捨てました

福音を運ぶ足です美しい

土佐清水市 辻内 次 根

誰も来るあてない部屋の畳拭く

レンジでチンどこか何かが狂ってる

年齢を合せ鏡で自覚する

潮だまりそんなに急ぐことはない

孤独から希望に変わる初春の酒

東かがわ市 川崎 ひかり

平成の重さ支えた美智子さま

ケイタイは平成の世の置き土産

生きる知恵ネットになんか負けません

春の芽に試練足りぬか氷雨ふる

家宝です平成生まれの孫四人

沖縄県 森山 文切

キーボード叩く音して年明ける

炎上をしないと怒るスポンサー

鼻筋に手を入れてあるデスマスク

金色の画鋏絶対ナルシスト

鳳仙花わたしの位置を補正する

北九州市 小松 紀子

じゃまたネ二人の孫がぎゅっとハグ

見送りはちぎれんばかり手をふった

メモ帖と計量カップ息子の料理

亡夫や子よ安らいでいますか夢を見ぬ

幸せは食べる歩くが出来ている

唐津市 坂本 蜂 朗

八十路往く男にだつてあるロマン

筆文字の震えに込める老いの味

瓶の蓋開ける仕事で待機する

嫁いびり耐えたワイフに二重丸

諍いが嫌で合わせる風の向き

唐津市 山口 高明

沖繩の基地軽減も述べるだけ

戦争の悲惨レイテに永眠する兄

三度三遍食べても飽きぬ麵が好き

長男のペット苦手な爬虫類

愛犬の小屋にも注連を下げてやり

熊本県 岩切康子

雨後の庭紅葉敷き詰めあざやかに
滝見物リハビリ兼ねて二本杖
運転の出来る間は墓参る

お散歩の犬に声かけ懐かしむ
正月の準備が出来ぬ指の怪我

札幌市 小沢淳

文明の利器のいらぬ歳となり
銀シャリは今お代りはどうぞの身
有情無情冬を越さねば春はこぬ
3億が釣れる大間の黒マグロ
猛進ができぬ日本に脛に傷

弘前市 稲見則彦

団塊のイノシシが行くボクも行く
幸せのリズムが替わる金曜日
青天の霹靂除雪ブル連夜
断捨離はただの口癖スローガン
雪晴れにホッと一息つくシャベル

弘前市 今愁女

初雪が根雪となった雪の嵩
拉致家族に同情ばかり年明け
引き戻す手立てはないか空仰ぐ
ひと鉢のシクラメンから明るさを
人生を無駄なく生きた樹木希林

弘前市 高橋洋子

年齢だけはトップを走るフィットネス
反骨の僕には苦手デジタル化
老婆ひとり命綱です便利屋さん
一人鍋ぐつぐつ煮込むウサ晴し
ポーと生きる僕に重ねる昼の月

塩竈市 木田比呂朗

妻宛にお得意様ときた封書
健康によいとカラオケまた誘い
球春の記事にウキウキまだ若い
計画は緻密に練れという湯舟
八十路でもまだまだだと申告書

(前月分) 神戸市 山口美穂

ルミナリエ逝ってしまった友思う
亥の年の字は幸にしてほしい
マニキュアもクリスマスだとさり気なく
八十路には八十路の春の小さな夢
つまみ食いおせちの中に亡母の味

第171回 大阪川柳の会

日時 4月2日(火) 午後1時開場・午後2時締切
会場 大阪市北区梅田 駅前第二ビル5階
大阪市立総合生涯学習センター 第一研修室
宿題 (各題2句・席題なし)
△「フランク」浜 知子選 △「まさか」赤松ますみ選
△「便り」木本 朱夏選 △「嘘」森中恵美子選
会費 1000円
欠席投句(82円切手5枚同封) 4月1日到着分まで会員に限る
会員募集 年会費千円 会報を年6回奇数月にお届けします。
〒532-0025 大阪市淀川区新北野1-3-4-706
本田 智彦 宛

自選集

小島 蘭 幸

昼ひとりの贅を許してくれますか
手の甲の肝斑は自分史なのです

御朱印帳孫は忘れたことがない

安らかでした百歳のデスマスク

アンチジャイアンツでした長野は好きでした

高瀬 霜 石

北国に生まれハートは熱かりき

春光や悪友ひとり連れて行く

貼り紙もなく閉じている友の店

にんげんにまだまだだどりつけぬ古希

3・11死ぬまで妻の誕生日

竹 治 ちかし

何はとも我が家の良さを知る二人

想い出と違う無口の里と会う

過ぎる日の早さと鈍くなる動き

簡単に人は死ぬものなのです

二度主役なって人生舞い終える

津 守 柳 伸

CMはどの猪もユーモラス
一人旅のんびり余生おくりもの

現実は反比例する閑とかね

久し振り姉妹並べている寢床

ティータイムほっと一息シクラメン

都 倉 求 芽

誤作動もなく正月やつてきた

一杯の水新年澄んでいる

冬の香りしつかり満ちてくるひとり

正月正月とテレビのコマーシャル

一強の猪突猛進憂れ給う

土 橋 螢

鶯が啼く川があり山があり

春宵の天に叱言の二つ三つ

初笑いその笑いまだつづくなり

美しいおさげの髪も卒業する

先ず父が笑いわが家の初笑い

西出 楓 楽

ちちははと同じ所で蹴蹴く

人の世や泣いてすむことすまぬこと

ほろほろの翼の手入れする傘寿

想像はやめる私の五年先

プロローグからエピローグまできつい坂

仁部 四郎

春が来た五つ釘をまた着たい

春が来た体重計に足をのせ

春が来た桜前線差し招く

春が来たあの花の名をおぼえます

春が来た来てないところありますか

前 ともつ

八〇〇号デビューを継いで一一〇〇号

残された時間かしこく生きていく

子連れ猪共生できる道探る

聖書は言わん 人生七十年

信仰は趣味も豊かにしてくれる

政岡 日枝子

平成という道のりの中を往く

ここまでと思う平成の同期会

終章にかかるわたくしの平成

平成の次のわたくしの居場所

新元号生きる予定のストレッツ

三宅 保州

わかつてはいるが病院へは行かぬ

葉桜を見に行く人目惚ぶ仲

左遷地の桜お前も散りぬるを

青かった頃は純粹無垢だった

人生にもまさかと思うイレギュラー

宮西 弥生

とんがった言葉肥満ははね返す

桐一葉落ちた時から肥り出す

すこしずつ許すと流れも美しい

果てるまで生命を稼ぐ海人の群

今日の鬱あすの気合いにさせる風呂

福士 慕情

鶴が二羽 赤富士を飛ぶ床の軸

八百万の神とは縁がなさそうだ

他人の子を叱ってあげたい時代

新しい風が運んで来る明日

無病息災ひたすら願う初詣

村上 玄也

あちこちへ喧嘩売る大国のボス

思い付きをすぐ口にするから怖い

大国の喧嘩巻き添え食う小国

気に食わぬ奴は即刻皆ファイア

独裁者周囲はみんなイエスマン

森山盛桜

雑布を絞ると年金がポトリ
解熱剤効いたか焔収まった
人間の欲が飛び交う宇宙ゴミ
手術した葉飲んだと自慢する
我が家には統計調査ありません

見上げると雲

八木千代

あの底の下にも底があつたかも
薄明り此々は平らな地上です
今日だって小鳥の声で覚めたもの
雲たちに話そう空を見上げよう
ありがとう春の陽ありがとう椿

山本希久子

たそがれの道飄々と行く私
一発逆転狙うジョークも底をつき
弾力を失くした右脳も左脳も
ポケットに運春にはきつと咲くだろう
持久戦になれば若者に負けぬ

板尾岳人

HBで心に愛とかく気品
やがて咲く花を待つてる紅生姜
梅一輪 おんなの部屋にある余寒
全身が馬鹿で火傷をする便り
晩婚で母に出合える露地に住む

川上大輪

何となく来て過ぎて行くお正月
味のある言葉ひねもす囃んでいる
転がった卵謀反を企てる
さ迷うてどこまで続く冬の景
まだ掴めない円周率の尻尾

木本朱夏

ブラウスの染み春なのはるなのに
誰か居るの 夜のしじまに声かける
声あげて夜の深さを確かめる
わかっているわ わたしひとりの蒼い闇
はるなのに春の夜なのに 春なのに

斉藤 劔

種を蒔く指の先から春になる
少年の鳩飛びたがる金曜日
花嫁という名の薔薇を抱く壺だ
仔犬にも洋服を縫う犬好きで
酸性の土には向かぬ蒔蘿草

新家完司

ピロリ菌やつつけた腹グーと鳴る
脳味噌はヘコヘコ腹はべっこぺこ
マグロよりマツバガニより鯛のアラ
治す気は無しアルコール依存症
代役はいない仲間が待っている



森の集句

『聴診器』

北きた川がわ春はる巢す

サーピスに医者は注射の跡を採み
 飲んだ日は調子がよいと医者へいい
 まっ先に来たお見舞いは手ぶらなり
 インク壺昔の栄華物語り
 屠蘇祝う手付きどの子も俺の子だ
 飲めそうもない会費なり欠と書き
 急逝へ飲んだ思い出ばかりなり
 お祈りをする黒髪の長さかな
 うどん派とパン派子供ら二派になり
 近松の恋教養として見とく
 モーニング四角四面に酔払い
 ローレライ原語で歌い酔っている
 取巻きの中で人形になるもよし
 しあわせな家年寄りがよく笑い
 淋しさは眼鏡をかけたまま眠り

(昭和49年12月10日発行)

温故知新

小出智子川柳集『落の臺』から

返って来ない本のことなど思う 秋
 山の絵の下で今夜も眠ります
 長い手紙を旅のおわりのように書く
 読みたい本があると死ぬまで思うだろう
 古いふるい話で母をよるこぼす
 駅前のポストに入れておく手紙
 これからの百年を言うおそろしさ
 他人ばかりの街で親しい赤電話
 NOと言う勇気が喉にひっかかる
 新聞がいつものように入れている
 日曜日の象は子供がほしくなる
 北国の訛りがとれぬ好きな人
 好きになれない自分の顔に化粧して
 山に来て他人と水を分けて飲む
 常識をはなれられずにかぼちゃ煮る
 寄席果ててゆるんだ顔を撫でてみる
 道を聞くだけにも人の選り好み

川柳塔の

川柳讃歌

⑩

上方芸能評論家 木津川 計

四面楚歌ちりめん皺が攻めてくる

田中 恵

女偏の差別語で非情なのは「姑」である。息子の結婚、即「古い女」に母親は追いやられる。やがて老いるほどに無惨は「婆」へと追いつめられた老女たちである。「波の女」と組み合わせた漢字メーカーたちは、押し寄せる無数の波のように皺だらけの、くしゃくしゃの、なんとという醜悪かと顔をそむけたのである。ちりめん皺の生やさしさではない。恵さん、たとえ全面にせよ小皺の集積はむしろいいのです。仲良く共存しましょう。

玉手箱開けてしまつた顔並ぶ

寺本 実

奈良、平安の古代人もSFを楽しんだのである。かぐや姫は、月よりの使者、だったし、桃太郎は桃から産まれ、一寸法師は鬼の落した打ち出の小槌を振ると六尺豊かな大男に変身したのである。浦島太郎は海の底で溺れ死

なずに暮らした。私は一人語りを続けているが今年は六月三日(日) 2時から神戸本町の風月堂ホール(078・321・2391)で昔話「浦島太郎」を初演する。玉手箱に封印したのは実に(歳月)に他ならなかった。

大好きな人とはうどん食べません

工藤 千代子

うーん。千代子さんのいじらしさに僕は泣きたい。装い、飾り、上等たらんとするのもみじめな気分を彼に味わせたくない。安くて庶民的なうどんは食べず、レストランで豪華にいきましようよ、となるのも大好きだから。ですが千代子さん、恋はレストランに始まり、飯屋、屋台へと進むのです。大好きになるほど金を使わせないので。この人なくてと思えばこそうどんを食べてしみじみとうれしい、そんな大好きな人といつか出会ってください。

相方がいるから泣ける笑い合つ

北村 賢子

「妻を失つた夫の平均余命が三年。夫を失つた妻の平均余命は一五年」と永六輔は「夫と妻(岩波新書)に記した。さらに解説して「僕の生家は寺だから、このデータはよくわかる。おじいさんの墓参りに来るおばあさんは元気で、おばあさんの墓参りに来るおじいさんは長くないなど感じられた」というのだ。

タカ派で右派の論客だった江藤淳は逝つた妻を追い、勇ましかつた西部適も妻没後氣力をなくして自死した。コワもての男も実は弱い。

欲しかつた時間今では持て余す

梶谷 和郎

「時は金なり時はかりあり余り」と嘆いた川柳家もいた。鷲田清一さんも「折々のことば」(2月8日)で漫画家・本田亮さんのことばを伝えた。「曜日の名はもつと自然と触れ合えと。月を見る、火を熾す、水と遊ぶ、木に触れる、土を踏む。「金」を稼ぐばかりだと心が乾いてしまふよ」。働いてばかりだった頃、自然に触れ合いたくてもできなかった。が、和郎さん、「休む」とは人間が木に触れることです。そんな時間が一杯ありますよ。

孫の就活磨いた靴が光る朝

尾崎 一子

おばあちゃんは気がでないのだ。遊んだり抱きしめたりして成長を楽しんだ孫が就活に臨む。どうか望みの会社に入れますように、おばあちゃんは一生命懸で靴を磨く。磨くほどに光るとおばあちゃんは、面接官の目に孫も光って見える筈だと思える。だからなおも磨く。そんな心の届かない筈があろうか。一子さん、お孫さんは頑張り、面接官の覚えもよく入社できた筈です。光つた靴のお陰です。

橘高薰風句抄

(橘高薰風川柳句集) 平成十三年発刊

亜鈍さんを祝う

お恥かしい古稀と宿老温かし

パントマイムの妻に止めを刺されたり

演出をする齡でない齡でない

樹に添うて力をもらう風の葬

紫に男女の別のあるごとし

昔から女が走る愛の時

河豚食うて処女穢れること勿れ

水の渦想いの渦も春になり

海鳴りへ標本室の貝の耳

やがて女は友情を持てあますだろ

牧人さんを悼む

死顔のなのお満を持し満を持し

朝顔のファンファーレの中僕は生れた

背の小さい方が姉なり桜草

路郎忌や瘦身力士勝名乗

一点鐘わたしのマリァ歎歎く

寺尾俊平さん新居落成

蔓ばらと善魔の護る城ならん

柳暗やお染久松蔵の窓

紫陽花の炎群愛染不動かな

君にふたごころわがあらめやもモンロー忌

モンロー忌黒子の位置の恐るべし

春愁の半歳経たるかな秋思

夏の愛形を変えて鯛雲

こおろぎのように泣けたら涅槃かな

城うらのまてばしいの実待つ楽しさ

おもしろさ雀は跳ねて鳩歩く

合歓の花雨に濡れてるのは乳房

恋瘦せの乳房から瘦せきしという

鯨を釣る鯨のごとくに群がりて

子と見れば月下美人は宇宙船

大矢十郎氏息女栄子さんの結婚を祝し

花嫁に牟婁の海山弥朗ら

三段峡にて 二句

恐懼せり紅葉と滝の神の前

友情に深入山の名もうれし

水煙抄

西出楓楽選

今治市 渡邊 伊津志

喜怒哀楽乗り継いできた皺の数

精一杯生きて余生が面白い

痛い目に遭って学びの奥義知る

柔らかな目に泣き言をつい漏らす

鮎を吐くその目切なり鵜飼船

いい笑顔世界平和の役に立ち

鳥取県 橋本 整

老いの夢ふんわり包む春の風

九二歳心の杖に五七五

仕舞風呂小さな夢を温める

ふる里の大根肴に友と酌む

晩酌も明日を生きる力水

楽しいね川柳詠むのに四苦八苦

宝塚市 太田 としお

五十年添って夫婦の味が出る

平和だな妻の軒と猫の声

笑った者がいつも人生勝利する

もうひとつ自分のことが分らない

段々とキムチ嫌いになってきた

善し悪し基準は人によりけりや

あれやこれ水を差しては嫌がられ

お年玉新札準備年の暮

減る年金益々増えるお年玉

青春の甘き残り香詩と短歌

残り者同士の引いた当りくじ

ワリカン負けしてはなるかと二日酔い

池田市 太田省三

OB会校歌の歌詞が配られる

スキヤキをネギから食べる戦中派

三分で合鍵できる恐ろしさ

少年の壮志を砕くカツカレー

雪かきを知らぬ外人ワンダフル

木枯らしの受験のあとは夢の春

笠岡市 戸田 まやう

初場所の奮起力士の仁王立ち
無視という凶器で人は殺される

黙るのも上策蚊帳の外となる

皮肉屋に皮肉のつぶてプーメラン

手仕舞と決めてじゃらじゃら玉が出る

手玉には取れぬ大地の草を引く

羽曳野市 磯本 洋一

七草を地産地消でことほぎて

三ヶ日御節が母を休ませて

知識あり経験豊か仕事なく

子供等のポーナスで行くグルメ旅

雪降ろし我が子待ってる老夫婦

あの暑さ身体が覚えこの寒さ

和歌山市 福島 一雄

紅白も昭和の歌はセピア色

足裏に玉砂利感じ和を祈る

大吉のお札財布にそっと入れ

一年を三日で済ますお宮さん

ポーリング孫にも負ける体たらく

八十路すぎ免許更新大仕事

高槻市 三谷 白黒

日記帳サラになるたび願かける

散髪で首を傾けおこされる

この孫はオレの血筋と思えない
改革は仕事の量を殖やすだけ
日本は昭和遺産で食ってます
尾島さん仏のように見えてます

富士見市 中島 通則

若作りもう諦めて楽になる

いいところちよつとCMその前に

わらべ歌不思議なくらい覚えてる

夢を詰め膨らんでいるランドセル

水漏れはないか水道改正法

平成を慈しまれた両陛下

加西市 山端 なつみ

除夜の鐘流すテレビにおめでとう

井戸からの若水沸かし福梅茶

一日の雑煮ちよつびり孫苦手

二日はとろろ播り鉢播り粉木出番です

三日目は善哉亡義母の好物を

孫六人蟹が静かにさせている

倉吉市 宮田 風露

髪切って気持ち新たにお正月

ありがとうなんと温もりある言葉

知った振り他人の言葉借りている

出た杭に躓いてまた転んでる

舌打ちをされて一日気が減入る

皺の数今年はいくつ増えるやら

府中市 岸田 武

大晦日仏間のあかり消さずおく
元気でいる証しの賀状ひとつ来ぬ
ぜんざいで今年の餅を締めくくる
寒い日が続いて今日も喪の知らせ
DNA器用に生きて行けないな

三原市 笹重耕三

七十路の新年一歩また一歩
病院も薬も立ち切れぬ亥年
自分史の余白が徐々に狭くなる
ややこしくて巻き上げる消費税
還付金詐欺かも知れぬ消費税

三次市 伊藤寿子

目標は宇野千代さんと寂聴さん
小説を書きながら逝くと寂聴さん
振り向かぬ人生寂聴さんの笑み
三途の川今はフェリーで行くそうな
駆け足で過ぎる月日をただ感謝

阿南市 小畑定弘

長生きという人生の罰ゲーム
冬酒場人の話に踏み込みぬ
寒卵遅き昼餉に割り落とす
新聞を十字に括る年の暮れ
十年か五年で迷うパスポート

松山市 郷田みや

バツイチになったと年賀状の隅
感嘆符並べてみたが響かない
親子だなあ正月の集合写真
冷えますねえコントの続き出てこない
じゃあまたね二度と会わない気がします

大洲市 花岡順子

幸せをちよこつと貰う初もうで
氷点下の朝を急いだ福袋
正月の暇が座つてまた食べる
寝てるとことドに似ている好きな人
目標を少し高めにする春陽

西予市 井関はるえ

紙コップのような男が増えました
若者をみな中毒にしてスマホ
一の矢も二の矢も胸に秘めて雑魚
お財布の論吉長居はしてくれず
母親の心届かぬ冬登山

福岡県 本田さくら

洗濯機あなたも元旦休業よ
いのししに悪さ止めよと言いつ聞かせ
読み聞かせ孫に翼が生えてきた
紅白は若者たちに乗っとなれ
新聞の四コママンガついニヤリ

佐賀県 真 島 久美子

約束のように孤独にされている
禁じ手を使って奪い取る時間
バカらしくなってラブソングを消去
本当とホント重ねてまだ他人
のほほんとペンを持ってりゃいいでしょう

江南市 脇 田 雅 美

太陽を追って向日葵うなだれる
寒空に流星追ってレンズ向け
殺伐したあおり運転世の乱れ
やり放題数の力に怒る民
年賀目標達成自腹邪道です

豊橋市 小 松 くみ子

来世はクラゲもいいな水族館
器用だねDIYを頼まれる
ひと口を残せなかったダイエット
みてしまう医師がため息をつく顔
平和だと刺激求めてもめたがる

豊橋市 西 郷 紀美代

裏道で出会った花の息遣い
寄り添うは口先だけのアベ総理
BSの再放送に泣くおしん
やめようか情性で続く年賀状
スキップを孫と一緒にまだ出来る

舞鶴市 伊 藤 恒

降れば飲み積もれば飲むの雪見酒
灯油高なのに雪降りはしゃぐ子等
二刀流母と女を使い分け
ああもつと尽くしておけば悔いる今
あれも夢これも夢かと棺の中

大阪市 柴 本 ばつは

片付けたお座敷なんやさびしいな
胃も腸も口もこまめなおばあちゃん
梃摺らぬように逝きたい来世へ
踏んだらあかん春の芽生えがそこかしこ
ひと山いくらそんな林檎のわたしです

大阪市 松 田 聰

美ら海がブルトーザーに泣かされる
寄り添うと口先だけの基地施策
声挙げよ違法重ねる政権に
国民を馬鹿にしている消費税
国民の忘れっぽさに助けられ

大阪市 森 廣 子

瓜坊を陰で見守る母が居る
味噌雑煮丸餅入れる地に嫁ぐ
七草を過ぎて普通の草になる
輝いて見たい小石が無理をする
謝れば済むと思っていた迂闊

大阪市 森 田 遊 子

貝塚市 吉 道 あかね

漆黒の闇に紛れていた日

エッシャーの絵から出られぬ今日のウツ

いい人と言われ後ろめたくなる

白日にさらせば私溶けてゆく

車窓見るように時間が過ぎてゆく

大阪市 横 山 里 子

初鏡明るい顔をまず造る

大吉が出るまではしご初詣

出発日夢叶えた娘振り向かず

猫抱いて居心地のいい私の巢

新元号浮かれた後に消費税

池田市 上 山 堅 坊

煩惱を抱いて渡ろう黄泉の川

お蕎麦屋で満足をする老いの恋

忍耐力育ててくれた野良仕事

わが余生支えてくれる一行詩

白寿へのステップ今日を大切に

泉大津市 助 川 和 美

洗濯物乾いた今日を感謝する

半分が適量になり長寿です

税上げて年金下げる策の無さ

金だけは邪魔と思つたことがない

ありがとう言う回数増えた老母

船上で歌う第九の年忘れ

丸三日水平線が続く旅

こんなにも日本離れた硫黄島

手を合わすしかない島は激戦地

まっ先に花に水やる旅帰り

門真市 坂 本 屋 雨

冬のベンチで風と身の上話など

新年の浮かれた人を見るガラス

七草がゆふわりいのちを温める

言い訳はいつさいしない冬木立

輝の母の指先春を待つ

河内長野市 中 島 一 彌

焚火爆ぜ屈託のない初笑い

末吉をお不動さんに固結び

加速度をつけやってくるシワタルミ

宇宙への技術が光る町工場

閉めた戸の音に出ている胸の内

豊中市 木 藤 こみつ

包装紙はがしてよそへ回す菓子

「包丁研ぎ」包丁持つて追いかける

鋭いピックでたこ焼き丸くなつていく

あえて買わぬまっかつかのめんたいこ

元義弟から今年も年賀状がくる

寝屋川市 岡本 勲

遅咲きと想っていたら枯れはじめ
痛いところかれて萎えた闘争心
賞味期限された同士の一つ屋根
子へ孫へ税のいらぬ和の遺産
子は親に親は子供に教えられ

八尾市 田邊 浩三

求余命オリンピックが万博に
温暖化怖さを知るは曾孫たち
国会も十六歳に任せたら
腰痛にテレビ教える食と医と
新聞が売るのはニュースか広告か

八尾市 前田 紀雄

男は直滑降女はパラレル
人並の暮しハードル低くする
金よりも無償の愛を探します
多数決翼賛政治きな臭い
少子化も温暖化にも待ったなし

大阪府 小栢 こずえ

急いでも走って行けぬもどかしさ
目的があれば苦勞も苦にならず
口車にまんまとはまる虚栄心
情報社会置きざられても生きてやる
脚本の通りに行かぬ老いの道

大阪府 畑中 節子

色褪せた障子張り替え春を待つ
味噌作り終えて静かに春を待つ
人生の節目節目に覗く運
日なたほこ丸くなった老母の背な
旅行好き温い我が家はもつと好き

神戸市 輿水 弘

呼ばなきや来ない恵比寿もちよつと回り道
男です言わねばホント分らない
あくび出そう入れ歯押さえて上品に
一日三度ほほ笑み福とする傘寿
正直に影は背中を丸めてる

神戸市 斎藤 隆浩

和やかな句会に参加技磨く
ほんとかな寝る子は育つ言うけれど
逃げ道を残して叱る母今日も
嫁募集三食昼寝ルンバ付き
勝負服タンスの中で欠伸する

尼崎市 清水 久美子

姪の子の成人祝う小豆粥
ここの話の話し煮込む牡丹鍋
蹴躓くたびに身体のネジが飛ぶ
遅咲きの花にもあった自己主張
蟹供養して城の崎を後にする

伊丹市 延寿庵 野鶴

しつかりと意見を通す青いバラ
素になって自分見つめる座禅堂
マドラーでほどよく混ぜる嘘ひとつ
鳳仙花ちよっとおどけて弾け散り
絵の具にはない色でオーロラが揺れ

三田市 大西重男

今朝もまた妻の遺影におはようと
妻逝つて男やもめは抜け殻に
侘しさを酒で紛らし夜が更ける
抱いていた孫に今では手をひかれ
脳みその皺がのびたか物忘れ

三田市 住吉美和子

好きな本炬燵に置いて冬籠り
首疎め背中丸めて寒の入り
寒紅梅天満宮に匂いたつ
炬燵には矢張り蜜柑がよく似合う
雪かぶり健気に春待つ木の芽達

三田市 森玲子

神様もお疲れですね初詣
間違ひもまだ呆けてない気付くから
句を始め夫婦の会話増えました
五七五布団の中で一人ごと
鼻歌が夫の元気バロメーター

宝塚市 岸田万彩

スカスカの骨が気合いを受け止めぬ
褒めて褒めて育てたわが子あかんたれ
いつの間にか子は抜いていたしつけ糸
鋭角の言葉はすぐに飽きられる
トカゲの尻尾に強い親近感

生駒市 児玉規雄

初夢に亥年の亡父現われる
お預けで待ちくたびれた新元号
息子から始めてもらおうお年玉
五輪から万博にまで命伸び
万博とカジノ浪花の皮算用

和歌山市 倉橋悦子

被災地を想う幸せすぎる初春
記念樹の花も見頃に嫁ぐ春
お花見の約束をした浅い春
新元号一つ加えた春の夢
年明けの微笑クリムトの抱擁

和歌山市 佐藤まさき

来る年は祭に変えたい災一字
除夜の鐘いよいよ心改まる
年始回り取って代わった年賀状
正月の今は懐かしかるた取り
諳んじた意味も知らずに幼い日

和歌山市 鍋嶋澄子

ポータワーすつくと立ちて自己主張
エキゾチック夜の神戸で気分ハイ
カンツォーネなまでリッチに食事する
親の年倍を長らえ四季流る
終活か山茶花べにのじゅうたんを

和歌山市 西川千鶴

凡人にゃ凡人なりの意地がある
ブライドを捨て去る場所が見つからぬ
掃除ロボ動かす為にする掃除
予約制にする程客は居ない筈
顔すらも思い出せぬが出す賀状

岩出市 村中悦男

医師説明落とさないよう娘を連れて
笑顔して成功ですと執刀医
穏やかな笑顔で退院許可くれる
ひ孫抱く覚えた言葉聞きたくて
奉納の舞人と神とが見入る中

鳥取市 副井裕

行列の長さが人を惹き付ける
宝くじ当てた話が漏れて来ぬ
女子力の凄さを悟るクラス会
スマッシュで日頃の憂さを打ち砕く
好きな人いつも死角に鎮座する

鳥取市 田賀八千代

ちゃっかりと胸のポッケに君が住み
通販に魔法かけられ買う美白
四コマの最後に本音好きと書く
少しだけ時間くださいきつと咲く
仏にも凶器にもなる君の笑み

倉吉市 若松由紀子

産まれるも死ぬも一人で頑張った
人肌の温もりほしく手をつなぐ
遅しく温い父の背見て育つ
赤信号片足立ちで春を待つ
路地裏で石蹴りする子今は見ず

米子市 池田美穂

ブライドも捨てたら私丸裸
三が日この快晴はお年玉
遺伝子に我が家の雑煮刷り込まれ
孫が去り夫の笑顔幕閉じた
うちの鬼豆くらいでは出て行かぬ

米子市 野川宣子

予定では左団扇の筈だった
役引いて穴のあいてる予定表
何気無い会話で和むそんな仲
ゴキブリも引っくり返る叫び声
おめでとう取りだめテレビ白白し

鳥取県 飯野 菖子

収穫も終り紅葉野に山に
年を取り恥は私の宝物

日本国山水豊かうまい米

天国へ続く線路がまだ見えぬ

咲き誇る山茶花庭のシンボルだ

松江市 相見 柳歩

飛んで行く天使が放つ矢になって

鮮やかに出世するほど視野狭く

勝てるはず仕事を奪うAIに

自転車に乗れず走ってついて行く

チョコ配りもうやめますね義援金

松江市 中筋 弘充

活けられて花は余命を感じする

増税したら減るかも知れぬ食べ残し

あくまでもワクワク感のない足湯

マドンナからこれが最後という賀状

元氣ですかを加え優しくする賀状

雲南市 永見 安子

春よこい冬に桜の歌うたう

里の空鉛色した冬景色

廃屋の庭に山茶花だけ赤く

寝れぬ夜介護疲れの友思う

眼鏡入れペンが出てきてフフフフ

米子市 川本 美津子

ストレスを亡母に伝える墓参り
蓋をして自分の弱さとじ込める

のら猫に正月気分お裾分け

鏡見て練習をする笑い顔

大掃除歳には勝てず手抜きする

島根県 原 徳利

猪の精力貰うボタン鍋

主よりも犬が賢い帰り道

乾杯は何回してもいいもんだ

良きにつけ悪しきにつけて酒を酌む

結論を出して相談持ちかける

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

花活けて心に春を呼んでいる

飽食で心のトキメキ忘れられ

そそと咲く山茶花に心いやされる

平和賞もらった人の国いくさ

味のある返事がもどる嬉しい日

岡山県 藤澤 照代

小気味好い音して母の糸切り歯

忘れたくない思い出は胸に書く

手間かけた知恵と工夫の素朴膳

クラシックで育てた酒の味自慢

未練など流して拝む初日の出

岡山市 大石 洋子

東北の思い煮詰める林檎ジャム
自販機にごろんと拾う命の水
バイキング貧乏性を丸出しに
すべてに通ず蛇口しつかり締めること

岡山市 小野 美那子

母ひとりずつと気になり未だひとり
喜寿の坂感謝抱えてふたり連れ
トタン屋根雨告白の邪魔してる
わたしでも打ちひしがれる今日の雨

広島市 田 桑 恵 子

初神楽夜又らも下りて餅を播く
三ヶ日過ぎておせちも姿変え
冬の酒湯豆腐あればそれでいい
煩惱を捨てて気持ち軽くなる

広島市 松 尾 信 彦

補聴器の相乗効果好奇心
角だけは取れて丸くに遠い古希
博識を聞かれていたが今スマホ
旅仲間食うか見るかでいつも採め

竹原市 若 年 幸 子

運勢と天気をチェックスマホから
定期預金コインが数個つきました
親友が断りもなくあの世へと
ジグソーへ恋のピースの揃わない

竹原市 土 井 輝 恵

一日を眉毛の出来で占いぬ
おむつ代手袋代と要るホーム
免許返納どちらも事情あるらしい
初ウオーキングギュツと靴紐結び出る

山口市 青 木 隆 子

病得て漸く知った父の愛
賽銭を弾んでみたら運開け
床の間の餅七日目で黴が生え
政府案バランスとれぬ鉛と鞭

山口市 中 前 幸 子

秘密の想い出自分史の行間に
プラス思考で広げる明日の白い地図
しがらみを脱けて絵本の森にいる
からくり人形くるりと向きを変えて春

高知市 三 谷 松 太 郎

いごっそう肥後もっこすといひ勝負
横文字も縦の表記で馴らされた
終活も婚活もありお正月
夜明け前ひらめいた句も朝忘れ

唐津市 岩 崎 實

鏡餅だんだん小さくなりました
劣えし足の限界転ぶこと
争いやマイナス呼ぶも知り乍ら
寒いです夜中の回数五回尿

幼な児の寝顔に惹かれほつぺにチユ
損得を頭ではじく見切品
歳重ね寝ても覚めても探し物
つなぐ手に少し汗かく初デート

沖縄県 あら さくら
沖縄県 禱 モモト

亥の年はパワーアップで突進を
孫二歳役に成り切る遊戯会
私の至福タイムは昼寝過ぎ
やめるより忍耐がいる継続は

沖縄県 下地 香代子

フラれても学習せずにまたフラれ
恋人と別れ惜しんで駄々こねる
永遠の愛誓い三年目で浮気
冬の風脂肪蓄え春を待つ

沖縄県 宮 すみれ

新車買う締めまりモードに入ります
初稔りなんてんの実がびっしりと
まだいける障子張り替え元号に
御日様がカーテン破りつきすすむ

札幌市 斉藤 宏子

しつかりと大地をふんで初歩き
しあわせは思いつきりにする昼寝
ロボットの犬に思わずぐちを言い
一瞬の光の中を六華舞い

競走をしているように猛吹雪
いつまでもあきらめつかぬ牡丹雪
北国の女の温さ一途です
ぐずってはいけないのですなごり雪

黒石市 北山 まみどり
弘前市 高森 一吞

子猫呼ぶ返事は無いが鈴が鳴る
古時計後もう少し元気でね
泣かすより笑わせるほど難しい
妻の愚痴酒の力で聞き流す

仙台市 月波 与生

新しい傷口だ泣いた痕がある
この道は飽きたと振り出しに戻る
冷蔵庫ベジタリアンのまま九年
わからない絵で立ち尽くす美術館

千葉県 廣瀬 良磨

元気だな冬將軍と鍋奉行
年末にビール片手に一人鍋
平成の文字の重さを知っている
脱皮して冬から春の肌にする

東京都 高岡 弥生

北風に負けずに育て子供達
駆け抜けた一年過ぎて次もまた
様々な人の生き方比べても
毎年の年賀状いつ辞めようか

横浜市 川島 良子

感謝する言葉で伝えあう絆

大人への階段シャンシャンも登る

自転車で転び歩いてまた転ぶ

スマホデビュー爆発寸前脳回路

横浜市 長島 亜希子

いざなぎ超えてどここの話のことですか

認知症保険加入を勧められ

三浦さんだから挑戦称えられ

マイホームパパノーベル賞は無理みたい

名古屋市 富田 末男

世界中平和をゲットして欲しい

健康が行動力にしてくれる

メリハリの中に元気を入れておく

楽しみを持ってばみんな弾み出す

名古屋市 山本 三樹夫

日めくりの最後を捲り除夜の鐘

年重ねとうとう来たか傘寿まで

初夢が平和であれと昼寝する

お隣は信義を守る国となれ

豊橋市 高柳 閑雲

核心を真綿に包み触れさせず

争いを忘れて海が凪いでいる

未来図が描けぬイスラム圏の空

ステップアップどこが標準なのか

京都府 北野 クニオ

元号を待ち侘びている新時代

神様は困った時の人気者

ポケットに両手つっこむ反抗期

金婚の初春迎え感無量

大阪市 中島 栄子

泣いて笑って変わり身早い孫二歳

くりくり目今に男を泣かせます

テレビストープに心身冷えてしがみつく

御免なさい私の代で墓終い

大阪市 樋口 眞

会いたいなあ思い出書いてある賀状

さり気なく労り合つての遊行期

微笑みを添えた会釈で親しまれ

後継者なくて米屋も店を閉じ

大阪市 降幡 弘美

付度し阪神ファンと言う私

賛成か否か決めれぬ都構想

福男走りたいけど私女子

答えない選択がないアンケート

大阪市 前川 善之

初詣おみくじまでもAIで

ゴーン氏の欲の深さも人の道

年金者命を繋ぐカップ麺

電話詐欺貴女の隙を狙っている

河内長野市 原 熊 知津子

てらつと光るブルーシートの惨い青
無敵なあなたどんな時でも笑つてる

結論を決めかねている昼の月
冷静な文から透けている怒り

河内長野市 穂 口 正 子

老醜を鏡に見つけ目を逸らす

まだ生きるつもりちよっぴり我慢する

新品の命が芽吹く迎春花

老いてなお日日新品で生きてます

河内長野市 渡 邊 修

合鍵もなかなか合わぬ米と中

万博は生きる目標遠過ぎる

恥を知れ仕事見合わぬ金バツジ

三が日過ぎて秤と睨めっこ

堺 市 楠 井 輝 子

いつ死んでもと新薬待ちて医者はしご

下戸も楽し沖繩酒場ミニライブ

いつになく和やかな旅娘居り

耳澄ます音の無い雨詩情わく

堺 市 羽 田 野 洋 介

一安心すれば疲れがどつと出る

好き勝手定規の目盛変えてみる

さらさらの朝日まぶしい二日酔い

残念だ見習う相手間違えた

堺 市 古 川 光 雄

ドライバーの飛距離は負けるスコア勝つ
秋深し水割やめて湯割にす

六種類の薬もらつて今日元氣
長生きは一人ぼっちになる運命

堺 市 大 和 峯 二

町工場知恵と人情宇宙まで

九条は長寿支える力もち

長生きはさせぬとばかり年金減

沖繩は私と同じ日本人

吹田市 岩 口 のぞみ

初詣我が子合格神頼み

同窓会名が出ず相槌上の空

ニュース見て小さく刻んでもちを食う

終電に乗って寝呆けて途中下車

豊中市 荒 木 郁 子

カレンダー希望に満ちた一枚目

今年こそ健康の福拾いたい

楽しみは本の詰まった福袋

嫁さんにたすき渡せぬもどかしさ

豊中市 貝 塚 正 子

可愛がりそして殺したピロリ菌

朝よりも夜は延びてる通勤路

母さんの包丁の音四拍子

朝一番歯磨きの香に目を覚ます

豊中市 齋藤 奈津子

宝くじ茶柱立って買いに行く
味見すぎ出来た頃には満腹に
詐欺捜査来た警官を疑った
プレゼント包装紙見てにんまりと

寝屋川市 川本 信子

老い独り正月だけは大家族
当たらぬがもしやと買った宝くじ
ゴミ置場腰をたたいて長話
亡夫との会話聞いているシクラメン

枚方市 坂本 ミヨノ

初参り大吉引いて宝船
白寿近い凜凜しい婦人初詣で
野良猫が子猫追ってる初うなり
初日の出ふるえて祈る子供達

枚方市 谷 英也

川柳漬けなかなか味が沁み出ない
八十路会時時会話すれ違い
一日一句決心したが三日間
寿命延び極楽浄土職探し

箕面市 寺井 柳童

お正月あつという間の三箇日
腹一杯お雑煮食べて初詣で
やはり来た年相応の物忘れ
すらすらと知人の名前出て来ない

八尾市 山川 寧

この景色地球でたった一つです
足腰は満足しないシャワー風呂
風邪と腰痛肩組んで襲って来た
枕敷間に合わないわ初デート

大阪府 高木 道子

稜線を白いベールで包む雪
寒風が雄叫びあげて纏いつく
日本の民族移動年新た
後悔の一日わずらう目の置き場

神戸市 大頭 としお

始まりはアダムとイブのリングから
聴く耳も心ありますさあどうぞ
若しかして囁きの渦は私の匂
豆撒いて心の鬼をつまみ出す

神戸市 近藤 勝正

あなたまで今年限りの年賀状
石段が増えた気がする初詣で
今日と明日つなぐ夕日に手を合わす
予定ないそれでも5時に起きている

神戸市 田本 古鈴

百合鷗翼広げて冬の陣
習っても恋の行方は読めません
占いはいいことばかりからっ風
だからって人憎むまい恨むまい

神戸市 敏 森 廣 光

苦楽ともあわせ呑み干す大晦日
次世代へ渡してあげよ平和の火
団壘が家族の絆呼び戻す
九歳の棋士に無限の未来あり

神戸市 山 根 弘 華

一難を救つてくれた守り札
夕日さす干し大根がきらめいて
卒寿でも枯木に花を咲かせたい
春一番忘れた恋が目をさます

神戸市 米 田 利 恵 子

母がくれた「様」の字美しい賀状
洗濯機ものんびりしなよ三ヶ日
書き初めの文字は輝くに決めた
二度の職変化楽しむ余裕見せ

伊丹市 岡 村 風 琴

ポーチュラカくすつと笑い人を呼ぶ
オーロラに何か足りない自分色
ひょうきんな顔して案山子畑見張り
微睡みの中で出合った王子様

伊丹市 平 井 富 夫

初仕事顔を洗って葉飲む
ダイエット肥満の医者が無理と言う
孫しぐさ爺に似てくる嫌な癖
我が家でもスマホ頼りの生活に

篠山市 久保木 剛

七草粥貧しい頃の味がする
デカンショの里で半年冬ごもり
好きな酒ときに溺れる癖がある
杉玉が上り試飲へ列並ぶ

篠山市 澤 良 子

猫たちは土足厳禁文字読めぬ
抜けがけも時に役立つこともあり
二人して日焼けの笑顔空見上げ
働きの量で晩酌決める妻

篠山市 長谷川 善 輔

年明けて変化は何も起こり得ず
鯖ずしを解凍して食う一人住む
仏壇の前で声聞く花枯れてるよ
一人住み正月飾りみな手抜き

篠山市 藤 井 美 智 子

自然からいじめを受けた平成史
おみくじにいい運賭ける初詣
美味求めにぎわい豊か城下町
年金の入るを計って知恵袋

三田市 九 村 義 徳

妻の振るタクト信じて平和です
煽られて訳も分からず騒ぎ立て
お若いと言われつついつい幹事する
頼まれりゃ嫌とは言わぬお人好し

三田市 辻 開子

古希になり始めてお屠蘇いただけで
三が日カルタづけけてあつと過ぎ
昇り降り老いの階段娘に見られ
年毎に賀状遠慮の数が増え

三田市 東内 美智子

若づくりしても背中中は年を言い
お針箱髪の油の匂いする
大雨はこの悶々も流せぬか
寡黙だがその一言で石になる

三田市 中山 寅男

滑らかな組織の動き付度で
デート代年金枠に食い込んで
テレビ断ち物知る時間倍増して
病み上がり手首の時計石白に

三田市 松本 ゆかり

若かった理由もなしに喚いてた
この星のマグマ噴き出る場所がある
籠の箱振ってひいてはみたけれど
青空が続き神笑む三が日

三田市 馬場 貴美江

初祈願柏手の音青空へ
年の暮好物届くありがとう
忘れ物玄関先でまた忘れ
亡き夫が手招きするがまだはよい

西宮市 高橋 千賀子

金欠におもちゃ買えないサンタサン
初恋はまだ色あせぬすみれ色
元旦も昨日と同じ朝が来る
新札が出番待つてるお年玉

奈良市 尾畑 なを江

鳥の巢が枯れ木にひとつ十二月
残菊の根元に未来ある新芽
生かされてする事のある幸せ度
木守柿時折り鳥と会話する

奈良市 加藤 江里子

三が日息子は客の顔で来る
飼い猫も田作り食しお正月
じゃんけんぼん勝つ気がしないこの私
ツイート数拝金主義を否定せず

奈良県 中堀 優

三途の川渡るためにとスイミング
閻魔の裁きまでは良い人だった言う
心読まれさつと隠れる鳩
備忘録にあなたの言葉追加する

和歌山市 北原 昭枝

つつがない暮し感謝の塩を盛る
遣り繰りをしては孫への支援金
雪国の辛さは知らぬ胡蝶蘭
平成の振り子時計もあと少し

和歌山市 定松宏枝

青竹を踏めば喜ぶ土踏まず

先ず咽を潤し食べる雑煮餅

ダイエツト許してあげる三が日

パレンタイン行つたり来たり義理ばかり

和歌山県 森下よりこ

村のつきあい重荷になつてゐる傘寿

アンパンに飽きたじいちゃんジャムパンへ

うっかりを開き直つてゐる八十

冬至十日日脚の伸びるうれしさに

鳥取市 上山一平

親指をくねらせ踊る安来節

掴むより掬つたどじょう愛らしい

悪ぐちを笑い飛ばした辛い口

猪は見かけによらず頭いい

鳥取市 大前安子

そだねーが新たな策を浮かばせる

生きる氣の熱氣上昇ニューシユーズ

親離れ子離れ同じ日にならず

肩の手の温もり知つて頑張れる

倉吉市 大羽雄大

万博へ余生に色が一つ増え

ヨーイドンワンコイン貯め夢洲へ

品よりも実を取ります杖を持つ

禁酒宣言只今三日通過中

倉吉市 岡崎美知江

遊びなさい元氣になると医者はいう

患者ビクビク医者は告知に氣を遣う

オーイと呼ぶ元氣度わかる声のトーン

左遷地もうまいものありや住み易い

倉吉市 田中紀美恵

めでたいな子孫ひ孫と日々暮らす

平凡な正月めでたやじいとばあ

夫婦なりバランス保ち五十年

縦の物負けず嫌いで横という

倉吉市 田中けいこ

日記帳三日まとめて書いている

ゴミの山断捨離しても間に合わぬ

料理するつもりでメモが増えてゆく

氣力ない人に氣合いを入れられる

倉吉市 堀かずこ

今年こそ余裕をもつて転ばない

忘れない災い多き平成を

遊びでは人の心は計れない

ほほえみのあすは咲かそう夢の花

境港市 中井虎尾

国を出りゃ千円くれと言う日本

あんらまあ9歳囲碁のプロ出ずる

新春と春の間に雪嵐

兼高さん世界終つてあの世旅

米子市 生田 和之

酒ちびりほろりと洩らす悔悟の詩
手擦りのない階段なんか登れない
起き抜けの決意は昼にほほ欠ける
平成の終わりを告げた除夜の鐘

米子市 伊塚 美枝子

嫁の留守キッチン何故か落ち着かぬ
除夜の鐘聞いて夫と屠蘇を飲む
平成で賀状じまいの便り来る
亥の旅行町への旅は命がけ

米子市 黒田 紀美江

欲の色赤か黒かと塗ってみる
食欲はおかず次第と腹が鳴り
平成を名残り惜しんで書いてみる
平成の最後の色は紅白だ

鳥取県 門村 幸子

目標は高く掲げてお正月
班長札貼って今年病めません
不審音ふと耳澄ます独りの夜
ままならぬ望みであれどポツクリ死

鳥取県 下田 茂登子

兄弟不仲解決の道見えて来ぬ
老夫婦二人が病んで見ておれぬ
一人居て電球一つ替えられぬ
一人の親を攻めて攻めてる親不孝

鳥取県 西谷 悦子

穏やかなハートから出るいい笑顔
好奇心視野の奥へと招かれる
家族にも見られたくない鍵タンス中
同級生歳重ねては疎遠なり

松江市 山根 邦代

賀状から笑顔つたわる良いしらせ
福笑い入れ歯とび出す三世代
ふる里の味で美味しい雑煮餅
幸せの種をまいたりもらったり

出雲市 黒目 ひでお

老いてな お理想社会を求めている
今年こそひと花咲かせ光りたい
核のない世界を願う年が明け
平成の平和に感謝次の世も

第2回 野菊誌上川柳大会

兼題と選者 香川・他県選者による共選

各題2句 (詠み込み不可)

「シナリオ」 宮内 泉都 選・大谷 慧水 選

「傾 く」 佐藤 義治 選・工藤千代子 選

「それから」 大谷晋一郎 選・吉松 澄子 選

「雑 詠」 田村 道明 選・赤井 花城 選

*選者2名に同じ句を無記名でお出してください。

締 切 4月30日必着

参加料 1000円 (定額小為替など・切手不可)

発 表 「野菊川柳」9月号

投句用紙 所定の用紙(コピー可)

投句先 〒761-0443

高松市川島東町1530 嶋村 幸宛

TEL 087-848-6036

主 催 野菊川柳会

英語 de Senryu ⑧7

麻生路郎句集 『旅 人』

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

煉瓦の下の みみずの如く生きるのみ

I live

like the earthworm

under the bricks

わが世とぞ思ふ 春にはならざりし

the peak of my career,

such a time

I've never had

live 生きる *like* ~のように *earthworm* みみず *under* 下に *brick* 煉瓦
peak 絶頂 *career* (職業での) 出世 *such* そのような *time* 時期 *never* 決して~ない

〜リバーウィローのため息〜世界の川柳・俳句②7 ポーランドのミニマリスト、

スラワ・シビガ (Slawa Sibiga) の句集 *Trace on the Moon* 『月光跡』

彼女のことはすでに『川柳塔』No.1087(2017)で、俳人・フォークアーティストとして紹介したことがあります。月に関する新しい句集 *Trace on the Moon* 『月光跡』が届きました。この句集のプロフィールに、彼女は (*a minimalist, master of images written with a word*. ミニマリスト、少ない言葉を自由に描くイメージの達人) と述べ、*minimalist* (ミニマリスト) という新しい言葉を使っています。ミニというのが(小さい、最小の) という意味を持つことから判断できるように、ミニマリストは最近、日本でも簡素な生活様式、単純な技術などをよしとする人、という意味で使われています。またミニマルアートの芸術家にもその意味が広がっています。さらに短い言葉の詩、つまり俳句や川柳を書く人にも使われるようになり、彼女は自分をミニマリストと紹介しているのでしょう。彼女の作品を *Trace on the Moon* 『月光跡』から引いてみましょう。句集の日本語題名や俳句の日本語は吉村の拙訳です。

moonlight/ an old oak regains/ its former shape (月明り古樫若さを取り戻す)

hazy moon/ the way home/ getting longer (いつもより帰路長くなる朧月)

moonless night/ in his palm/ my hands (無月かな 彼の手の平に私の両手)

hole in the roof/ inherited from grandma/ spring full moon (屋根穴に春満月や祖母の家)

autumn chill/ moon on the water/ covered with leaves (秋寒や水面の木の葉 月隠す)

薫風川柳を拾い出す

水野 黒 兎

所屬している「ほたる川柳同好会」は平成四年の橋高薫風先生による豊中市萱池公民館での川柳講座の受講生が講座終了後に立ち上げた会です。創立後の数年は薫風先生が時折句会に参加され句会の運営など何かと指導されました。その折に薫風先生が詠まれた句があり、散逸してはもったいないのでほたるの古い句報から拾い集める作業を行い、合計四十六句を拾い出すことができました。中には橋高薫風川柳句集に収載された句もあります。例えば

見舞い客土筆を摘んで来てくれる

水鳥へ鶴のつがいは身じろがず

若社長頭は切れて肚がない

梅田から来て新宿の混み具合

などです。またこんな句も句集に載っております。

プリンスの恋 美しく父子二代

この句は平成五年の一月の作品で、間もなく新天皇になられる今の皇太子の結婚が平成五年六月のことでしたから、薫風句はご婚約が発表された後に詠まれた句と思われまます。さらに次の句も句集に収載されています。

普茶料理 子供はじつとしていない

口癖に言つてたことが遺書となり

ただし、この句のほたるでの初出は

口癖に言つてたことが遺書にない

となっております。

ほたるの句会で発表された句で薫風句集に載っていない句は川柳塔のみなさまの目には触れる機会が少ないと思われ、紹介させていただく次第です。

老樹亭新しい恋生れそう

鍋物を出す祇園町とはなりぬ

朝からの雨に信心試される

頂に立つてまだまだ生きる欲

したたかな白はどくだみ草の白

一生のことを決めるに易を借り

ようやくの不惜身命だ立派

この句は平成六年十二月の句会での句です。貴乃花が横綱昇進したのは十一月

のことであり、その伝達の席で新横綱が使った四字熟語が不惜身命でした。なお白鵬関は全身全霊、鶴竜関は一生懸命でしたが稀勢の里関の場合は「横綱の名に恥じぬ様にならばります」の言葉のみで特に四字熟語の使用はなかったようです。

まだまだ薫風句を紹介します。

シナリオは妻にまかせたフルムーン

夜が明けて病ようやく峠越す

人柄が良く選ばれたわけでなし

二日酔いあの一言の悔いもあり

適当を心得ている百三歳

その日以後六甲動し雲低く

これは平成七年二月のほたるの句会における「阪神大震災」の兼題の句です。

さて最後に句集に未収載で私の好きな平成十二年十二月の句を紹介しておきます。

凝りに凝り管長の書は〇一つ

ほたる川柳同好会に私が参加したのは発足後数年経ってからで初期の頃の薫風句を拾い出すための資料提供には同人藤原桂子さんのご協力を得たことを謝して付記致します。

誹風柳多留——二篇研究 69

安六智²

という句もあるように、それを二三度着たら太鼓などへやってしまふのを見得としたから、「羽二重は一人で着切る物でなし」ということになる。通を張るのも大変だ。

羽二重をほろ迄着ルハげびたもの

天五鶴¹

山田昭夫・石川道子
小栗清吾・細井龍夫
伊吹和男
清 博美

小栗 賛。例句適切。
清 賛。

585 らんびんの男のかけるときわはし

伊吹 雨譚注に「けんくわして北の番所也」とある。乱髪は、乱髪と同じで、乱れた髪。『江戸文学地名辞典』の常盤橋の項に、

一石橋と竜閑橋の間、常盤橋門外に架かる橋。(中略)橋詰には、寛永八年から

享保二年まで北町奉行所があった。

とある。乱れた髪の方が、北町奉行所へ急訴のため駆けている。例句は手鎖。

うでの無い男の通るときわはし 一三二二

山田 賛。なお、本句は寛政の改革で削られています。

石川 賛。この当ても北町奉行所は常盤橋門内にあったと思います。ただし、中町奉行が改称した北町奉行所だったと思えます。

細井 賛。でも、個人が直接奉行所へ訴えることができたのでしょうか？

清 賛。句は趣向である。事実をそのまま句にしているとは限らない。

586 羽二重はひとりで着切るものでなし

山田 黒羽二重の着物は、一般庶民などは一生に何度着るかというような高級品。ところが、吉原に出掛ける遊客にとつては、

あくまで黒ひ羽二重でむすこ出る 拾四三〇

のごとく、黒羽二重は吉原などに出掛ける通人の一種のステータス・シンボルであった。ところが、

羽二重ハ二三度着るが本の事 笈初⁴¹
二度着るとたいこにくれるあきつほさ

587 朝かへりあしたに道を見て居る

山田 朝帰りのどら息子、「朝に道を知っている」。道は人倫の道。親父からこっぴどく説教されているのだ。

朝かへり入レ齒のぬける程しかり

明六満¹

この句は『論語』の「子曰、朝聞レ道、夕死可矣(里仁)」を踏まえたものだが、

あしたに道を知夕部に夜這ひ 安六五⁵⁵

なんていう句もあるから、どこまで効果があるのやら。

清 賛。文句取の句。

588 遠藤八亀戸近藤つく田也

山田 遠藤は遠い藤。近藤は近い藤。江戸で藤の名所は、日本橋から見て近い藤は住吉神社、遠い藤は亀戸天神といったまでの言葉遊びの句。

藤を見ながらにわつかかな渡海也 二四二五

亀井戸の藤へふらりと宿下り 二二二六

清 賛

589 此国で左衛門とつくふといやつ

山田 雨譚註「日本左エ門」。つまり歌舞伎「白

浪五人男」でお馴染みの日本駄右衛門のこと。

本名は浜島庄衛門。遠州を中心に活躍した大

泥棒だったそうだが、その盗賊が、こともあ

るうに、この国の日本の名を名乗っているとは「太い奴」だ。

日本左エ門に大将の相 ケイニ五上 30

清 賛 この盗賊の墓が、静岡県磐田市に

ある。

590 そろ引いて出たで時宗とつかまり

山田 富士の裾野で父の敵工藤祐経を討った

曾我兄弟。兄十郎祐成は仁田四郎忠常に討た

れ、弟五郎時致は御所の五郎丸に搦め捕らえ

られる。尋常では勝てないと思つた五郎丸は

女の着物を「そろ引いて出た」ので、時致は彼を女と誤つて油断して「と捕まり」という次第。

ふり袖にうつかり蝶く押へられ 六一 29

五郎丸ふわりとぬいでしがみつ き 二四四乙

清 賛 時致ともあろう者が、どうして五郎

丸ごときに。

591 ぼうつきハ水打つてくるひらく也

山田 不明句。棒突きは「社寺の境内などを

六尺棒を突きながら警固する男。また、辻番

所の番人などをもいつた」(「広」)。どうもハツ

キリしない。何時も巡回で歩き馴れているの

で、打ち水をされても、器用に体を開いて避

けたとでもいうのだろうか。

棒突キハ欠ビの顔を水かゞみ 一三七 36

細井 礎のようなことか。判然とせず。

伊吹「辞彙」の「棒突」の項に主題句があり、

その短注に「水を避ける」とある。先人のこ

意見を尊重して礎賛。

清「打つてくるひらく」、こういう言い方を

したのであるか、礎稿及び「辞彙」の解でい

いのかも知れないが確信出来ない。

592 松が岡江戸の内から聞いて行

山田 縁切寺で知られる鎌倉松が岡東慶寺。

覚悟を決めて家を出たものの、行き先の地理

など一向に不案内で、「江戸の内から聞いて

行き」。これから先の不安をも感じさせる句

である。

593 目の上へ両手をあてゝ嫉遊る

山田 嫁が本元服で眉を剃る。妙な顔になる

ので恥ずかしい。本元服は妊娠した時などに

行うから、それを周囲に知られるのも恥ずか

しいのだろう。「女子は通例婚期に及んで髪

の風を髪へ歯を染めたものである。(略)お

齒黒だけ附けるを半元服と称し、更に眉毛を

剃落すを本元服と称し、通例は懐妊或は分娩

の後になすものなれ」(「川柳風俗志」)。

目の上をそりくくおしい事 一五三

毛うけをハうつちやらかしてにけるなり

清 賛 眉落しとお齒黒、いつも思う、不思議な風俗であると……。

安四叶 1

愛染帖

新家 完司 選

(投句278名)

おじいさんを生前贈与いたします
(評) 奈良県 渡辺 富子

だんだん口やかましく頑固になってきた連れ合い。子や孫に「贈与するよ」と言っても誰も知らん顔。困ったものである。
土佐清水市 辻内 次根

ほろ酔いするとき通販を利用する
(評) 酒は理性を麻痺させ気分を高揚させるので衝動買いすること多々あり。飲んだときは通販サイトもカタログも見てはいけない。
貝塚市 吉道あかね

そうですもん あほですなんと逆らわず
(評) 誰かの口ぐせ「アホちゃうか」に対しての返答。確かに内容は「お言葉通りです」で従順に思えるが、負けん気は見え見え。

看護師に熱いリーダー照射する
堺市 加島 由一

別嬪看護師も感知しているリーダー。さて、心地良く感じているのか、韓国の艦艇から受けたように不快に思っているのか?

奈良市 大久保眞澄

一日中夫が家にいるのです

(評) 「仲の良いことで羨ましい」と言うべきか、「それは鬱陶しいことだ」とお慰めするべきか。前者は極めて異例。いや異常か?

東京都 川本真理子

老骨に沁みる平年並みの冬

(評) 高齢になると体内で熱を造り出す力が弱まり時には「老人性低体温症」になる。平年並みどころか暖冬でも寒いぞ。

神戸市 上田 和宏

明治以来一升瓶は変わらない

(評) 一升瓶の誕生は明治19年頃とのこと。尺貫法廃止後も一升瓶の名称も形状も変わらない。清酒と一升瓶は不滅、であってほしい。

鳥取県 斉尾くにこ

機嫌良くしているだけで人助け

(評) 機嫌の悪い人と接しているとこちらまで滅入ってくる。「明朗快活」は周囲を幸せにするパワーがある。人を助ける福の神だ。

沖縄県 禰 モモト

人間の万能薬は恋らしい

(評) 片想いであっても、人を恋い慕うことは生命力を強める。どのようなサプリメントより「恋は若さと長寿の万能薬」である。

羽曳野市 吉村久仁雄

どんどん忘れて脳を軽くする

(評) 恥をかいたこと、腹を立てたこと、苦

しかったこと、嫉妬したこと等々を覚えていると重たくて苦しい。どんどん忘れよう。
神戸市 山口 光久

透け透けのバッグで売らぬ福袋
鳥取県 山下 節子

私は死角だったか福の神
防府市 坂本 加代

帰省した子の明るさに急浮上
八尾市 宮崎シマ子

年明けてからの平成大切に
枚方市 山口弘委智

大半は一字も自筆なき賀状
奈良市 米田 恭昌

ハズキルーペの回し者かもこの賀状
豊中市 藤井 則彦

止めたたくてもいざ止められぬ年賀状
河内長野市 中島 一彌

余命減る何が目出度いお正月
岡山市 丹下 凱夫

元日やちよつと気張って一万歩
海南市 小谷 小雪

おむすびを愛で正月の昼ごはん
豊中市 松尾美智代

夫婦の会話和やかにするお正月
八王子市 川名 洋子

三日目はうろろとする寝正月
大阪市 金川 宣子

正月が済んで緩めの服を着る

松原市 森松まつお
誰にでも出来る訳でもない詐欺師

三田市 丹羽 美恵

ゴキブリが凍死しているエコの家

三田市 村田 博

深いお辞儀やはりマニュアル通りだな

鳥取市 田賀八千代

使い捨てが増えて山泣く海も泣く

明石市 糘谷 和郎

貝類は砂をヒト科は泥を吐く

三田市 福田 好文

駅伝の先導バトがかっこいい

万博まで生きると決めて今日も酌む

下松市 有海 静枝

検査画像執行猶予つき無罪

無防備な物体と化す医師の前

川西市 山口 不動

成人の孫の心配やめとこう

新聞はまずチラシから妻は読む

八尾市 村上ミツ子

かんたんなかんじかけなくなってきた

ねむれないねむれないよとねてしまふ

大阪市 樋口 眞

お雛さん永く幽閉されたまま

豊中市 木藤こみつ

ここはどこ梅田の北の変わりよう

カルロスゴーンお前も金が好きよのう

ラブホテル送迎バスは来てくれぬ

河内長野市 穂口 正子
いつの間にか空母が浮かぶ海となり

沖繩県 宮 すみれ

サンオイルさんご放卵邪魔をする

仙台市 月波 与生

上座でも下座でも同じ会費制

岡山県 藤澤 照代

井戸端を盛り上げているスキヤンダル

札幌市 三浦 強一

飯の世が楽しく常世へは行けぬ

大阪市 大川 桃花

背中腰足の裏にも懐炉貼る

三田市 多田 雅尚

家の中確認メモが増えてきた

国に怒り今が第三反抗期

災害と変革目立つ平成史

榎原市 居谷真理子

風邪を引くたびに老人くさくなる

大洲市 中居 善信

気弱の私を守る皮下脂肪

年月を刻むと染みと皺になる

三田市 上田ひとみ

暖冬と言うが私にきつい冬

体重は今人生のピークです

ぶよぶよのからだどころ鍛えた

堺市 奥 時雄

カニ食えば冬もいいなと思つたり

予算上ロシアのカニも仲間入り

沖繩県 森山 文切
爪切りに連絡先が書いてある

大阪市 平井美智子

手の皺が卍模様になっている

宝塚市 岸田 万彩

役に立つならば払おう消費税

尼崎市 清水久美子

発掘をしたのは鶏のガラだった

松江市 梅瀬みちを

おじいちゃん言われ始めてもてきた

岡山市 大石 洋子

おばさんになって自分がいとらしい

三田市 堀 正和

エンディングノートを書く元気出る

佐賀県 真島久美子

書き辛い万年筆をありがと

松江市 石橋 芳山

忘れたいことあり三点倒立

黒石市 北山まみどり

怒るのをやめて金平糖になる

京都市 都倉 求芽

ひとり見る部分日食ひまだから

岡山県 高岡 茂子

ピンクの泡入浴剤で若返る

唐津市 仁部 四郎

戒名に入れやすい名を親がくれ

青森市 守田 啓子

向こう側に行くつて物を捨てる事

川柳に照準旅行プラン組む
西子市 黒田 茂代

枚方市 谷 英也

川柳漬け絞ってみたが滲み出ず
貝塚市 石田ひろ子

句を作る苦しみ生きる糧にする
高槻市 初代 正彦

句会まで大阪締めで景気づけ
鳥取市 岸本 宏章

選評が欲しいと思う難解句
岡山県 紫 しめの

天地からは非を問われている便利
寝屋川市 伊達 郁夫

冷たい手温い手どれも私の手
大阪府 小野 雅美

修造も黙っていたらいい男
松江市 中筋 弘充

国会乱闘幼児に見せぬようにする
大阪府 森田 遊子

AIに指図をされて喜々とする
西宮市 福田 正彦

AIが生身の人を追放か
大阪府 谷口 義

ごぶさたをしておりました星影のワルツ
橋本市 石田 隆彦

ころころと転ぶまあるくなり過ぎた
鳥取市 前田 楓花

熟れすぎて異臭放たぬようにする
鳥取市 前田 楓花

まだ曲にならないお隣のギター
堺市 村上 玄也

鳥取市 福西 茶子

ハイヒール履いて微妙な口の位置
三田市 谷口 修平

サンタさん進駐軍が連れてきた
大阪府 笠嶋 惠美

ごちそうも食べているのにシワだらけ
弘前市 稲見 則彦

妻は角夫は牙を捨てました
沖繩県 あらさくら

砂に書く相合傘を涙が呑む
河内長野市 坂上 淳司

心では決めたが書けぬ尊厳死
河内長野市 山岡富美子

優しいねきつと修羅場を踏んだのね
松山市 栗田 忠士

労われ過ぎて意地が邪魔をする
鳥取市 倉益 一瑤

言いたい事いっぱいあるが黙つとく
神戸市 細川 花門

余命より預金残高気に掛かる
大阪府 宇都満知子

換気扇の掃除ハートにも風が
宝塚市 丸山 孔一

平和ボケも一度世界見回そう
岡山県 田中 恵

過去形の話が弾む春炬燵
岡山県 田中 恵

老いるとはこんなことかと昼寝する
広島市 岸本 清

河内長野市 原熊知津子

まっ直ぐで真面目な芯はすぐ折れる
倉吉市 大羽 雄大

バランス力片足立ちの五秒間
熊本県 岩切 康子

暮れの怪我夫に済まぬ事ばかり
宇都市 平田 実男

コマーシャル通りに効けば医者いらす
神戸市 富永 恭子

節制ができないままにドツクの日
米子市 後藤 宏之

日めくりで怒られながら日が過ぎる
鳥取市 奥田 由美

胃袋がデカくて向かぬダイエツト
池田市 太田 省三

何か起きる私の明日は万華鏡
藤井寺市 若松 雅枝

足腰が留守番役で良いと言う
横浜市 菊地 政勝

電動の身分じゃないとペダル踏む
寝屋川市 籠島 恵子

行列までしても食べたい物がない
鳥取市 山下 凱柳

無いならば無いなり生きるケセラセラ
羽曳野市 徳山みつこ

けちんばで勿体ないを忘れない
羽曳野市 徳山みつこ

河内長野市 村上 直樹
あらばしり浴びてこころの錆おとし

西宮市 緒方美津子
灯が点る下戸の知らない裏通り

池田市 上山 堅坊
似た者が寄って駆け込む縄のれん

三原市 笹重 耕三
いざこざを白紙に戻すコップ酒

神戸市 近藤 勝正
幸せはこんなものかと独り酌む

笠岡市 藤井 智史
グダグダと一人芝居の酒を呑む

藤井寺市 鈴木いさお
嘘ひとつ吐いて呑んでる苦い酒

大阪市 江島谷勝弘
猪口一杯で茶碗を叩く友が居る

府中市 岸田 武
ほろ酔いの初春大胆な夢になる

鳥取市 夏目 一粋
帰宅して鏡を脱いで先ず一杯

三田市 北野 哲男
悪酔いも桃源郷も君次第

豊中市 水野 黒兎
ほろ酔えばキミは楊貴妃ボク竜馬

羽曳野市 中川ひろ介
祝い酒いい声出てる出初式

堺市 澤井 敏治
高血圧に効くと信じて赤ワイン

堺市 矢倉 五月
休んだ方がましと言われた二日酔い

和歌山市 上田 紀子
二日酔いで済まずジイちゃん三日酔い

大阪市 田中ゆみ子
休肝日元気が明日にしてくれる

高槻市 片山かずお
妻や子にボクが主と言ひ聞かす

松山市 郷田 みや
定年後つかず離れず平和です

尼崎市 山田 耕治
スニーカー三日坊主を笑ってる

大阪府 米澤 俣子
歩道橋渡る夕陽と救護へり

河内長野市 藤塚 克三
大寒波トイレ重ね着手間かかる

大阪市 柴本ばつは
賑やかな机勉強してへんな

八尾市 高杉 千歩
やがてロボットも流暢な大阪弁

鳥取市 池澤 大鯨
鶏とともに目覚めてつれづれに

奈良市 阿部 紀子
老後への心構えが出来てない

唐津市 坂本 蜂朗
張り切れば横を向いてる足や腰

大阪市 磯島福貴子
水たまり目測誤認びつちやびつちや

男鹿市 伊藤のぶよし
握手なら素手小細工はもういらぬ

米子市 池田 美穂
君が代の練習もいる選手達

高槻市 原 洋志
休んだらそのまま老けてしまいたいそう

堺市 楠井 輝子
人と人金砂泥が入り混じり

鳥取市 上山 一平
病んだ菌に麻酔が口を河豚にする

沖繩県 下地香代子
初恋の人が今では時の人

奈良県 中堀 優
雪合戦なぜか貴女を狙ってた

箕面市 中山 春代
免許証返して変わるテリトリ

寝屋川市 岡本 勲
体力は落ちたがついた忘却力

紀の川市 楠原 富香
古家に住んでパソコンもてあそぶ

奈良県 長谷川崇明
行程の程が分からずする苦勞

和歌山市 磯部 義雄
挨拶が隣の扉を低くする

大阪市 津守 柳伸
快方に向かう米寿の三分粥

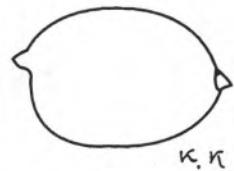
羽曳野市 宇都宮ちづる
病室に殺せと叫ぶ人が居る

共選欄

檸檬抄

(薰風書、カットとも)

(投句 358名)



「あれこれ」 川端 一步 選

あれこれを探せばあふれてるヒント
 あれこれと背中にしよつている不安
 迷い箸だから人生おもしろい
 あれこれとマネキン飾る春の彩
 あれこれとまゝあるもんだサブリ類
 あれこれ混ぜたらあかん破裂する
 あれこれと欲は出すまい寺参り
 あれやこれいじめをバネに世を泳ぐ
 明日からやりたいことが二つ三つ
 燃えるものまだあれこれと持っている
 あれこれのお誘い脇の甘さかも
 あれこれと生き方変えず生きてきた
 あれこれの中にはボケも入れておく
 あれこれと夢語り合う三が日
 初弘法あれこれ探す目も肥える

富田林市 中村 恵
 笠岡市 藤井 智史
 河内長野市 村上 直樹
 伊丹市 岡村 風琴
 大阪市 岩崎 玲子
 大阪市 柴本ばつは
 和歌山市 福井 菜摘
 和歌山市 松原 寿子
 三田市 上田ひとみ
 倉吉市 岡崎美知江
 高槻市 初代 正彦
 和歌山市 福島 一雄
 松江市 藤井 寿代
 羽曳野市 吉村久仁雄
 八尾市 宮崎シマ子

「あれこれ」 山岡 富美子 選

駄菓子屋で迷う子供のワンコイン
 あれこれと新元号が語りだす
 あれこれと音符はみ出る人生譜
 やることはあれこれあるが明日にする
 あれこれと言うから器狭くする
 あれこれと指図してくる電子音
 あれこれと絡んでくるの好きだから
 サブリメントあれこれ止めて歩いてる
 あれやこれ一步踏み出す前の事
 あれこれの殻を破って年明け
 あれこれと試してみたが太り気味
 断捨離とあれこれ出してまた仕舞う
 あれこれとまゝあるもんだサブリ類
 あれこれと一度に啜えないパンダ
 あれこれと言わず頑張れだけを言う

明石市 糀谷 和郎
 四條畷市 吉岡 修
 鳥取市 中村 金祥
 高槻市 片山かずお
 名古屋 富田 末男
 大阪市 古今堂蕉子
 大阪市 坂 裕之
 札幌市 小沢 淳
 藤井寺市 太田扶美代
 尼崎市 清水久美子
 河内長野市 藤塚 克三
 堺市 矢倉 五月
 大阪市 岩崎 玲子
 高槻市 初代 正彦
 鳥取市 大前 安子

あれこれと水に流して生きて来た
あれこれの秘密もあつて台所
絡み合う糸をあれこれ模索する
あれこれとたまには悪いこともする
雨の日もありましたねと日向ほこ
あれこれのいい思い出を抱く宝
あれこれと指図してくる電子音
あれこれと託すA-I御用心
平成に思いいろいろ込めておく
あれこれと新年号を押し量る
新元号あれこれ言わぬ平和だけ
長らえて嬉しい知らせにも出会い
あれこれと頼まれ背筋ピンとなる
あれこれと悩むあいだは惚けてない
あれこれと詮索はせぬケセラセラ
雑用が好きでキラキラしています
戦後処理あれこれ未だ喉に骨
チャレンジをあれこれ明日へ翔んでみる
あれこれと謂われて強くなつた僕
私の人生私がいめる
あれこれと絡んでくるの好きだから
あれこれと想い出させる皺の数
あれこれと悩んだ末の見ないふり

高槻市 富田 保子
藤井寺市 鴨谷瑠美子
和歌山市 北原 昭枝
米子市 後藤 宏之
貝塚市 吉道あかね
香芝市 大内 朝子
大阪市 古今堂蕉子
西宮市 福田 正彦
四條畷市 吉岡 修
大阪市 田中 廣子
西宮市 福島 弘子
三田市 堀 正和
門真市 坂本 星雨
尼崎市 藤井 宏造
大阪市 江島谷勝弘
佐賀県 真島久美子
堺市 奥 時雄
箕面市 出口セツ子
枚方市 丹後屋 肇
大阪市 田中ゆみ子
大阪市 坂 裕之
松江市 石橋 芳山
三田市 九村 義徳

チャンネルをあれこれ押して昼ご飯
寝たきりになつてあれこれわかる愛
売れ残りあれこれつめる福袋
あれこれと水に流して生きて来た
あれこれと背中にしよつている不安
めんどうの種が一斉芽吹く音
迷い箸だから人生おもしろい
あれこれと言うなただ今反省中
あれこれの秘密もあつて台所
あれこれと用意母さん歳だから
あれこれと子を氣遣つて疎まれる
三種五種薬味が過ぎて狂う味
あれこれと行く先々に用事あり
言い訳をあれこれ逃げ場だけ残す
欲張つた趣味もそろそろ終活期
あれこれと指図はしても手は貸さず
あれこれとつべこべ二人とも白髪
あれもこれも鬻つてみたい好奇心
門灯が見えて言い訳考える
心配性あれやこれやと楽しそう
あれこれと思いうちには死ねないな
胸底にあれこれ畳み丸く住む
あれこれと仕事見つけて忙しい

岡山市 工藤千代子
岡山市 中崎 深雪
豊中市 木藤こみつ
高槻市 富田 保子
笠岡市 藤井 智史
河内長野市 穂口 正子
河内長野市 村上 直樹
三田市 谷口 修平
藤井寺市 鴨谷瑠美子
八尾市 宮崎シマ子
河内長野市 木見谷孝代
岡山市 永見 心咲
防府市 坂本 加代
大洲市 花岡 順子
鳥取市 福西 茶子
上尾市 中村 伸子
唐津市 仁部 四郎
神戸市 山口 光久
唐津市 山口 高明
尼崎市 藤井 宏造
三次市 伊藤 寿子
東かがわ市 川崎ひかり
鳥取市 土橋 螢

産湯からあれこれ背負う過疎の村
予定ある日目をあれこれこなす幸
清濁を併せ家族の壁になる

鳥取市 福西 茶子
今治市 渡邊伊津志
弘前市 福士 慕情

春夏秋冬景色あれこれ変わる絵図

奈良県 長谷川崇明

あれこれと刺激を受けるチコちゃんに

岩国市 上村 夢香

長男が背負いきれないあれやこれ

鳥取市 加藤 茶人

あれこれを忘れて恐くなる私

米子市 中原 章子

あれこれと選ぶ楽しさ気は若い

上尾市 中村 伸子

終活へ気になることのあるあれやこれ

藤井寺市 鈴木いさお

諸説ある卑弥呼畿内であつて欲し

高槻市 松岡 篤

人は人あれこれ言わず先ず一歩

堺市 内藤 憲彦

あれこれと選んだ言葉憎まれる

大阪市 小野 雅美

あれこれと気づかう母の大わらい

奈良市 山本 昌代

任せると言つてあれこれ口を出す

藤井寺市 太田扶美代

あれこれと考えたつていつか死ぬ

鳥取市 倉益 一瑤

あれこれと酒の肴にまだぐせる

唐津市 仁部 四郎

あれこれと御託を聞いて機を逸す

奈良県 安福 和夫

暗闇の中で鍛える耳と鼻

弘前市 高瀬 霜石

あれやこれ捨てても残る想いあり

奈良県 渡辺 富子

秀句

天元へ打つてあれこれ考える

羽曳野市 三好 専平

あれこれの殻を破つて年明け

尼崎市 清水久美子

あれこれと火種抱えている地球

和歌山市 土屋起世子

夢掴む話あれこれ子の巣立ち

八尾市 宮西 弥生

決断がいくつもあつて腹が減る

佐賀県 真島久美子

無作法と躰られてる迷い箸

大阪府 米澤 俣子

映像で兼高さんと飛んだ旅

八尾市 山根 妙子

百円の違いに迷う年金者

札幌市 三浦 強一

晴れマーク今日の予定にある流れ

土佐清水市 辻内 次根

悩みなさい忘れてしまわないように

黒石市 北山まみどり

あれこれの苦の種生えた月の裏

羽曳野市 徳山みつこ

言われたらあれこれ言わずハイと言え

大阪市 近藤 正

思い出すあれやこれや親の恩

富田林市 山野 寿之

あれこれと越えて来た人穏やかに

雲南市 永見 安子

あれこれも真正直な僕の勝ち

鳥取市 上山 一平

あれこれは切手を貼つて送り出す

和歌山市 古久保和子

不良にもあつた不良だけのルール

弘前市 高瀬 霜石

常識はつまらぬ非常識は嫌い

倉吉市 牧野 芳光

あれこれと水漏れ増してきた老後

千葉市 海老池 洋

込めすぎた思いに言葉飛び立てず

橿原市 居谷真理子

十指みなあれこれ迷うことばかり

仙台市 月波 与生

あれとこれはしっかり区別つけておく

寝屋川市 籠島 恵子

秀句

結んでもするり抱きしめてもするり

豊橋市 高柳 閑雲

気遣いの出来る大人になりました

紀の川市 楠原 富香

あれこれはやがて花咲く種だった

枚方市 藤村 亜成



春を待つ

花粉症の人は春が近づいてくると鬱陶しくなるかもしれないが、寒さが苦手な高齢者にとつて暖かい陽射しは何よりのプレゼント。厳冬に耐えたご褒美とも思えます。

蹟いた場所であつくり春を待つ

デパートで春を見ました今日も雪

派手な服部屋に吊るして春を待つ

光熱費始末のできる春が来る

さわさわと頭の虫が騒ぐ春

プレイボール春はじゃがいも植えてから

日が暮れてからの考え事は悲観的になりがちです。暗闇に

パワーを吸い取られるのかもしれない。同じように、寒い

季節は身体だけではなく心まで委縮させます。蹟いても慌て

ず、暖かい春風を受けてからゆつくり立ち上がりましょう。

外は雪でも、デパートの婦人服売り場は春爛漫。負けずに

派手な服を吊るすだけでもヤングパワーが湧いてきます。

暖房費が節約できるのも春の嬉しいところ。頭の虫が騒ぎ

だしたらジャガイモを植えて「プレイボール」です。

春一番いい名もらつた暴風雨

踏切をトワツと渡る春一番

春一番通過 白線までさがる

やつと来た春一番にほつとする

啓蟄だほつぽつ外を見なくては

啓蟄に炬燵の尻も落ち着かず

東横ますみ

今井 奎子

渡辺 富子

奥澤洋次郎

井丸 昌紀

細田 裕花

小佐野昌昭

小谷 滋彦

鴨谷瑠美子

川名 洋子

濱野 靖子

菊本 誠忠

春一番とは「立春から春分の間」、その年に初めて吹く南寄りの強い風」のこと。暴風そのものは歓迎できませんが、春を運んでくれる風だと思つてウエルカムです。

虫たちが動きはじめる。人間の尻もモゾモゾ。筋肉も脳味噌もふやけさせてしまつ炬燵から脱出しましょう。

腐線を歩く集いで土筆摘む

恰好はボランティア風ワラビ採り

ウォーキング進路を変えてワラビ採り

小石蹴り少しよろめく春の道

羽衣が欲しいと思つ春霞

道頓堀に力士行き交い春が来る

春の楽しみの一つが土筆やワラビなどの山菜採り。ほろ苦

い味もいいものですが野山を歩くことが大いなる喜び！

童心に戻つて小石を蹴るのも、春霞に天女の気分になるの

も陽気が為せるところ。三月十日からは大阪場所です。

手袋のいる日いらぬ日春間近

春先のカイロは店の隅にある

スカートに包みきれない春の足

春風が吹いてきたのに痛い足

春風にふわり理性も油断する

何やかや言つても春はやつて来た

三寒四温とはよく言つたもので「ああ、やつと春！」と弾

んでいたら冬將軍がウターン。手袋も出たり入つたり忙しい

ことです。春色のスカートをひるがえてして颯爽と歩きたいの

に足が痛いとは残念。頭の痛いことが何やかやあつても、肩

の力を抜いてくれる春は間違いなくやつて来ました。

大賀 心月

和田 三郎

竹信 照彦

藤本 直

石田ひろ子

矢野 良一

緒方美津子

村中 悦男

吉田あずき

小柏こずえ

大内 朝子

上田ひとみ

「モットー」

(投句 233名)

藤 村 亜 成 選



今年またボーツと生きることにする
 モットーは節約でしようどなたでも
 ソムリエの舌は妥協を許さない
 モットーに背いてないか日記見る
 モットーを貫き散った貴乃花
 気を持たず返事なるたけせのように
 モットーも方針もない答弁書
 ハイテクの中でモットーうろたえる
 報恩の念モットーに朝の経
 貧乏の暮しをいつも忘れない
 なるようになるさ明日を待つてみる
 てつべんに愛優しさそつと添え
 美しく老うモットーを模索中
 化粧せざルージュ一本あればよい
 西郷どんの生き様に見るブレの無さ
 味自慢店主の主義を食わず店
 消えそうなりベラルだけは抱いている
 しがらみを捨てよう余生のモットー
 しないのは自分がされていやな事
 守れないモットーがある不摂生

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-------|----|----|------|----|----|------|----|----|-----|----|---|----|----|----|-----|----|----|------|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-------|-----|-------|-----|----|---|-----|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|-------|-----|----|----|
| 三田市 | 北野 | 哲男 | 大田市 | 笠嶋 | 惠美 | 倉吉市 | 大羽 | 雄大 | 篠山市 | 酒井 | 健二 | 南あわじ市 | 萩原 | 狸月 | 富士見市 | 中島 | 通則 | 和歌山市 | 脇田 | 雅美 | 大阪市 | 武本 | 碧 | 堺市 | 遠山 | 唯教 | 神戸市 | 富永 | 恭子 | 寝屋川市 | 川本 | 信子 | 朝霞市 | 前田 | 洋子 | 香芝市 | 山下 | 純子 | 大阪府 | 津村志華子 | 伊丹市 | 延寿庵野鶴 | 高槻市 | 松岡 | 篤 | 白河市 | 鈴木たけし | 岡山市 | 大石 | 洋子 | 江南市 | 脇田 | 雅美 | 福原市 | 居谷真理子 | 唐津市 | 仁部 | 四郎 |
|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-------|----|----|------|----|----|------|----|----|-----|----|---|----|----|----|-----|----|----|------|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-------|-----|-------|-----|----|---|-----|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|-------|-----|----|----|

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|-----------------|---|---------------|---|-----|----|----|-------|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|-------|------|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|------|----|---|-------|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----------------|---|---|---------------|----------------|----------------|---------------|---|----------------|---|-----|-------|-----|--------|-----|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-------------------|------------------|----------------|-------------------|-------------|-----------------|----------------|-----------------|------------------|----------------|------------------|-----------------|-----------------|
| 頭打ち続け瘦せる主義主張 | 軸 | 旗立てるほどのモットー持たず蟻 | 天 | モットーを外し発想から飛翔 | 軸 | 下松市 | 有海 | 静枝 | 河内長野市 | 森田 | 旅人 | 堺市 | 内藤 | 憲彦 | 大阪府 | 江島谷勝弘 | 三田市 | 上田ひとみ | 藤井寺市 | 太田扶美代 | 池田市 | 上山 | 堅坊 | 弘前市 | 福士 | 慕情 | 鳥取市 | 岸本 | 宏章 | 富田林市 | 中村 | 恵 | 河内長野市 | 辻村 | ヒロ | 弘前市 | 高瀬 | 霜石 | 岡山市 | 永見 | 心咲 | 鳥取県 | 門村 | 幸子 | 靴だけは明日へ向けて脱いでいる | 佳 | 句 | 自分発自分着だという言葉業 | 半音を下げてあなたと会話する | 一輪の花をボロ家に欠かさない | モットーは自然発生する笑顔 | 人 | モットーを質すが如き除夜の鐘 | 地 | 米子市 | 後藤美恵子 | 男鹿市 | 伊藤のぶよし | 佐賀県 | 真島久美子 | 海南市 | 小谷 | 小雪 | 大阪市 | 森田 | 遊子 | 香芝市 | 大内 | 朝子 | 「今を生きる」寿命を意識してからは | 根があつてこそその樹肝に銘じけり | 直立を通す案山子のスローガン | 「今を生きる」寿命を意識してからは | 発言の撤回私ならしない | モットーは自分らしさという若木 | 捨てるものすつきり出して私色 | 師の背なに僕の指針が書いてある | 趣味と恋死ぬまで抱いてピンコロリ | 目標が見えなくなってきた眼鏡 | 逃げたいと思うことこそやってみる | 命令系よろいはすべて拒否をする | 一円まで合わぬと幕を引かぬ主義 |
|--------------|---|-----------------|---|---------------|---|-----|----|----|-------|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|-------|------|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|------|----|---|-------|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----------------|---|---|---------------|----------------|----------------|---------------|---|----------------|---|-----|-------|-----|--------|-----|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-------------------|------------------|----------------|-------------------|-------------|-----------------|----------------|-----------------|------------------|----------------|------------------|-----------------|-----------------|

「調べる」

柳 田 かおる 選

(投句 230名)



お宝はないか押入れ大掃除
 献血をして健康をチェックする
 カタカナ語多くて辞書が手放せぬ
 私を調べてみれば穴だらけ
 嘘かほんとか調べて返事いたしません
 探査機が必死に探すレアアース
 落人の流れの匂いするお墓
 データ解析相手チームに弱味あり
 調べたら急にブルーになった恋
 調べても老化ですねで終るのよ
 辞書開く泉の枯れることはない
 脳の変化調べてみたいもの忘れ
 尺八の調べ昭和を引きもどす
 黒を白にする弁護士の調べ方
 すり減った刑事の靴が調べ上げ
 ネット検索はなぜか調べた気がしない
 重心がブレていないか振り返る
 調べれば調べるほどに湧く疑惑
 辞書めくる言葉の深さ美しさ
 腹の中調べられたら黒い闇

防府市 坂本 加代
 宝塚市 岸田 万彩
 三田市 九村 義徳
 神戸市 山口 光久
 西予市 黒田 茂代
 伊丹市 延寿庵野鶴
 大洲市 中居 善信
 河内長野市 原熊知津子
 西予市 西田美恵子
 大阪市 笠嶋 恵美
 土佐清水市 辻内 次根
 鳥取県 門村 幸子
 吹田市 須磨 活恵
 松山市 宮尾みのり
 大洲市 花岡 順子
 東京都 川本真理子
 大阪市 森田 遊子
 松山市 栗田 忠士
 河内長野市 森田 旅人
 大阪市 小野 雅美

人間のころ調べる辞書が無い
 充分に調べた上で不採用
 わたくしのルーツ調べる旅に出る
 スカウトの目利き性格まで調べ
 調べますか親子関係ねんのため
 それとなく声のトーンで顔色で
 CTがあばく私の冬景色
 フェイクニュース調べる前に拡散す
 人間ドック嬉しくはない響きだな
 ランチするお店スマホに聞いている
 天国か地獄か長い問診票

佳 句

石投げで池の波紋を見てみよう
 おじいさんの生態調査しています
 探査機が宇宙のロマン掻き立てる
 注射・検尿・注射・検尿 お会計
 追求はしない優しい嘘だから

富田林市 中村 恵
 藤井寺市 太田扶美代
 香芝市 大内 朝子
 三原市 笹重 耕三
 男鹿市 伊藤のぶよし
 三田市 上田ひとみ
 橿原市 居谷真理子
 大阪市 古今堂蕉子
 海南市 小谷 小雪
 豊中市 松尾美智代
 仙台市 月波 与生

札幌市 小沢 淳
 奈良市 大久保真澄
 弘前市 福士 慕情
 弘前市 高瀬 霜石
 大阪市 平井美智子

岡山市 永見 心咲
 黒石市 北山まみどり

佐賀県 真島久美子

迂闊にも人間図鑑また開く
 振り返るまだまだ解らない自分

軸

天

初歩教室

題 — 小さい

高瀬霜石

今号から、この欄を担当することになった高瀬霜石と申します。生まれも育ちも、津軽は弘前。次回から、ゆるゆる自己紹介もして参る所存です。何卒、よろしゅう。

「ここに投句してくる人たちは、初心者だから、添削というよりは、こうした方がいいんじゃないのかなという、君なりのアドヴァイスをしたまえ」というお上（ここでは、怖い先輩のこと）からのお達しなのであります。

「僕は、どうも、そういうのは苦手なので、なんとか勘弁して下さいな」と言ったらば、

「それは私も一緒だ。ココは、大変に難しいコーナー。だからこの際、前例にとらわれず、君の好きなようにやってかまわない」と、お墨付きを貰ったのですよ。ということ、僕の独断と軽薄さに、しばしおつきあい下さい。

添削をするのはいいけれど、でも、し過ぎ

ては作者の個性を殺すことになる——ここが難しいから、誰もやりたがらないのが本音。

①まずは、上の句と下の句の入れ替えから考えてみる。(▼が原句。▽が参考句)

▼靴の山小さい家に千客万来
これはもう、こうした方がいいでしょう。

寧

▽千客万来小さい家に靴の山

▼中川家小さい方がお兄ちゃん
照代

面白。だけど、ここは、頭が重くなっても、落ち最後は持つてこなくっちゃあ。

▽小さい方がお兄ちゃんです中川家

▼一円に泣いた事はありませんか
風露

この句、定形ではないが、これはこれで佳句だと、僕は思う。ただ、前句のように、落ちを考えれば、こうしてもいいのかな。

▽ありませんかな一円に泣いたこと

②助詞の、ちょっとしたチェック。

▼方便の小さな嘘に小さな罪
徳利

もつとたたみかけた。僕の好み。失礼。

▽方便の小さな嘘の小さな罪

▼一DK老老夫婦に丁度良い

老老とまで言わなくとも。ここは、素直に。

▽一DK老老夫婦には丁度良い

③作句上、これが一番肝心かもなあ。つまり「言い過ぎない」。みんな善人だから、ついついサービスピス精神過剰(説明し過ぎ)になっってしまう。これが、問題なのだ。

▼子供の頃の餓鬼大将は今首相
ゆき

餓鬼大将が出れば「子供の頃は」いらぬ。

▼あの頃の餓鬼大将は今首相

▼小心で石橋叩き渡る人
(東美智子)

「石橋叩く」が、すなわち小心者だから、せいせい！

▽石橋を叩いて今日も日が暮れる

▼小さい蟻 団体戦で家倒す
光雄

蟻は、元来小さいのだから「小さい蟻」は言わずもがな。この句の良さは団体戦。

▽団体戦は天下無敵の蟻である

▼羊羹は小さい方を選ぶ
紀美代

紀美代さんは正直。気持ちよく分かります。でも、もつとシンプルに。これでOK。

▽羊羹は小さい方を選びます

④この言葉でいいのか。この組み合わせでいいのか。この順序でいいのか。何度も、何

度も口で転がし、推敲してみろ。

▼ひそひそ話孫は耳立て聞いている 厚子

厚子さん。この言い回しは、どう考えても

無理があるっしょ。ここは素直に：

▼ひそひそ話孫も聞き耳立てている

ほんのちよつとの見直して、シンプルに。

▼定年を車も迎え軽に乗る (藤玲子)

▼定年を迎えて軽に乗り換える

▼小さくすると逃げ足早い諭吉さん 通則

▼くだいたらアツという間の諭吉さん

▼戦争はいつも始めは小競り合い 善輔

▼戦争の始めはいつも小競り合い

▼ずっしりと小さな肩にランドセル (南宏子)

▼小さな肩になんと大きなランドセル

▼大は小兼ねるなんては失礼な 雄大

▼大は小兼ねるだなんて失礼な

▼旅好きは荷物が奇襲コンバクト 三樹夫

▼旅好きの荷物見事にコンバクト

▼「小さい」をカットしても、大丈夫伝わる。

▼掌の小さなスマホに支配され (大洋子)

▼掌のスマホに支配されている

僕も、もう老人の部類だけれど、でも、

なるだけ「老」の字を使わずに作句しよう

と、日頃から心掛けている。勿論、僕の個

人的好みであって、強制はしませんよ。

▼少しずつ小さくなる背に老いの影 (門幸子)

▼少しずつわたしの影が小さくなる

▼古い二人小さいケーキでクリスマス 美恵

▼二人きり小さいケーキでクリスマス

次の句は、いい句だけれども中八。中八

はできるだけ避けたい。リズムがね。

▼小さい秋見つけてみたらと里の鐘 美那子

▼小さい秋見つけなさいと里の鐘

ちよつとだけインパクトのある言葉をつけ

足すのも、テクニク。いろいろやつてみ

て。

▼目元には小さい頃の面影が 重男

▼目元にホラ小さい頃の面影が

▼大浪も小波になるも風次第 恒

▼大浪も小波も明日の風次第

▼「二回り小さくなった里の母」に代表され

る小さい母の句が、わんさかあった。ただ、

同じ小さい母でも、このような姿にスポッ

トを当てれば、味わい深い句に仕上がる。

○葱刻む背が小さくなった母 隆子

○は佳句。◎は優秀句。

○すぐ腹を立てる私は小さいなあ なつみ

○傷口が小さいうちに処理しとこ 亜希子

○年金が小さくさせた守備範囲 里子

○但し書き小さい文字で書いてある 奈津子

○小さいが気にはなりません地蔵さん 不二夫

◎疲れたか妻が小言を言い出した 剛

◎タグ付けた小さな蟹が威張ってる 美穂

◎持ってます羽を休める小宇宙 よしお

第1回目だというのに、早速、卒業生を輩

出した。提出された3句ともに水準以上

だったので、次の2人は、もう強制的に卒業

です。

以後は、コッチは止して「一路集」や「ナ

ビ」にどんどん投句して、修行して下さい。

木藤こみつさん(豊中市)の楽しい3句。

○ちざい手に未来握っている赤子 こみつ

○見本よりだいが小さいエビフライ

◎ありんこをハズキルーベで見てもよう

米田利恵子さん(神戸市)の見事な3句。

○小さめの人造ダイヤくださいな 利恵子

◎梅こぶ茶小さなわたかまりを消す

◎小さめの鍋買ひ足した冬支度

次回の「免許皆伝」は誰か。お楽しみに。

川柳塔鑑賞

同人吟 伊達郁夫

— 2月号から

若さでは掴めぬものを持っている

牧野芳光

歳を取ると、つくづく若さには、勝てないと吐息混じりの今日この頃です。十歳のプロ棋士など、若い力に感嘆と敬服の念に目を泳がせています。しかし、年輪の重さには、若さだけでは、掴めないものがあるのだと、つい痩せ我慢が吐露してしまいます。

第九が流れる忘れものは無いか

松本文子

第九が流れる年の暮れ。一年の終章にふと、遣り残したことはないかと、気になつてしまいます。

関白だった遺影につこりいとおしい

津村志華子

関白亭主の遺影が、につこり微笑んで見える。亡き人への、愛しさが滲む作者の思いがじーんと伝わって来ます。

心まで変える仮面が恐ろしい

平田実男

仮面を被って、善人顔、余所行き顔、鬼の顔と使い分けている内に、心までもその顔になっていく自分に、はっと恐ろしくなる自戒。

うしろ手に閉めて封印する昨日

古久保和子

昨日のことは、忘れた事にして、封印しよう。敢えて襖を後ろ手で閉めるように。このうしろ手が、未練を込めた心情をうまく表現されています。

健康も夢追うためにあるのかも

榎本舞夢

健康の有難さを、私もつくづく感じています。健康あつての人生ですね。折角、健康な時間を頂いたので。明日の夢に挑戦しましょう。夢を追うために、頂いた健康だと信じて。

押せど叩けど開かないドアは撫でてみる

大川桃花

押しても、叩いても開かないかたくななドア、口、答え、態度には、優しく撫でてやる仕草こそ決め手です。この優しさに脱帽です。

遺産分けまだ曖昧にしておこう

奥時雄

家族が気になる遺産分け。地獄にも、極楽にもなる遺産分け話。終活に遺書を書かねばと思いつながら、まだ曖昧にして置く計算と深慮。この複雑さが良く表現できています。

ラッキーに巡り合わせてここにいる

吉岡修

この着地点に今いるのは、いろいろな環境、運命、条件、絆、経過が重なっての結果だろう。それらのことをラッキーの巡り合わせの賜物と悟る作者の人生観に賛同と拍手を送ります。

クラス会みんな上手に化けてくる

原洋志

クラス会・OB会に集まる仲間たち。背中に背負った苦勞・難渋・病・失望な

どその欠片も見せず、笑顔が飛び交う。
その化け方に感服します。

冬木の芽あすの希望を秘めている

水野 黒 兎

秋の枯葉を落とした冬木。よくよく見ると、硬い小さな蕾がちよっぴりと。この蕾とも未だ言えぬ膨らみが、春に雅に咲き誇るとは。若い芽が厳冬に耐え、明日に咲くエネルギーを秘めている姿に感銘。

この辺でキリトリ線を入れようか

籠 島 恵 子

どこで終わりにするか、迷いながら、未練の糸を紡いで来た。人生何事も終わりにする決断の難しさ。でもいつかは、幕を降ろす時が来るだろう。ほつほつきリトリ線をこの辺りで。

喜怒哀楽そつと包んで句に仕上げ

山 口 弘 委 智

川柳は人を詠む。自分の思いを、自分の感情——喜怒哀楽を詠む。その喜怒哀楽を、オブラートにそつと包んで、句に仕立てる。その川柳作家の心情を上手く表現しています。

十二色全部使つて生きてきた

太 田 扶 美 代

使える色は全部。時として暖色、時として暗色。真紅・漆黒・群青。環境の多様性に順応して、すべての色で生き延びてきた。そのしたたかさに拍手。

来年も頑張るつもり年会費

堀 正 和

新年句会で、今年の年会費を徴収されました。ふと今年一年間無事参加出来るかなと自問しました。正和さんは、昨年に年会費を払う。この心情に同感。

決めつけていましたあなた強いつて

上 田 ひとみ

上司・先輩・兄弟子たちは、理屈なしに自分より、偉く、強く、上手と決めていました。勿論夫も、彼氏も。私の信頼を裏切らないで。そんな女心が上手く表現されていて。

清濁を呑んで変わらぬ海の色

久保田 千代

ウイスキーの水割りの色で、入れ過ぎとばれています。母なる大海は、清濁・

善悪・巧拙・上下すべてを呑み込んで、その色は変わらない。その大らかさと深淵さに、憧れと敬意を惜しまない。

デパートで買うもののない哀である

西 口 いわゑ

妻に付いて、時にデパートを覗くことがあります。どの階にも欲しいものがないのです。いつからか、買いたいものがなくなりました。この寂しさ。痛感します。

ホームの窓へ元気をさせとる朝日

海老池 洋

海老池さんが千葉のホームへ昨年末引越しと聞いていました。ホームの窓に、元気をくれる朝日が眩しく顔を出している情景が目につかびます。洋さんのそのバイタリティーに拍手。

酒がくすぐる固まりかけた死生観

安 土 理 恵

終章に近づくとき、人はその人生の意味を問い、自分の死生観を形成して行こうと考えるようです。そんな真剣な態度に酒が入ると、ほんわかと緊張の糸を緩めてしまします。その心境が、とても奥深いです。

水煙抄鑑賞

— 2月号から

武本

碧

一石をいつも靴に少数派

松尾 信彦

みんなが付和雷同であつたなら世の中はとても味気なく進歩もありません。

不条理なことには一石を投じる勇氣が必要だと思つたのです。

断捨離へちよつと待つたと手を休め

羽田野 洋介

戦後の何もない時代を生き抜いた世代には思い出もロマンも詰まっているものを、どうしてあつさり捨てられましようか。

真夜中に浮かんだ一句朝消えた

三谷 松太郎

目が冴えて言葉さがしの五七五

山根 邦代

夜中にはとかく名句が生まれがちですが、朝になればすっかり忘れていて、悔

しがつても後の祭りです。

阿呆になるつもりで居れどまます

生田 和之

見栄や外聞を捨てれば、よっぽど肩の荷も軽くなるものを。そうは出来ないのが人間のようなのでね。

目も耳も不自由はない八十路

森下 よりこ

目に見えるし耳も聞こえる。これ以上何を望みましょうか。「レット・イット・ゴ」ありのまま生きて感謝の日々です。

また主役ですねと雪が降り止まぬ

真島 久美子

雪しんしん反省文を書くように

北山 まみどり

たまに見る雪景色は情緒もあり美しいものですが、被災地に降る雪ほどつらく悲しいものはありません。雪に罪はないけれど、心の中の雪も暖かい春の陽が癒やしてくれるでしょうか。

前略と書く便箋が見つからぬ

月波 与生

何もかもメールで済ますには少し気が咎める。久し振りに手紙を書こうにも便箋がない。やはりメールにしておこう。

常識を吐いて空気を重くする

柴本 ばつは

失笑を買つてなくした身の置き場

西川 千鶴

しまったと思つても吐いてしまった言葉はもとに戻りません。さらりとしたジョークでうまく空気を柔らげてくれる人は居ませんか。

常温に戻すと喋りだす本音

川島 良子

冷静になれば本音もすらすらと出きます。わだかまりも自然にとけて…。

イエスカノグレイゾーンを良しとせず

穂口 正子

右か左かはつきりすれば良いのですが曖昧を美德とする人達も居ますね。

どこまでも付いて来るのは影と税

定松 宏枝

今年消費税10%にアップの様ですが庶民にやさしい税であつて欲しいのです。

「災」の字を「幸」へ期待の新年号

清水 久美子

平成最後のという言葉が飛び交う様になりました。この句の通り、災いのない新時代であることを願つて止みません。



島田 駱舟 選

やる事はやったと臨む崖つぶち
 ここ一番生つば呑んで深呼吸
 後ろ指覚悟で臨むけもの道
 まな板の鯁に往生させられる
 生かせぬよう殺さぬように毒を盛る
 一強の民意に添わぬ馬の耳
 久し振り生きて居たかと酒の席
 死に臨む五文しか無いのに気付く
 神様の敷地に建てる研究所
 本音で臨めば貧乏神も情がある
 ライバルに臨む形の鎌の月
 太陽に臨む気迫で日向ほこ
 半分の力で臨む泥仕合
 入院へ大人買いするブックオフ
 じんわりと攻める干し椎茸の自負
 子を守る形 足首太くして
 ご臨席賜らなくてよい議員
 定石は無視して臨む正念場
 呼び出しはいつでも来いと髭を剃る
 のっぺらな顔で臨んでいる謝罪
 おにぎりを持っているので大丈夫
 死に臨むベストアンサー募集中
 受験宿キットカットが並ぶ膳
 閻魔様に臨む総理を見てみたい
 真っすぐに臨む のり代たっぷり
 口角の上がり具合もまままあで
 一日を使い切ろうと臨む朝
 逃げ道を探して臨む会議室
 戦いに臨むカラスの高笑い
 カチンコはいつでもどうぞメイキャップ
 のどぼとけ忘れず付けてから臨む
 ウエディングマーチ寡黙な父の腕
 佳5 対岸の赤に無骨を詰られる
 佳4 あの世へは言い訳などはせずに近く
 佳3 透明度ゼロの貴女と向かい合う
 佳2 意に沿わぬお見合いはですます調で
 佳1 赤門にグリコ2粒落ちて
 人 招待の席で笑いを噛み殺す
 地 リクルートスーツ下着は白である
 天 禁酒禁煙成人式に臨む

大木 雅彦
 渡辺 勇三
 谷口 修平
 山本 進
 ホッと射て
 ホッと射て
 両澤行兵衛
 梶谷 和郎
 板垣 孝志
 澤井 敏治
 米山明日歌
 川本真理子
 冬 子
 たごまる子
 平井美智子
 平井美智子
 西山 竹里
 高浜 広川
 寺川 弘一
 塚山 繁
 北埜 美月
 穂口 正子
 アゲハ
 門田 吉雄
 森 廣子
 上田ひとみ
 伊藤 良一
 伊藤 良一
 内田志津子
 美馬りゅうこ
 怜
 安藤 なみ
 雨 径
 白瀬 白洞
 森山 盛桜
 雨森 茂喜
 美 春
 武本 碧
 寺川 弘一
 昌 紀

斉尾くにこ 選

二千円足してオーシャンビュー予約
 新鮮な心で臨む新任地
 新元号が臨む五輪に万博
 臨海臨界線な記憶が蘇る
 平成のゴール両手を高く挙げ
 定年に臨んで卒婚言いわたす
 半分の力で臨む泥仕合
 入院へ大人買いするブックオフ
 予選から無敗は2校のみとなる
 子を守る形 足首太くして
 赤門にグリコ2粒落ちて
 臨死体験してから面白いこの世
 ドア開けて監視社会へ一歩出る
 山頂の景色に諷められている
 消しゴムを忘れて先ずは氏名欄
 のっぺらな顔で臨んでいる謝罪
 死に臨むベストアンサー募集中
 臨時ニュース食べ残された目玉焼き
 海臨む工場群の今は萌え
 厳正な処分で臨む不許可印
 在り方は臨機応変柔軟性
 終活のパンフレットが読みにくい
 口角の上がり具合もまままあで
 逃げ道を探して臨む会議室
 胃カメラへ敵のように立ち向かう
 喪主務め一皮剥けてゆく次男
 バイブ椅子式に臨んで又倉庫
 今日までの犠牲を武器に現地入り
 期待して臨床試験受けてみる
 会見に臨むマイクのミキシング
 降臨の女神ヘダウン着せ掛ける
 ゆびの額つくってシルル紀を臨む
 佳5 終章へ臨む力は抜けている
 佳4 新機種に臨む爺ちゃんかっこいい
 佳3 印のない辞表見つめている背中
 佳2 神様の敷地に建てる研究所
 佳1 恩讐を越えて臨んでいる介護
 人 透明度ゼロの貴女と向かい合う
 地 この位置は明日拍手を浴びる場所
 天 苦苦苦苦臨界点にある怒り

原 洋 志
 沢田 正司
 吉岡 修
 板垣 孝志
 こ み ち
 すずき善作
 冬 子
 たごまる子
 アズス安須
 平井美智子
 美 春
 坂本 星雨
 森山 盛桜
 森山 文切
 西沢 葉火
 塚山 繁
 穂口 正子
 青砥 和子
 石川 柳寿
 スイッチ
 フーマー
 フーマー
 上田ひとみ
 伊藤 良一
 木田比呂朗
 城崎 れい
 黒し ま
 加藤 当白
 藤井 康信
 美馬りゅうこ
 颯 爽
 怜
 柳田かおる
 松岡 篤
 森山 文切
 板垣 孝志
 や ひ ろ
 森山 盛桜
 加藤 当白
 藤井 智史

投句方法 【川柳塔】を検索→【川柳塔 WEB 句会】をクリック

senryutou.net

(サイト管理 森山文切)



(投句211名)

見慣れた車窓の風景
から、二、三日前まで
は確かに無かった淡い
色彩を視線がとらえ、
それが梅の数輪だと分
かった時、ああ、季節は確実に移ってい
るんだなと実感しました。



足元の雑事に何となく下ばかり向いて
いた私に、たまには顔を上げて綺麗に咲
いている様を見てちょうだいよ、と梅に
叱られた思いでした。

では、ナビです。

八尾市 山根 妙子

天国は新元号で行くようだ

(評) もうすぐです、新元号が発表され
るのは、でも、天国へ行くのはガンパッ
テもう一つ先の元号にしませんか。

寝屋川市 平松かすみ

旅先で土産に拾う石三ツ

(評) こういうお土産が本当は一番いい

のかも知れません。人にあげるにしても
自分のためのものにしても。

松山市 栗田 忠士

五線譜に春の音符が書ききれぬ

(評) 動物の誕生、植物の芽吹きなど、
春という季節は実にさまざま、溢れる
ほどの音を思わせてくれます。

豊中市 水野 黒兎

一輪車は免許返上した傘寿

(評) 高齢者の免許返上が取り沙汰され
ていますが、それにしても難しくないの
でしょうか一輪車。

河内長野市 黒岩 靖博

御朱印帳西に東に寺ガール

(評) いろんなガールが登場しています
が、出ました、寺ガール。何となくその
響きが味わい深く、アリガタイですねえ。

高槻市 松岡 篤

まだ言葉通じないけど日本好き

(評) 最近の外国人観光客の多さったら
どうでしょう。でも、日本に好意を持っ
て下さるのは嬉しいこと。

富田林市 山野 寿之

孤独などどこ吹く風の予定表

(評) 毎日の予定がカレンダーにびっし
り、日々忙しく楽しくて仕方ない、こん
な御方は本当にお元気です。

大阪市 石田 隆彦

馬拉ソンの先導カメラアップ中

(評) 実際の馬拉ソンは選手が見えるの

はアツという間、でも、テレビならずと
と選手をアツプで見せてくれます。

大阪市 寺井 弘子

香り立つ新茶憩いの一服を

(評) 何て贅沢なひとときなんでしょう
か。香り立つ新茶で身体が喜び、目が喜び、
いいことづくめ。

堺市 内藤 憲彦

輝く笑顔妻が十ほど若返る

(評) 輝く笑顔で幸せそのま妻、若やい
だ妻を見ているこちらまで幸せのお裾分
けを貰えそう、ステキな御夫婦。

和歌山市 土屋起世子

誰よりも春を先取りしてウフフ

義理チョコを配って鯛を釣りあげる
婚活もします私はまだ八十路
恋多き女が辿るいはら道

三田市 多田 雅尚

夢の中虹のトンネルくぐりぬけ

パッカスが認識させる地動説
付度の時も越えて一人勝ち
千鳥足になる美味しい酒でした

三田市 北野 哲男

米子市 八木 千代

熊本市 杉野 羅天

寝本市 羅天

寝屋川市 籠島 恵子

ラーメンの出前にちよつと遠すぎる

寝屋川市 籠島 恵子

岡山市 永見 心咲
 プーさんは蜂蜜ジャズを聴きながら
 唐津市 仁郎 四郎
 おもてなし自然体こそむずかしい
 大阪市 高杉 力
 プレーキはないさ気ままな独り旅
 鳥取市 夏目 一粋
 にんげんは草食系の人が好き
 岩国市 上村 夢香
 ラ・フランスのん気な顔はできません
 佐賀県 真島久美子
 敵じゃないけれど味方じゃない笑顔
 池田市 太田 省三
 恋なんて刈っても生える草のよう
 奈良市 山本 昌代
 アラララ何ンでことでしょ歌が出る
 松江市 石橋 芳山
 真っ直ぐに進めず未だフリーター
 貝塚市 石田ひろ子
 名人も家に帰れば普通の子
 大阪市 柴本ばっは
 三月は始ちやんだってのはしやぎだす
 沖縄県 森山 文切
 一芸に秀でて生き残る果実
 倉吉市 山中 康子
 母のようみんな桜を待つている
 藤井寺市 鈴木いさお
 アイディアが次から次へ湧いて出る
 弘前市 高瀬 霜石
 究極の処世術なりダンゴ虫

三田市 久保田千代
 いい事が待っていそうな向こう岸
 富士見市 中島 通則
 穏やかに川の流れのように生き
 吹田市 山本希久子
 ポケットでふくらんでゆく春の夢
 越え自立
 大内 朝子
 いろいろな紆余曲折を越え自立
 大阪市 宇都満知子
 どこにいるの足跡だけの野のうさぎ
 堺市 矢倉 五月
 恋多き女で今も独走中
 高槻市 片山かずお
 お飲み物からお伺いいたします
 大阪市 小野 雅美
 太陽と握手今日こそ笑えそう
 大洲市 中居 善信
 土筆タンポポ春はそこまで来ています
 河内長野市 山岡富美子
 任せても任せなくても悔いになる
 門真市 坂本 星雨
 ひこばえに勇氣をもらう散歩道
 三原市 鴨田 昭紀
 時々は振り向く生きて来た軌跡
 池田市 上山 堅坊
 大好きな花の球根貰ったよ
 吹田市 木下 敏子
 ビーマンも朝の散歩が楽しくて
 奈良市 大久保眞澄
 朝に四つ夜に三つで手を打とう

5月号発表
(3月15日締切)



(平本 勝彦 画)
柳箋に2句

東大阪市 佐々木満作
 ムフフフこは私のテリトリ
 河内長野市 梶原 弘光
 だらだら坂頑張ったんだかたつむり
 高槻市 富田 美義
 あの世へもお先にどうぞ道譲る
 松山市 宮尾みのり
 孤独ではない独り居を愉しまん
 大阪府 米澤 淑子
 音に聞くスーパーレディまだ独り
 高槻市 島田千鶴子
 古希過ぎてまさかまさかの一日惚れ
 鳥取市 谷口回春子
 言い訳は無理です本音尻尾出す
 三田市 谷口 修平
 ヤクルトは殺菌したらあきまへん
 大山市 金子美千代
 足枷が外れ方向見失う
 寝屋川市 川本 信子
 ゆっくりと景色楽しみ百歳へ
 青森市 守田 啓子
 平成も昭和も駆けてきた車輪

本社二月句会

◇二月七日(木)午後一時
アウイーナ大阪

立春も過ぎた七日、二月句会は百四十名(内投句者十名)の参加で開催された。初出席は奥野健一郎さん(島本町)、楠井輝子さん(堺市)。句会に先立ち、過日亡くなられた津守なぎささん(大阪市)に黙祷を捧げた。

今月のお話は藤井則彦さん。題は「夢見の不思議」。科学・技術が進んだ今日でも神秘的で謎深い夢。そんな夢と共に生きれば充実した人生を送ることができる。夢は人の無意識や心の奥底にある気持を反映するので、夢見の機に自分が辿ってきた道の見直しや行動改革に連なり、日頃抱えている問題解決の糸口にもなるかもしれないとのこと。夢にまつわる先達の言葉や句も多数紹介の上、最後は謡曲を披露され鮮やかに締められた。身近な夢というお話を傾聴していて、あつという間に時が経ったような感であった。(正彦)

月間賞は太田扶美代さん(藤井寺市)
(司会)真理子(脇取)扶美代・隆彦
(受付)靖鬼・勝弘(懸垂幕書・耕治)
(清記)憲彦・勝弘

席題「空 気」 鈴木いさお 選

凜とした空気が欲しい句会に
村度の空気が洩れる永田町
原発が水も空気もわやにした
日本の空気吸いにとツアー客
同じ空気吸っても戦絶えぬ星
安倍政治嘆いています鶴彬
平成を名残惜しんでいる空気
大国にかき回されている空気
空気までピリリ真冬の試験場
吸って吐く生きる事って単純だ
薔薇園で吸った空気は薔薇の色
空気枕のような男とそこらまで
柵を捨てて自由な空気吸う
満腹になるまで吸おうええ空気
行き詰まる空気に押され席はずす
いんにも惚れ合ったのに今空気
いい選者だその場の空気読んで
サロバスの匂いがありますおばちゃん
空気ピリッとさせて姑やってくる
あたたかい空気は独りより二人
空気より軽い亭主で気楽です
風を読み空気を読んで生き延びる
空気入れ替えて命を洗っている
あたたかい空気を妻と吸っている
幕下りてもまだ場内にある熱気

おや孫が来てるな空気やわらかい
梅林を抜けると空気までピンク
スツボンエキスより酒場の空気
あいつとは同じ空気を吸うのイヤ
邪魔にならぬように空気に化けている
一輪の水仙部屋の空気変え
空気のように妻がべったり添うてくれ
かき回してやろう過呼吸の金魚
なにもなかった空気も水も澄んでいた
赤ちゃんを囲む空気がやわらかい
五十年まだ空気にはほど遠い
マドンナ登場バツと空気はピンク色

私が去って空気が踊りだす
ほごりしたオーラまどっている白寿
張りつめた空気弁護士遺書開く
過呼吸になるほど愛している夫
一杯で空気をほくす神の水

吞んでないだと風船を吹いてみる
回復期水よ空気よありがとう

天 軸
平成の空気昭和の肺で吸う

居谷真理子

森田 旅人
荻野 浩子
新家 完司
永田 紀恵
片山かずお
石田ひろ子
鴨谷瑠美子
中岡千代美
小島 蘭幸
大内 朝子
松尾美智代
藤井 宏造
小野 雅美
西出 楓楽
油谷 克己
鈴木 かこ
山岡富美子
島田 握夢
太田扶美代

兼題「ほんやり」 内田志津子 選

遠い空ほんやり眺めている至福
夫逝くほんやりしてた遺産分け
ほんやりとしているようで手は早い
ほんやりとしての暇なし主婦ひとり
企業戦士ほんやり眺む昼の月
ほんやりはさせぬとインフルが威張る
ほんやりと浄土と思う酒の酔い
ほんやりと君が遠のく手術台
予定なくほんやりもまた至福の日
ほんやりで世話を掛けるが憎めない
ほんやりと過ごしているが腹は減る
長い夜ほんやり過去を振り返る
ほんやりと至福に浸る仕舞風呂
ほんやりと生きてほんやり逝くつもり
胸の奥ほんやり灯る灯がひとつ
ほんやりと香りに浸る午後のモカ
ほんほりのように昭和が透けて見え
腹の中うすうす読める毒舌家
長いトンネル出口ほんやり見えてきた
ほんやり生きてしつかりももう遺産分け
ほんやりと月と対話をする夜道
おぼろ月見てはこぼれる愚痴一つ
ほんやりが薬になつている術後
ほんやりと眺めてなごむ昼の月
ほんやりとしても財布離さない

清水 英旺
榎本 舞夢
米澤 椒子
榎本日の出
小野 雅美
澤井 敏治
水野 黒兎
長川 哲夫
山根 妙子
安福 和夫
森松まつお
田中 廣子
藤原 大子
新家 完司
久保田千代
水野 黒兎
山根 妙子
山口弘委智
中川ひろ介
松尾美智代
佐々木満作
藤井 則彦
小島 蘭幸
吉村久仁雄
太田としお

ほんやりと余命を映す内視鏡
ほんやりと三途の川が見える喜寿
ほんやりとしていてほしいお姑さま
ほんやりと芯はくすさぬ京ことば
ほんやりとしての金が溜めている
ほんやりを装い急所外さない
昼の月ほんやり出てた敗戦日
ほんやりに見せておくのも生きる知恵
ほんやりとした顔付きで抜け目ない
行灯の明りの下はみな美人
ほんやりと映る鏡に救われる
ほんやりと見せて掴んだ御曹司

佳

ほんやりも利発も愛し皆我が子
麻酔さめほんやり見えてきたこの世
延命の母がほんやり僕を見る
二階にはかすかに子等の香も残り
激動の世にほんやり花めである
人
全貌がほんやり見えてきた野望
地
ほんやりの麻酔が醒める妻の声
天
テールランプへ影がほんやり遠ざかる
軸
ほんやりと月を眺めて今日終う

横山 里子
萩原 狸月
三宅 保州
柴本ばつは
石田ひろ子
荻野 浩子
山崎 武彦
西出 楓楽
永田 紀恵
松尾美智代
田中ゆみ子
小野 雅美
島田 誠一
吉岡 修
山崎 武彦
上田ひとみ
鴨谷瑠美子
伏見 雅明
丹後屋 肇
松原 寿子

兼題「スタイル」 山野 寿之 選

憧れは常に悠揚富士の四季
人生のスタイル変えるA I化
スタイルの崩れるままに子だくさん
スタイルは負けるが座高なら勝てる
大好きな母のスタイル割烹着
胸張って歩くだけですそれでよし
着服れてその上カイロ貼つてます
元号が変れど僕はマイペース
サイズよりまず胸の位置尻の位置
見栄えよりフリーサイズの楽を着る
船ちゃんを配るナニワの平和論
スタイルは問わぬおかめと居る至福
スタイルを気にして潜る蝸牛
八頭身には届かず声優を希望
背すじ伸ばせば君だつて美しい
流行を着ても隠せぬ背の丸さ
チビまる子夫の好みで結ばれた
あるがまま老いを楽しむグレイヘヤー
スタイルは気にしていないダンゴ虫
抜群のプロポーションの影法師
貫けば愛はだんだん重くなる
ちぐはぐの心を隠すベアルック
冷え切った仲も隠せるベアルック
スタイルを変えたら僕が僕じゃない
プツと笑う鏡が見せたわが姿

村上 直樹
福田 正彦
能勢 良子
谷口 修平
酒井 紀華
岩佐ダン吉
山田 耕治
前田 紀雄
中岡千代美
升成 好
平井美智子
荒川 鈍甲
森田 旅人
荻野 浩子
中岡千代美
山本希久子
森 菊江
富永 恭子
木藤こみつ
木本 朱夏
笹倉 良一
岸田 万彩
奥野健一郎
細川 花門
山本 昌代

細い脚に太い体でよく転ける
スタイルを気にした頃が華だった
鉢巻の赤で続けるポランテア
ずんぐりむっくりでこけた事が無い
着ぶくれた背中に歳が書いてある
健康さんのポーズ似合わせぬ喜寿となる
スタイルは良いが行儀は知らぬギャル
ピンチにも笑顔強気を崩さない
ショーウィンドーに写して弾む外出着
胸長で短足きつと愛妻家
背筋ピン毅然と語るニューフェイス
スタイルは美学私らしい形
縦縞でその靴履いてそれですか

兼題「痒い」

山岡富美子 選

勝ち進み痛し痒しの奉加帳
情報が痒いとこまで知るスマホ
痒いなあ喋りたいなあ極秘メモ
百から七引くたび脳が痒くなる
痒いとこなんて母さん知っている
耳痒いやつと身体も本調子
本当の痒いところは教ええない
褒められて痒くない鼻搔いてます
あの嘘で今でも舌が痒くなる
言い訳の小さな嘘が背中這う
金メッキ剥けた辺りがむず痒い
ブラックジョーク痒いところを突いてくる

この街のガス灯が好き永住だ
向かい風それでも前に一歩出る
スタイルも顔も不要の手のモデル
踏みしめた姿で樹齢二百年
スタイルに個性がにじむ雪月花

上野多恵子
敏森 廣光
阿部 俊八
居谷真理子
北野 哲男

皮膚屋に持ち上げられてむず痒い
叱られたところが痒くなってくる
首筋が痒い誉めすぎ飾りすぎ
自立まで菌痒いですがまつ介護
痒いとき痛み消えてる摩訶不思議
痒いぐらいで医者に行くから忙しい
もうちょっと上がかゆいとゆーてるやん
一ミリのずれが菌痒い人と居る
妻の手が上手に外す痒いとこ
言い勝った誤算背中が痒くなる
痛くない少し痒いな片思い
菌痒さがパワハラになる鬼コーチ

萩原 狸月
松岡 篤
出口セツ子
伊達 郁夫
石田ひろ子
水野 黒兎

そんなもん隠してるから痒くなる
老いるとはこうも菌痒い物忘れ
園児から可愛い爺と誉められる
痒み前線只今僕を通過中
痒いところ搔くたび人間甘くなる

森 廣子
米澤 倅子
上田 和宏
古今堂蕉子
吉村久仁雄

鶴を折る鶴は折りのかたちして
地 山崎 武彦
天 上田ひとみ
盆裁の自由を許さない缺
軸 田中ゆみ子

山崎 武彦
上田ひとみ
田中ゆみ子

痒いとき背中を広さ宇宙なみ
お若いと無理に言わせてむず痒い
セーターのチタチタゆうべついた嘘
痒い所によく手が届き疎まれる
電子機器見ても聞いてもアレルギー
身の内の尖りちくちくむず痒い
草食系今日も菌痒い観覧車
また自慢耳も痒いと言ってます
治りかけの痒さだ我慢しろと医者

萩原 狸月
松岡 篤
出口セツ子
伊達 郁夫
石田ひろ子
水野 黒兎

搔けば搔くほど底無し沼になる
人間を見過ぎたようだ目が痒い

升成 好
鈴木 かこ
新家 完司

歳月の容姿端麗からメタボ

田中ゆみ子

小川賀世子
米田利恵子

小川賀世子
米田利恵子

八方美人やり過ぎましたむず痒い

新家 完司

兼題「盛り」 藤村 亜成 選

お隣りの花壇が春を迎える
健康番組盛って不安をかき立てる
菊大輪しばらく玄閑に飾る
盛りなど過ぎていません一万歩
アペノミクス盛った数字を振り回す
ひと盛りにされたわたくしの純情
盛り場へ入って孤独を深くする
切り盛りの上手い女将が酔わす店
色気まで育ち盛りで困ります
人に齡国に盛衰世に輪廻
男盛り女盛りが居て採める
真実を盛った少女の文哀し
味が出るのは賞味期限を過ぎた頃
いつだって今が盛りを生き通す
人臭い盛り場に咲くあだの花
散る火の粉雪の煙は春の使者
今しか無いの恋もしたいし翔びたいし
徘徊の父はきまつて盛り場へ
貧しいが幸せのてっぺんにいる
仕事の山働き盛り無理盛り
両親介護娘盛りを取り零す
さり気なく振る舞い心燃えている
イベントへ男盛りが駆り出され
遅咲きの花だ盛りはきつと明日

立蔵 信子
富永 恭子
小島 蘭幸
岩佐ダン吉
岸田 万彩
小野 雅美
福田 好文
中島 一彌
米田利恵子
島田 誠一
西出 楓楽
渡辺 富子
大久保眞澄
奥澤洋次郎
島田 誠一
関 よしみ
中岡千代美
米田 恭昌
米田利恵子
宇都満知子
丹後屋 肇
久保田千代
太田扶美代
吉村久仁雄

大盛りの優しさだんだん重くなる
開けっ広げでいいなあ猫のラフコール

人生の盛り不惑に伴侶なし
絶対調ですと言ったら役振られ
夏まつ盛り静かに旗が降ろされた
冒険家米寿卒寿はまだ盛り
日本中笑顔巻き込むおみ節
盛り土のてっぺんへ神御降臨
自分史のところどころは花盛り
活断層の上の栄耀豪華なり
盛り場で皿を洗っている大志
裸木になつてますます美しい
佳
君らしくあれのびやかに空を舞え
遠い日のピークの影が纏いつく
くたびれた貴男と真つ盛りの私
ピリオドは打たぬ女の開花時期
盛り場を抜けて虚しい風に遇う
人
人生の午後これから華にする
地
因習の壁こじ開ける伸び盛り
天
命あるかぎりは盛りだともう
軸
真つ盛り燃え尽きるまで治まらず

田中ゆみ子
坂上 淳司
宮崎シマ子
安福 和夫
能勢 良子
前 たもつ
前田 紀雄
木本 朱夏
山野 寿之
三宅 保州
松本あや子
平井美智子
上田ひとみ
伊達 郁夫
島田 握夢
阿部 俊八
松原 寿子
富永 恭子
笹倉 良一
山岡富美子

兼題「現実」 小島 蘭幸 選

延命拒否していた男の命乞い
暮まいる暇になつても行つてない
現実には目を背けたい認知症
現実には空っぽだった玉手箱
灘中学の入試問題解けません
若手です今年もう古稀迎えます
合成ダイヤで良いと現実的な妻
理想はワイキキ現実には白浜
手の届く高さに理想置きかえる
マスクの季節街に美人が増えている
憧れの庭も二階ももう重荷
子育ても介護も終えた二人膳
飯の世だなんてこまかさないうちに
夢と現実わたしに説いてくれた師よ
遺産分けすく現実になりそうだ
ここに居るただそれだけの確さで
若者の半は非正規とは悲し
小四を救えなかつた大人たち
ひな祭りにいつも女子会しています
現実には厳しい美人には甘い
寒空に核戦争がヌツと立つ
現実をいやがる妻はまだ乙女
現実に向き合う朝の台所
地震も津波も徐々に薄れて行く記憶
被災地の現実仮設の灯が暗い

福田 好文
野口真桜子
谷口 修平
伊達 郁夫
村田 博
大久保眞澄
米田利恵子
鈴木いさお
升成 好
片山かずお
村上 直樹
山下 純子
居谷真理子
安土 理恵
鴨谷瑠美子
上田ひとみ
川端 一步
上山 堅坊
立蔵 信子
中岡千代美
岸田 万彩
鴨谷瑠美子
藤原 大子
矢倉 五月
油谷 克己

頼る人居なくて泥酔はできぬ

矢倉 五月

花よりも団子と年金が論ず

山岡富美子

統計上のプラスそろばんがあざ笑う

吉村久仁雄

現実少し残酷少し夢

水野 黒兎

酒飲んで騒いだ夜も一人の灯

山田 耕治

現実をハッキリ映す試着室

降幡 弘美

海岸線辿れば原発に出合う

藤井 宏造

吠いている時は特等席だった

平井美智子

失恋のこれが現実なのですね

安土 理恵

女には勝てぬ医学部の現実

岸田 万彩

現実の手ざわり墓の雪はらう

居谷真理子

時は残酷わたしの美貌奪い去る

山本 進

佳

虹を追うあなたの明日のパンがない

小川賀世子

シルバートのつもりがドブネズミ色だ

新家 完司

現実を描けば戯画になるこの世

笹倉 良一

鏡の中に現実がある誕生日

山本希久子

現実の酸っぱさ青レモンほどの

木本 朱夏

難民にスーパーマンが現れぬ

新家 完司

地

叫んでも泣いてもなくならぬ戦

笹倉 良一

天

現実を見てるプランコ潰きながら

太田扶美代

軸

通帳の残と生き抜かねばならぬ

句会 燦 燦

一月句会を読む 板 垣 孝 志

和やかな句会船ちゃん舐めながら

平松かすみ

そんな時に限って自分の句が読み上げられる

島田 握夢

「どこ行きましたンやろな、帰って来よりまへん」

木嶋 盛隆

生きているこれが仕事と年金者

西出 楓案

「かなんなア 払う側の身にもなってもらわんと」

村上 直樹

薬をしたツケ体型はラ・フランス

片山かずお

下町用語に訳しますと、畏れながら「下半身デブ」

中村 恵

ステツプが逆臨月の披露宴

太田扶美代

控え室に乳児を預けて並ぶカップルもございます

上田 和宏

仕事だと思つと辛くなる仕事

坂 裕之

パート同士で雑談が盛り上がっている最中にお客

米田 恭昌

お楽にと自分は正座崩さない

木本 朱夏

電車の座席に正座するおばあちゃんはあれが楽

木本 朱夏

桁外れの音痴がひとり居て和む

米田 恭昌

音程のズレに気付くのは素人、本物は外れに気付かぬ

坂 裕之

こんにはちだけで和ますお人柄

米田 恭昌

顔と衣装で笑わず漫才師、座るだけで笑わず落語家

坂 裕之

特別なこと出来ないが皆勤賞

米田 恭昌

丈夫で長持ち身体が資本、元気が一番金では買えぬ

米田 恭昌

変人と言われた人のいい仕事

米田 恭昌

半世紀壊れぬ家具を安価で作り続けて店を潰す

木本 朱夏

生き生きて古稀残照の中に立つ

木本 朱夏

あやかりたいものであります。これがなかなか

木本 朱夏

老地ぬき

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

大臣へ繰り糸と台本を
想い寄せ悟ってほしく世話を焼く
幸せにきつとするから：以下余白
地震大国枕に全部入れている
お嬢さんをお嫁に下さいお義父さま
クリスマスお利口さんの僕でいる
三つ指をつけてサンタを待っている
ケーキ手に平和な扉ノックする
一度だけ妻に甘えた膝枕
いい目覚め枕は味方かも知れぬ
無言でもセリフにまさる涙あと
木枯しが冬のせりふを連れてくる
たつぷりと生きた時間に感謝する
両親と枕を並べ寝た良き日
岩枕鍵つ子だった過去がある

隆 樹 初 枝 則 彦 柳 子 英 子 龍 馬 吹 喜 武 久 久 人 黙 人 のぶよし 孝 子 重 虎 風 来 坊

生臭い人間だから悟れない
さあさあさあますは一献外は雪
雪の上サンタの足跡探す孫
雪しんしんせりふ忘れた傘地藏
「苦しみます誰が言ったかクリスマス
その先は天にゆだねてある白寿
山下達郎流れてもうそんな季節
生きて来た過去を知らない枕花
手懐けた鶏消えてクリスマス
帽子大好きせりふ大好きスナフキン
天下泰平どこかにあったせりふ読む
明日の事あした目覚めてから決める
古里っていいな微笑む風がある
もう娑婆に未練はないと米を研ぐ
脱線も道草もよし夢あれば
のはほんの男が放つ散文詩

慕 情 霜 石 小 と み 一 吞 京 子 美 鈴 規 子 ひとし ひろ 真由美 吞 舟 ふさゑ 花 峯 きよし 洋 子 和 香 子 無 限 報

ふうもん吟社(鳥取) 西川 無限報

期待より疑問感じて飲むサブリ
分限者と言われ無くても判る所作
皿鉢をはみ出している蟹御膳
スキヤンダルも美談も同じベンが書く
ごめんねが言えて青空澄み渡り
古稀過ぎて時計どんどん遠回り
ライバルは容姿端麗お上品
信念を曲げぬ男も背は曲がり

鍾 軌 一 平 蟹 郎 とも湖 真理子 幸 子 天 翔 美 恵 子

わが人生枯葉を見つめ振り返る
太い芯選び老後の設計図
嬉しいな孫と暮らせる幸せに
メモ忘れ頭にメモをして忘れ
自画像を描けばピカソも青くなる
水ボトリ何かが変わる音がする
十五キロの新米ならばまだ持てる
幕引きが近く靴ひも締め直す
ふる里が尚遠くなる暮終い
少年の芽を阻んでいる親のエゴ
幸せを何かと阻む嫉妬心
核阻むパワーが出せぬ被爆国
阻んでも強権通す辺野古基地
空に熟柿堪えかねてポタポタ落ちる
ポタポタと歩く姿で歳が知れ
ポタポタの涙こらえる葬の列
毒素の汗ポタポタ流すサウナ風呂
ポタポタと蛇口の音はリズムカル
ポタポタの汗も嬉しい勝ち名乗り
ポタポタと失禁老いの冬支度
雨だれがポタポタ落ちて石を彫る
ポタポタと地球巡って来た水だ
自分色今日と明日は違う色
自分色出すと周りが困りそう
真っ白にもう戻れない自分色
喪服着て今日は自分の色を消す

勲 章 千 賀 子 菖 子 一 粋 回 春 子 一 瑤 振 作 八 千 代 み つ こ 節 子 凱 柳 金 祥 房 江 茂 登 子 妻 子 日 暮 薫 昌 鼓 茶 人 明 友 善 平 み ゆ き 楓 花 宏 章 無 限

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

歳末に懐寒く孫こわい

寒くても句会に出れば温くなる

老体も寒さに負けず頑張るぞ

片づけのセンスが無くてゴミ屋敷

センス良く生きたいけれどグサイ我

派手好きの私のセンスに夫も似た

おしゃべりで和むセンスは母ゆずり

センスの悪い猫背になってきた私

勝ち負けにこだわらぬのは良いセンス

座布団のセンスが光る無人駅

持ち味を生かしていきる鈍臭さ

空っぽを隠すセンスという鑑

病院のカルテが結ぶ過去未来

言いたいこと口を結んで我慢する

結び目をほどくと好きに飛び立てる

温度差があっても先ずは手を結ぶ

結び目を確かめに来る年賀状

楽園があると信じて苦勞する

ばる家でも元気であれば楽園だ

楽園は地球以外に有りません

寒空の炬燵にみかん我が楽園

究極の楽園はやっぱりわが家

我が家にも楽園がある妻の留守

辛せであればどこでも楽園だ

清

美知江

久芽代

瑞子

悦子

恭子

義人

重忠

玲坊

重利

三津子

芳光

公恵

美美子

久江

完司

紀の治

滋

たけ代

岳人

龍枝

照彦

泰山

貴恵

珈琲二つ楽園らしいテラス席
童謡を歌えば心バラダイス

楽園はお寺の位牌堂の中

只今と帰る我が家は百ワット

センス良く歳を重ねた白い髪

はびきの市民川柳会(大阪)中川ひろ介報

天を衝く枝になりたい根無し草

山守る気迫卒寿が枝を打つ

頭の高い男落ち入る四面楚歌

家系図の枝が息子で途絶えそう

投合の酒腸を曝け出す

子に見せる背中だ真つ直ぐに伸ばす

枝ぶりが過ぎた年月物語る

大志抱き枝葉末節手を抜かぬ

枝々で雀百羽の座談会

飛びはねて氷の上で枝見せる

親の背な見せて悟らず処世術

みかん食べ平凡な幸かみしめる

亡くなった人を見たたく目を閉じる

はったりとおべつか相手で使い分け

枝豆について忘れてた休肝日

家計簿を見せ減酒をしてみらう

久しぶり再会嬉し美味い酒

ルール違反静止画像で見る証拠

定年のプレゼンブーケ妻の手に

美ツ千

紀美恵

石花菜

節子

くにこ

仁

みつこ

壽峰

ちづる

欣之

いさお

大子

久仁雄

清

正義

高鷲

かつ美

瑠美子

専平

久仁子

シルク

千鶴子

紀雄

洋一

竹信照彦選

わたくしの蓋は少うしずれている

こつそりと見たいあの世のバラダイス

貧しくも友は売らぬという決意

インドレス自由みかたの好きな趣味

どのへんまで長生きすればいいのやら

あれ誰やあれに出とつたあれちやうの

自国にて民守れない国悲惨

消費税おまけを付けた自くらまし

負けたふりあとは私の思つまま

人当りソフトで背骨まっ直ぐで

佳句地十選

(2月号から)

川本 畔選

腕白がいの一冊に泣く通夜

おいしいと言わぬが憎めない夫

体脂肪成熟させて七十五

百点でヒクヒク動く孫の鼻

につこりと頷いている聴診器

よろよろと老々介護せよと言つ

先生の顔見ただけで直りそう

鍋磨く無口の妻が恐ろしい

どのへんまで長生きすればいいのやら

ディサーヒス帰りにたくない独り者

黙人

千代美

一步

タカ子

葉子

祐康

正彦

博美

由紀子

ふさ糸

義雄

厚子

義人

國治

茶子

かつ子

五月

葉子

順子

盆栽の枝を我が子の様に愛で

君にだけ見せるワタシの泣きどころ

一人居で孫が笑顔を見せに来る

平成の最後彩る三十年

原色を纏って見せる老の道

和歌山三幸川柳会

西川

千鶴報

黄水仙香る古家のおもてなし

加減乗除割り切ることのない浮世

善行を積んで器が満たされる

命という神様からの贈りもの

老いてなお望み溢れて靴弾む

ラーメンが伸びる女の長電話

何食べる妻の口ぐせありがたい

病床に伏しても子規の好奇心

饒舌の罠にかかった欲の皮

これでもか食傷気味の流行語

スパーで欲の溢れる掴み取り

現金は無いが億まですぐ読める

生きていればいつか人間も黄ばむ

銀杏散る冬の近づく音させて

台風で傷んだ銀杏秋愁う

少し黄ばんだ青春の一ページ

たとう紙の黄ばみは母の物語

溢れ出る涙拭った母の膝

ネジ一本外してうまく世を渡る

フジ

まつお

一文

雄太

ひろ介

まき

純子

幹子

保州

義雄

准一

明宏

日出男

俣子

碧

よしこ

宏枝

知香

起世子

一雄

和子

菜摘

当代

智三

比べると少し戸惑う華氏撰氏

大銀杏見上げて栄枯しのお郷

新しい水になりたく手帳買う

なみなみと注がれて下戸の祝酒

息災の日々へたくわん添えて出す

汗の量数字になった棒グラフ

騒ぐだけ騒いだ後のゴミの山

家計簿は付けない方が楽である

新米に農家の苦勞嘯み締める

下校時の黄色の波が楽しそう

想い出が溢れて閉まらない筆筒

いい嫁と言うがいい母とは言わぬ

満腹になるまで食べて薬飲む

数字好きお金貯まると限らない

黄色い声すると逃げだす家の猫

国境を目指し溢れる民の列

城北川柳会(大阪)

近藤

有難うやつとすんなり言える歳

ぬくぬくと出られぬ親の羽の下

痛告知受け入れ空は澄みわたる

温もりが忘れられない母の胸

箱根越え紆余曲折の白い息

すんなりの肢体の頃をなつかしむ

初夢がさめてこの世に舞い戻り

次根

昭枝

ひろ子

義泰

あき子

昇

美枝子

富香

敏照

俊介

八重子

かず子

康則

彦弘

珠子

千鶴

正報

直樹

俊雄

星雨

武彦

弘委智

賢子

実

郁夫

山茶花に露払いさせ寒椿

知らんぷりとつても温いおもいやり

ナスコール押せばナスが飛んで来る

夫から握られているお産の手

新元号戦ない世を望みたい

日本の水は安心して飲める

安心と不安卒寿の崖つぶち

今年こそ信じて通う美人の湯

新元号昭和平成越えてくれ

十指みな温もり掬う今日の幸

家の鍵必要ないと鳥暮し

お帰りと迎えてくれる声がある

お大事に見舞った友の手が温い

被災地を励ますような初日の出

すんなりと孫へは出せるお年玉

今日はいい事があるよと陽が昇る

もふもふの画像に癒される茶の間

温かい心でいればやがて春

安心してなんでも喋れる飲み仲間

すんなりと痛は我が身と受け止める

川柳塔唐津(佐賀)

仁部

四郎報

親友の達つての願い目が眩む

時空越え夢が羽搏く恐竜展

捷二

朝子

千恵子

肇

たもつ

一步

志華子

宣子

野鶴

博

修

寛昭

和

榮子

堅坊

満作

杵香

勝弘

正

蜂朗

高明

四郎

實

わかあゆ川柳会(鳥根) 松本はるみ報

さわやかな朝の空気をひとり占め
波になる青田は風のさわやかに
コソコソとためたお金は孫へいく
わいわいと国会野次の伴奏者
わいわいと弾ける笑顔ベタル踏み
プラスなしバランス崩れた決算書

かつ子
安子
ハル子
はるみ
恵美子
昌

枯葉一枚どこまで行くの舞いながら
土になる日まで落葉のおにごっこ
青虫の試食済みです地産です
葉脈へ生きるパウが透けている
人間は木の葉一枚作れない
父選ぶりんごはいつも蜜りんご
夫を抱く小春日和の納骨日
走り出す息子今年は年男

規代
淑子
敬子
幸子
宣之
歩美
厚子
史子

歌詞忘れラララで歌う野路歩き
名月がLEDの世を照らす
忘却が時々あつて救われる
女偏何があつても崩さない
子の喝は不老薬なり飲み下す
無印になって私を取り戻す
鉄持てばますますやる気前向きに
今はどうあれ笑顔で終われますように
鴉外が心に沁みる秋の空
平和とは良き友達と語ること
財布持つ時代遅れと言われても
一冊の本が生きてもいいと言う
リング来る舌癌でしたなどと言
杖になる覚悟を抱いて強くなる
お荷物でーすこの家でいいですね

安子
みどり
和代
華蓮
美恵子
葵
菜美
真帆
れい子
知恵子
陽子
ダン吉
心咲
游子
公弘

竹原川柳会(広島)

古田 太虚報

福の神笑顔弾ける家に棲む
残りくじでした大きな福でした
絵手紙に一言添えて福を呼ぶ
よく笑う孫を囲んで福の神
麻痺の手も小さな福をつかみたい
救急車サイレンの音無事祈る
家計簿に響く年金消費税
ヒロシマの声が世界に響かない
一を聴き十を知りたる響く脳
点滴の音が響いて快方へ
雪しんしん心に響く句が届く
笑い声ひびく家庭の素直な子
響く言葉君の心に手紙書く
物語る庭のひとひら紅い葉は
紅葉してひと葉ひと葉にある力
落葉踏む冬への鼓動聞きながら

汎美
蘭幸
節生
栄香
鬼焼
半徳
弘子
昭紀
一徳
輝恵
比呂子
慶子
千代美
夢香
寛

川柳茶ばしら(愛知) 関本かつ子報
子に尽くす親を描いて直木賞
素人が見てもわからぬ傷があり
ご先祖のルーツ調べる寺巡り
断捨離へちらちらよぎる方丈記
カタコトと伊吹おろしに身がしまる
国民に全て尽くされ両陛下下

まみ子
迦行
三樹夫
美千代
雅美
かつ子

川柳同友会みらい(鳥取) 吉田 陽子報
万歩計一つ苦々な坂もあり
五十年振り返らせる子の白髪
臍の緒が切れて個性が光り出す
リフォームの部屋にそぐわぬ物ばかり
断捨離はすつきり感と淋しさ
ありがとう耳が一番喜んだ
終活の話題で終わる喜寿の会
焼き肉が食いたい時もある余生

八重
洋子
亜矢
真樹
由里
章子
清春
和之

正子報
穂口 正子報

子がぶらり会いに来たから少しやる
幸有れと太陽優しお正月
初雪がやけに眩しい陽の光
富士山頂今か今かと初日の出
法隆寺金色姿釈迦如来
目を手術見るものみんなピッカピカ
スーパード値下げシールの貼るを待つ
金に泣き金を貰いでいるこの世
凶星指した相合傘がキューピット

正子
和代
悦夫
政夫
萌
清乃
おかめ
久美子
淳司

図星つく妻に抗い墓穴掘る
 おむつ揃え笑顔眩しいマタニティー
 小四で未来を約す囲碁の星
 六十路こえ青春切符ぶらり旅
 一発で図星を指したカメラアイ
 心中に光差し込むオブジーボ

南大阪川柳会 松岡 篤報

言い訳をする度キヤリアはげて来る
 受胎告知キヤリアアウーマン母になる
 母と言うキヤリアに勝るものは無い
 仲の良い友つぎつぎと号泣す
 良い人は若死にらしい心配だ
 わからんと良いドクターは言ってくれ
 良い人が出来る人とは限らない
 このごろは良いも悪いもわからない
 タブーなき日本住みよい暮らしよ
 悔しさをバネに明日へ飛びはねる
 今夜お肉明日から豆腐続きます
 いつもより倍飲み明日は休肝日
 ランドセル日に日に伸びる好奇心
 ぼやく夫いない自由は頼りない
 酔っぱらい立ってるポストにはやいてる
 ぼやかない姉が不憫になるベッド
 ぼやきながら呑むと悪酔いしてしまう
 ぼやくずに黙って溶ける角砂糖

一 彌 克 三 修 五月 弘 光 園 子 篤 報

ひと通りほやいて自分とり戻す
 世相斬るボヤキ漫才懐かしい
 えらいこっちゃ漁民がぼやく温暖化
 どいつもこいつも友達内閣め
 内助の功ほやくと罰が当たります
 老いのはやき束ねて見れば凄かろう
 リストラでやっとなつてきた息子
 スクラップ役立つときがあるように
 リハビリの一步だ焦ることはない
 飲める幸せと飲める不仕合せ
 ベットに服それバワハラとちやいまつか
 沖繩へ謙虚丁寧どうします
 九条にてんごをしたら許さんぞ

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

カレンダー希望に満ちた一枚目
 父母の汗が消えゆく田一枚
 お年玉一枚だけど万札だ
 改元に印刷業界大童
 髪型を変えて気付かぬ倦怠期
 声変わり息子ブスツと返事する
 目の色を変えて突進福袋
 信号の変るの待てぬ浪速つ子
 人生の記憶ぐるぐる冬ベンチ
 輪になって百八回を贈る数珠
 地球儀ぐるぐるああ飢えと戦争

ダン吉 克己 国和 勝弘 柳伸 たもつ 恭昌 弘子 昌紀 篤一 栄子

ぐるぐると地球太陽億光年
 乾杯に返杯重ね酔いまわる
 幸を拾う気持で初詣
 良い話を拾った耳が温かい
 あとがきを拾い読みして読後感

京都塔の会 山田 葉子報

七輪の豆はコトコト極意
 ゆっくりと朽ち果てていく祖父の家
 ストレスがお金に変わって散っていく
 寒さに負けず腕強く伸びている
 十円の重みが分かる年の暮れ
 長生きも赤信号の貯金残
 寝袋で星を見上げる山の旅
 こころ撫ぜゆっくり絆とり戻す
 ゆっくりと幸を呼び込む筆の先
 眺望の広い邸宅売れぬまま
 深夜の帰宅飯面も羽根も隠さねば
 風向きが突如変わったロスタイム
 ゆっくりと鋭気養うロスタイム
 平成ロス明日を信じて生き抜こう
 ウィンクが誤解招いて五十年
 ありがたい時間ロスです日向はこ
 ロスタイムあったお陰で今の幸
 テーブルクロス飾り二人のクリスマス
 長生きも想定外のロスを生む

守 啓 一 弥 桂 子 春 代 則 彦 欣 之 福 子 弥 生 ルイ子 昭 五月 肇 保 子 保 子 哲 子 文 代 光 久 朝 子 泰 夫 英 旺 正 彦 忠 子 義 昭 弘 委 智

宅配の声も聞かない古団地

弘子

指切りを忘れてほしい時がある

紀恵

寒椿色ますほどに里に雪

ゆたか

社宅からわが家の歴史始まりぬ

宏子

初競りのマグロで豊洲盛り上がる

りこ

地球上どこぞ増える汚染ゴミ

久直

生き甲斐を探して迷うロスタイム

洋志

人生の坂は一気に登れない

歌留多

どちらかと言えば嬉しい年男

紀の治

損することを承知でしてのお世話役

かずお

孫が来て淀んだ空気掻きまわす

祐康

足腰にご機嫌とって今日も暮れ

多美子

ゆつくり聞こう御天道さまはまだ高い

万紗子

レンガ一個ほどの万札がほしい

勝弘

出がしらのつまづき一つ後を引く

美智子

みな元氣私ゆつくりしたいのに

求芽

前面に妻を押し出す癖がある

美籠

軒下に色どりをそろろう千し柿の

美草

手すり頼りに階段の上り下り

弘之

酔っぱらい話どんどんでかくなる

かずお

冬野菜納屋にあふれて分限者に

美佐子

ゆつくりと話そう冬の夜は長い

葉子

髪が後退顔の終わりが分らない

ヨシエ

手の内を見せて相手の顔を見る

章

ひとつ見つけた青春の忘れもの

葉子

初春を祝いこころを遊ばせる

正和

あれこれと迷った進路うす陽射す

恵子

ゆつくりと咲こうか誰も見ないなら

雅美

前向きな意見を言うて困らせる

耕治

酒が来た数の子が来た年用意

雨奇

病む人に福を招いたオプジーボ

則彦

平伏した昭和どんどん遠くなる

修平

コタツ好き猫になりたい外は雪

汪

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

痛告知他人は言える「前向きに」

こみつ

お月さんお休み中ね昼の月

宏造

躰かせまいと恩の手恩の肩

千代

話したら心が晴れる母の膝

紀華

初参り静寂まとい内外宮

志津子

脳トレは川柳のコツ四苦八苦

治代

ぐつぐつと眠れる平和噛みしめる

公子

コンサート一番前は足ばかり

蕉子

友はみな猪私だけねずみ

日枝子

悔しさを力に変えて前を向く

初音

幸運が続き小石にけつまづく

五月

火遊びもしたいと思う迄が華

宏之

悠悠と生きる決めてひなたほこ

菊江

霜降りたつぷり腹に巻いている

靖鬼

富柳会(大阪) 関 よしみ報

新之助

大切な命の鼓動休みなく

たまえ

チーママの手術につられ進む酒

良種

九十九折り苦労かさねた遍路たび

文重

スイッチを押され出るのは愚痴ばかり

雅美

きのうよりもつとあなたが好きになる

ひとみ

裸婦の像恥じらいもなく自己主張

伸雄

ピン札が出番待ってるお年玉

(高)千賀子

幸せを諦めてから旨い酒

久仁雄

泡沫を中流と呼び悔い残す

田鶴子

前輪の駆動で走る妻に添う

英坊

前のめり正せと影に叱られる

ひろ介

裸木の根っこに力溜めて冬

隆充

今会おう老いがどんだん進むから

正彦

きやらばく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

令位子

泡沫を食べてるような卵かけ

澄子

消防署日曜だけど休めない

新録

畑仕事夫の手順なぞりつつ

瑞枝

裸にはなれぬ男にある美学

清

習さんとトランプ世界振り回す

健二

足よりもやっぱ旨い蟹のミン

瑞枝

一曲で名を取り戻す北のサブ

清

許す氣の母が立つてる夢枕
 日がな一日何をブツツカニの泡
 なまくらな釘だ曲つてばかりいる
 真っ直ぐに責務果して喜寿迎え
 泡沫の夜明け温もりだけ残す
 美しいページ記憶の花葉
 春までを耐える木立の丸裸
 曲に乗るベットの芸に癒される
 雪すだれ泡沫の灯が忍びよる

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見

うっかりが多く財布に紐つける
 うっかりと舌がすべつてからの乱
 免許証忘れて模範運転に
 嗚呼バラに棘があるのを忘れてた
 雰囲気に押されうっかり手を挙げる
 暇人を演じることもなく暇だ
 監督は夫演じるのは私
 夫婦では王子王女を演じてる
 散り際を美事演じる椿花
 控えめな僕は黒子のはまり役
 いい人を演じてどつと出る疲れ
 汚染などされないように厚化粧
 感受性汚染せぬようパトロール
 汚染など考えられぬ澄んだ空
 汚染ない星に住もうか探査中

高鷲
 よりこ
 あかり
 一文
 武人
 恵
 寿之
 よしみ
 欣之

柳歩報

德利
 桂子
 瑞人
 孝子
 あきら
 芳山
 寿代
 輝山
 豊仙
 みちを
 久絵
 ゆき
 哲子
 禮子
 米估

キッチンもトイレも風呂も日本海
 湧き水が生命線を引き伸ばす
 雲が湧く出雲が好きでUターン
 沸き上がる疑惑は猿が食べました
 湧く話冬眠させて待つサクラ
 勇氣湧く言葉いのちのある限り
 あの人とはどんな時でもあかるいね
 光るものは遠慮しなさい霊柩車

川柳塔わかやま吟社 小谷 小雪報

半眼の仏のてのひらかこの世
 後半はつつかい棒の要るわたし
 折り返し点とつくに過ぎた年女
 半分の小さい方はいつも母
 人間のエゴで半分淀む川
 ご来光土産に持って帰ります
 銭湯の富士に見事な御来光
 御来光決意をしると迫られる
 母背負い半分こするご来光
 御来光僕をまつ赤に染め上げる
 そういうことですとすんなり物別れ
 すんなりが足踏みさせているゴール
 悪法も数で押し切る民主主義
 白黒をはっきり決めて引き分ける
 すらすらと言うからきつと嘘だらう
 すんなりと押した実印鬼になる

モナカ
 草庵
 知恵子
 美智子
 とも子
 柳歩
 朋子
 弘充

小雪報

あきこ
 徑子
 なる子
 紀久子
 紀子
 大輪
 よしこ
 寿子
 まさみ
 小雪
 保州
 富美子
 日出男
 ほのか
 知香
 京子

すんなりといかぬ根っこに有る強さ
 一駅を歩く二人の甘い夢
 この服は似合うと思ひ込む甘さ
 岩美川柳会(鳥取) 山下 節子報

神様に愛を誓った筈なのに
 大砂丘轍が汚す無法者
 山の神が鍛えてくれた口喧嘩
 神様は何故か私に不公平
 もう少しハッパをかけたうちの干支
 広い世を知らぬ金魚の平和な日
 足腰のリースないかと思う日々
 AIが神の手凌ぐ手術室
 税維持費要らぬ借家も気楽なり
 スピードで広い地球を狭くする
 頼るなら神仏よりも金だろう
 鎮守様老いて石段遠拝み
 七福神相談したい事がある
 堂々と我が家に鎮座山の神
 柏手が聞こえましたか福の神
 拜まれて樹齢一〇〇年神となる
 好きでない貧乏神に抱きつかれ
 辺野古土砂怒り燎原火のごとし
 猪に指を噛まれたおばあさん
 大変だ広い砂丘に草が生え

秀子
 ちづこ
 准一
 重忠
 一平
 一瑤
 弘六
 美恵子
 たぬ
 菖子
 敏子
 茶子
 振作
 彰夫
 公子
 千代
 凱柳
 真理子
 一粹
 雅女
 幸安
 蟹郎
 節子

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

イク翁を自認していて小うるさい
 鷹が鷹例え通りを自覚する
 四人育てた腕を娘に見込まれる
 胎動に娘はモリモリと生命継ぐ
 老いてなお元氣のリズムくずさない
 元氣な娘開暮の世界にお目みえだ
 でんぐり返し今も出来ます白寿です
 五欲まだしっかり持つて元氣です
 帰省子に元氣を貰う三が日
 あんなこと言うてはるからまだ死なん
 検査すみヨッシャと医者のお墨つき
 これしきと子へ発信の空元氣
 日出る国に生まれて恙なし
 空元氣見抜かれてゐる聴診器
 継続は力と信じ花咲かす
 いつか空翔べると信じスクワット
 信じ合う嫁と姑は手強いぞ
 お宝と信じ大事に蔵の中
 パソコンを信じ患者の愚痴聴かぬ
 痛いから素直に信じ身をまかせ
 タグつきの松葉蟹です召し上がれ
 信じてと政治が言うと嘘くさい
 弱音吐く事も覚えた元氣者
 元氣出せと貧乏神がやって来る

玄也 妙子 扶美代 志津子 唯教 廣子 舞夢 ひろ子 八千代 さくら 俣子 みつこ ばっは 好子 輝子 雅美 清 ゆみ子 五月 世紀子 美津子 憲 蕉子 敏治

元氣よいラケビー選手ない前歯
 元氣のよい返事がかえる心地よさ
 年寄りは元氣過ぎて嫌われる
 年金の入る日だけは元氣出る
 苦界とも知らずボンボン腹を蹴る
 いつ見ても元氣印のサザエさん
 黒であれ白と言われて禄を食む
 空港にシナリオのないロマンあり
 悔しいが仕方なかった路上駐
 国滅んでシヤレにならないロボット化
 草に寝て舌に四季あり魯山人

翠洋会(大阪) 大久保眞澄報

少子化に産めよ増やせとにしんの子
 甲斐甲斐し母のお節の味惜しむ
 グラビアで見つめて過ごすお正月
 孫来ない今年のおせち二人きり
 好きなものばかり詰め込む節料理
 酒お節雑煮と血糖値上がる
 新元号再スタートの年にする
 新元号わたしの彩で咲くつもり
 矢印のないスタートへとときめかす
 スタートは投げキッスして存在感
 スタートを切ったら孫は振り向かず
 産湯から新たな絆紡ぎ出す
 加齢へのスタートテープ切られてる

佳子 かりん としお 光雄 進 宏造 時雄 雅明 澄空 憲彦 誠一 恭昌 ふりこ 善之 げんえい 舞夢 満作 希久子 楓 大子 和夫 昭 弘子 理恵

何度もスタートいま百歳時代
 帰りあるを忘れないようウォーキング
 年寄りのつむじはもはや螺旋状
 聞く耳も見るとある目もあるという過信
 日溜りに雀とわたし日向ぼこ
 一呼吸置いて聞いている妻の愚痴

川柳塔なら

大久保眞澄報

初雪を口あけて追う子ら天使
 言い負けた心に雪崩れ打つ深夜
 銀嶺が日ごと眩しい温暖化
 余生という大雪渓を下つてる
 雪の名は二十三種もあるんだよ
 人色を消して一面雪の白
 神様は芸術家だな今朝の雪
 八甲田山悲劇を偲ぶ雪止まず
 豪雪地大汗かいて雪おろし
 降らなくて雪国不安降り不安
 車窓の雪遠い昔をたどる旅
 年金を補う株の値が戻る
 百歳を囲みうれしい初春の膳
 吉報へ地酒を下げてかけつける
 病床に孫の一声また遊ば
 相手ミス勝利確信笑みこらえ
 老荘の思想編み出す痩せ蛙
 自分史を御都合主義で編集す

すみ子 敬子 眞澄 蕉子 千枝子 富子 水筆 和之 和夫 勝弘 將文 良一 恭昌 贊郎 崇明 理恵 倫 辰雄 富子 行久 光堂 盛隆 すみれ

明日無いと知らずにカイコ繭を編む 俊八
 小さい汗紡ぎでつかい夢を編む のぶよし
 くつろぎも愚痴も編み込む縄のれん 薫
 編んではほどき不用なまま生きている 敬子
 徘徊の足音父を探す母 紀子

明日への答を探す茜雲 恵美子
 手探りでようやくここまで生きてきた 主

見つからず君が探せば出る不思議 展代
 フレッシュなフレーズ探す春の辞書 成子

起きてれば食べるか飲むか探し物 貫一
 探査機に日本の童話夢を盛る 萌子

欠点より長所探しておつき合い ふりこ
 狙い打ち痛を探してオブジーゴ ひろ介

自分探するには年をとりすぎた 眞澄

川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報

手作りの野菜はおばり平和です かほる
 二重橋平成最後の初参賀 哲男
 さようなら世史に残る平成世 稠民
 生きてくわ自分スタイル貫くわ さゆ子
 人生は悲喜こもごもよ平成も 幸子
 冷凍の食品チンして暮らしてる 善輔
 健康でお金もほしい欲ばりだ 重男
 給料日お疲れさまがなつかしい 剛
 サラリーの前夜の晩酌おあすけよ 喜弘
 平成の時代が暮を引く安堵 良子

身につけた学びの宝取られない 照代
 平成がエールを送る新元号 美智子
 あかつき川柳会(大阪) 山本 昌代報

改めて平和を誓う屠蘇を酌む 一志
 三ヶ日働く人に手を合わす 欣之

官邸に戦争立たせアベ暴走 太郎
 想像の世界拡がる銀河系 高鷲

復興の兆し夕餉の煙立つ 壽峰
 初鮪買う金あれば寄付をしろ 一文

明日へ向くゼロ番線の発車ベル 寿之
 悠久の歴史物語る仏像 満知子

赤ん坊座をなごませる立役者 朝子
 その椅子を降りれば実像が残る かこ

川柳大阪 山崎 珠生報

子供には明るい未来渡したい 直子
 被爆してなお雄弁に立つドーム 堅坊
 立春のなんて可愛い蕾たち 信子
 再起への一步へ五感立ち上がる 弘子
 年商五億元は屋台のラーメン屋 栄子
 不夜城と化した都会に星降らず 福貴子
 想像の絵本の森で夢を見る 克己
 銅像を自分で建てらうぬはれ屋 喜代志
 出発へ背中押された星の風 恵美子
 立ち上がる勇氣をくれたのは笑顔 浩子
 体調が戻るお神酒の口当たり 穩夫
 今年こそ腹を立てずに暮らしたい 万作

崖っ縁に立つて絆の太さ知る ひろ子
 出発前いつも夫婦で小競合い 光代
 病む妻に明るい話題持つていく 清
 出発の昭和も遠く尋常科 たもつ

出発に欠かせないのよお化粧が 和雄
 思案のたびに我が立つ位置を問ひ直す 鈍甲

生きるのだから必ず朝はやつて来る (櫻)秀夫
 微用工過去未来観て切り拓く 一行

思いよう離婚は新規巻き直し 郁子
 出発は母の涙の辛い駅 忍

とりあえず明るい話からにする ダン吉
 九歳がプロの世界へ船出する いさお

10代の躍進日本の未来 一歩

風に効く玉子酒ですお代わりを まつお
 居酒屋の返事上手も味の内 かよこ
 懐に恋と川柳そして酒 堅坊
 屋台の酒親父と交わす新成人 福貴子
 景気良く積んだ酒だる中は空 鉄心
 お酒との出会いがあつて友多数 一歩
 酒ありきわが半生の苦も楽も 俊雄
 傍目では変わらぬままの差し向かい 美籠
 様変わりした正月の迎え方 満知子
 玉砂利の響き軍靴に変えないで ゆみ子
 紀平梨花舞台は世界目指し飛ぶ 珠生

ホップステップジャンプする時をまつ
国産の鱈を買った年金日
今年こそ私のマグマジャンプする

百歳時代ホップステップジャンプする
スキップもジャンプも無理と膝が言う
ジャンプする猫を見ていて骨折す

意地捨ててから軽るう軽るうなつた胸(失)五月
気のない返事つれないオトコ削除する
眠れぬ夜返事の来ない手紙書く

本命チョコこれが私の返事です
拉致家族返す返事待っている
二者択一返事に困る曼殊沙華

初詣いつも決まった願いごと
電柱に笑われてますスマホ狂

八尾市民川柳会(大阪) 中蘭
清報

寒暖に弄ばれて大掃除
モラル無き親に育つた子のモラル
人間のまた一色を足す暦

捨てての看板道に捨ててある
雪像がどや顔して雪祭
甦れしばれた手足火にくべる

冬深く熱き乳房の軋む音
寒流にしばれる磯の波飛沫
不器用な女を生きて修羅ばかり

炊き出しの愛一列に待つモラル

美世子
勝弘
芳香
紀雄
賢子
蕉子
五月
万紗子
雅美
いさお
朝子
志津子
照月
司

笑えないことも知ってる笑いじわ
しばれる夜彬全集読み通す

長柳会(大阪) 辻村 ヒ口報

やさしい笑み見守り隊の白い息
古女房凶星さされてたじたじに
弱点を凶星さされて奮起する

君となら夜明けの番茶飲む仲に
さばさばとドラマみたいなに別れない
相席に旅は道づれ和らいで

あと十分待つてみようか喫茶店
初日の出眩しさ遠く床の中
旅案内供えて偲ぶ遠花火

若作りしても背中歳がばれ
縄のれんお国訛りが好きやねん
一人旅団子一串峠茶屋

京を行く和服姿の多国籍
何くわぬ顔に嘘だと書いてある
万馬券当てたとわかる高笑い

饒舌に振るまつてるが淋しがり
師に会える楽しみで待つ初句会
人生行路は行方定めぬ根無草

あと怖い眩しいものに手は出さぬ
指切りの嘘を知ってる葉指
少年の志眩しく見る未来

正念場あとは体調受験生

森子
ダン吉
ヒロ
ゆき
弘美
秀子
隆明
千代
福子
孝
三和子
登美子
たけし
洋二
和子
ともこ
淳司
孝代
旅人
敬二
隆彦
正博
光弘
靖博

まだ傘寿旅は白寿を越えてから
箱根路を若さ眩しく駆け抜ける
混沌の世にも眩しいポランティア
天皇の最後の参賀見上げる目

幸子

六甲川柳会(兵庫) 奥澤洋次郎報

分煙論いっそタバコは売らんととき
生きてるぞと友が送ってくるリング
埋み火を抱いたまんまの冬の中

着れる内元気な内と袖通す
AIの向こうに潜む幸不幸
福の神たまには来てよ我が家にも

日に一笑福は居ついて喜ばれ
冷蔵庫クサヤ切らしたことがない
プロミスで借りてアコムにすぐ返す

病みつきのベンが私を追いかける
ニュートンにだけリングが落ちる運の良さ
くやしさを菌型に残しかぶりつく

色づくも気にはされない青りんご
リング摩る母の想い出過ぎし日日
真似ごとで始めやめれぬ親父ギャグ

カラオケはデュエット曲で肩を抱く
愛してのデュエットだから言えたのね
限界に挑む男の背が燃える

埋れ火が女の芯で燃えはじめ
燃え尽きて幸せそうな蟬の殻

直樹
正美
和代
幸子
じろう
利子
ひとみ
美恵子
盛夫
憲三
弘
義博
博
弘華
敏夫
邦子
洋次郎
芳江
和郎
道子
武彦
真桜子
光久

共に火を燃やした心確かめる
ゲームより燃える恋だろ若者よ
一日を無事に生きるのが仕事
燃えやすい女なんです触れないで
鎮魂の灯が燃えあがる震災忌

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

茶子報

年毎に規模が小さくなるとんど
私の邪心と欲をとんど焼き
ピンコロリ叶うとんどがあれば行く
俺の恋ふわりふわりとかわされた
とんどさん焼いてしまおうあれやこれ
英雄を無礼なきよう介護する
英雄も妻の前ではただの人
正月のボケをとんどで焼きつくす
とんど焼き厚顔無恥な顔あぶる
英雄を陰で支えた武士がいる
年末にふわりと去った福の神
とんど焼きお尻あぶって餅やいて
英雄ばっかりでやかましい酒場
とんどさんの灰で大根良く育つ
優しさをふわりと包む人という
とんど焼き集まったのは高齢者
ナポレオンロック飲み干し英雄だ
青い鳥飛んでおいでととんど焼く
英雄の食事洗濯皆わたし

正彦 狸月 和宏 千賀子 ひろし
茶子 鈴 弘子 好幸 すみれ 孔美子 ゆり子 綾子 いさを 実満 幸美 重忠 完司 天翔 幸子 笑子 こい子 裕 楓花

平成の文字がふわりと飛びはじめ
折りますおだやかな日々とんどさん
大相撲貴景勝が躍り出た
神一手英雄超えよ聡太くん
子宝は次の英雄芽ぶいてる
割烹着のふわりに男騙される
被災者を熱く見守るとんどの火
風ふわり俺の残り火燃えてゆく
英雄も小さい頃には内弁慶
ふわりとした笑顔にまたも騙された
厄除けにとんどの餅を食べさせる
遠い地で英雄だった父忍ぶ
出来るならふわり飛びたいオスブレイ
字に住むチラシ一枚配られる
英雄を読めば努力の人でした
一時間授業を削りととんど焼き

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

怒鳴り声猫撫で声に改める
鶴亀を凌ぐ寿命に改造中
あらためよ人の悪口言うなかれ
改めるこれは無理だよ呆け始め
改めて感謝の言葉照れるわね
改造より子作り褒めて日本です
酒提げて七福神がやってきた
茄子掴み鷹が聳へ富士の山

文道 草文 照彦 義明 幸恵 美ツ千 小鹿 盛桜 かおる 英子 みさ子 京 満 蟹郎 和子 拓庵 麦青 次男 紀美恵 節子 玲子 恭子 完司 野蒜

おめでとう三日間だけ長まる
子も孫も曾孫も揃いお正月
餅があり鯛もある膳おめでたい
めでたい日ギックリ腰がやって来た
締め付けて緩めて鍛えられていく
脳鍛え百まで川柳作る夢
パズルで脳鍛えて今日を忘れない
喉を鍛えても音痴が治らない
スイミング鍛え耐え抜き八十五
鍛えてた膝がこの頃よく笑う
こだわりの舌を鍛える食べ歩き
バランスの大名人は弥次郎兵衛
バランスをとるため下駄をはかせてる
風呂上がり筋力鍛えスクワット
ヤジロベエずれた支点が戻らない
我が家計バランス崩れ赤字です
薬缶持ちバランス崩れ煮え湯浴び
バランスが崩れているよ米と中
むかし八頭身今は十頭身
真っ先にダウン新年家族会

川柳さんだ(兵庫)

村田

たつぶりの思惑ありそな墨の跡
ぐち吐いてたつぶり土産持ち帰る
肝臓が悲鳴二次会三次会
遠目でもお歳がばれる若作り

雄大 醉芙蓉 瑞子 けいこ 萩江 由紀子 龍枝 風露 明友 美知江 宣子 石花菜 鬼一 祐子 日出子 智恵子 重忠 茂夫 康子 照彦 博報 真桜子 祐康 花門 千賀子

遠くてもオシャレな店へ急ぎ行く

子の部屋に鍵が掛つて遠くなる

遠のいて行く靴音に残る悔い

遠い日の妻に内緒のツーショット

遠距離の愛に始まり五十年

譲歩する気持ちはいつもあるんです

嫁姑譲り合うのも匙加減

嫁姑トイレの番も譲り合い

譲られた田畑に思うことばかり

まだちよつと大きかったねこの上着

黒は黒一歩も引かぬ一本気

譲るまで椅子はきれいに磨いてる

ヒーローも五年も経てばただの人

老人会ヒーローぶつてしゃべる奴

ヒーローと思つたあなたただの人

呱呱の声過疎化の村に夢運ぶ

私のヒーロー娘が産んでくれました

自分史のヒーロー顎で使う妻

散り急ぐこともないかと医者ほしこ

春の旅カタログそぞろ悩ましい

新元号交付の日付四月馬鹿

スマホ持ち今日もチャレンジ新時代

離婚した一筆加え年賀状

しなびても意気軒昂な年女

しんしんと身のひきしまる初明かり

泣く子にも泣かせた子にもお年玉

趣味探す金と体力要らぬもの

お年玉諭吉はママにあずけてる

につこりとしてくれましたポチ袋

じつくりと充電します冬日です

竹の灯をみつめ神戸の街と生き

川柳藤井寺(大阪)

太田扶美代報

悪戯の目の輝きにある期待

九条が輝く明日をつくらんか

フルムーン百歳時代謡歌する

話したくないが輝く一ページ

家政婦も夜空の星になりました

ピカピカの夢抱き老いを忘れてる

いつまでも輝いてネと亡き妻が

取り戻せ素朴な頃の輝きを

がんばれば貴女の色で輝ける

金箔がゆらりお屠蘇の旨いこと

輝いて今が青春古希の年

陽の光り眩しく受けて冬木立

輝いた日もあつたよねコッパン

本物の自信ひかえめに輝く

十代の輝く星が増える亥年

予定日を入れると光り出す暦

平成の太陽でした両陸下

輝いている口下手のありがとう

雨あがり句会に出るにさわやかに

富夫

利子

耕治

正和

千津子

信二

一步

紀雄

ダン吉

いさお

久仁雄

一文

しげ子

フジ子

まつお

キーキー

ばっは

倅子

扶美代

喜代子

富美子

清

瑠美子

正義

絹子

芳光

紀の治

楓花

八千代

照彦

芳山

くにこ

みちを

麦青

博子

熊四郎

七七

モナカ

石花菜

正人

美ツ千

雄大

けいこ

幸子

風露

小鹿

道唱

正男

大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

人間は人間やはり嘘をつく

二度三度夜を刻んでゆくトイレ

女の勘やっぱり何か焦げ臭い

金がある方へやっぱり足が向き

平成も新元号も吞む紀元

独りの夜ふふふかへへやってみる

雪の夜はパニラエッセンスのお風呂

夜の道スマホゆらゆら歩いてる

蛇行して痛み和らげながら行く

青春の痛みの中で桃が咲く

熟成を今か今かと待つ夜更け

近頃きれいなやっぱり恋してた

逢う日取りやっぱり桜咲く頃に

婆さんのほうがやっぱり気が強い

言い訳の夜から反省の朝へ

悠々生きて嬉しいも嘘さみしいも嘘

一升瓶やっぱり三日持たなんだ

やっぱりネ宿題が間に合いません

十キロの米袋ならまだ持てる

悠々とコーヒー飲んで午後の椅子

百姓を悠々自適やつて冬

厚顔無恥悠々として椅子に居る

銭湯は富士を背にして悠々と

十月にやつぱり上がる消費税
痛い痛いどこが本家が判らない
俺だって悠々暮らす術はある
長い夜積んでた本のページ開く
無計画ゆうゆう過ぐす十連休
後ろからどつかれそうな暗い夜

西宮北口川柳会(兵庫) 藤井 宏造報

開いたら洗濯物のみかん箱
夏みかん酸っぱいままいいんだよ
何もかも音まで包む雪化粧
清いです混浴ですが足湯です
週刊誌読むふりをして彼女待つ
間違つてはならぬころの曲り角
白菊に呼び覚まされた澄む心
現実の厳しさ知つてから強い
それぞれ言い分いちご赤いまま
ゆつくりでいいと教えてくれる空
魂をゆするみつをの一行詩
スマレ咲く最年少の金字塔
成人式この子ら担う新時代
期待しています今夜のサブライズ
うさうきは無いが居ないと困る妻
うさうきもドキドキもまだもっている
屠蘇気分うさうきさそい水
新元号うさうき待つている白寿

久子 鈴野 清明 希楽良 規雄 完司 堅坊 千賀子 千代 邦男 美津子 哲子 盛夫 美籠 恭子 敦子 風琴 弘委智 洋次郎 ひとみ 武彦 いわゑ 光子 利子

事始め清い心がすぐほどこけ
玉砂利の清い音にて神頼み
豪華より身なり清楚におもてなし
初恋は中一あやめちゃんでした
清いまま流れてほしい石清水
一段と亡母に似て来た初鏡
変な味初めて飲んだコココーラ
初恋は九州弁でもたついた
腰据えてじつくりと読む初チラシ
御節より孫が喜ぶ初マック
初春になくはならぬ出初め式
初夢を食べて明日へ生き延びる
初鏡りに大間のマグロ景気付け
初出社妻が揃えた靴光る
渺茫の枯野突進するいのち
金婚で念願叶うハワイ旅
生きて来た清い心を飾りたい

みよし 宣子 りこ 勝弘 正彦 弘子 新録 光久 和宏 一徳 宏造 野鶴 紀華 健彦 ヨシエ 忠夫 迪 正彦報

豊中もくせい川柳会(大阪)初代

さりげなく添えた介助の手が温い
ブランドの財布を買ってティッシュ詰め
好きですと迫つた時の君と居る
わが姿覗いて知つた子の日記
メダカたちそつとのぞくとかくれてる
丸い月見ると自分も丸くなる
そつと来てベットになった野良のタマ

公子 英三 健二 武彦 多美子 健三 シズエ 目を閉じて彼の地に停まる人想う
ありがとううしろ姿へそつと言う
楢田から丸い家族になれました
そつとしいて私あしたの夢見てる(永)玲子
夫の人生に有る停車駅
巣立つ子の背中をそつと押してやる
用心用心財布落した夢をみた
トツプの座何う若いど迫力
干渉すまい確と心に停め置く
割勘に財布忘れて来る女
ふる里のバス停地藏あくびする
男です忍の一字を噛みしめる(岩)玲子
まかしとけ言つた財布が酔いつぶれ
停電で遠い昭和を思い出す
一切合財抱え込んでいる財布
まだまだ渡りたくない三途の川
ひらがなのことば母さんのやさしさ
その下に珊瑚が生きる海を埋め
決断を迫る間もなく時間切れ
一片の悔い無しという綱の自負
遅咲きの花ですそつと見守つて
空財布ボンと叩いて旅終る
隣席にモニター鼻血停まらない
迫り来る時を笑顔で迎えたい
身の丈の望みが人を丸くする
そつとしておこうさびしい嘘だから

美佐子 ヨシエ きらり 歌留多 英旺 求芽 美籠 宏子 宏造 洋志 耕治 久子 勝弘 美智代 千鶴子 見清 正彦 雅美 野鶴 黒兎 久仁雄 則彦 千代

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 あまがさき	12日(火) 14時締切 去る・運・惜しい・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	16日(土) 14時締切 芽・囁く・さっぱり・ネクタイ	岸和田市野田町会館 南海電鉄「岸和田」駅東へ5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳塔 みちのく	16日(土) 17時締切 贈る・涙・どっぶり	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 ねやがわ	17日(日) 13時締切 集まる・ひっそり・誕生 自由吟	寝屋川市 産業会館 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 藤井寺	17日(日) 14時締切 記憶・それなりに・席題 共選	藤井寺市生涯学習センター・シユラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
豊中 もくせい 川柳会	18日(月) 13時50分締切 塩・踊る・するり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 さんだ	19日(火) 13時締切 うとうと・希望・ストレス・悩む 自由吟	キッピーモール (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳 たちばな	20日(水) 13時45分締切 印象吟・耳・近い・自由吟	立花公民館(尼崎市塚口町3-39-7) 阪急塚口駅北へ10分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 すみよし	23日(土) 14時15分締切 群・湧く 嬉しかった事(詠込み不可)	住吉区民センター 2階 集会室 4 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸 川柳会	23日(土) 13時15分締切 そろそろ・人形・テープ	和歌山商工会議所 4階 第3会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民 川柳会	24日(日) 14時締切 早・記憶・キャラ	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北東へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	24日(日) 13時締切 自由吟・逆・明るい・都	開発ビル 2F 砂場事務所 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
南大阪 川柳会	25日(月) 18時30分締切 嫁・伏す・長い・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
京都 塔の会	25日(月) 14時締切 ポーズ・差・はしゃぐ	ハートピア京都 京都市中京区烏丸丸太町 地下鉄「丸太町」駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勤修寺堂田70-16 榎本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

3月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北川柳会	2日(土) 14時締切 キープ・軽快・括る・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳とんだばやし富柳会	2日(土) 14時締切 文・賑す(けなす)・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 池 森子
倉吉川柳会	2日(土) 14時締切 リラックス・たっぷり・強い	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔まつ吟社	2日(土) 13時30分締切 鳴る・臭い・縫う・貼る	松江雑賀公民館 〒690-1223 松江市長美関町笠浦222-1 相見柳歩
川柳塔らな	6日(水) 14時締切 香・もたもた・心遣い	奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵
あかつき川柳会	8日(金) 14時締切 過去・美しい・橋・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄
川柳大阪	9日(土) 14時締切 デビュー・楽しい・命	メトロ・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六甲川柳会	9日(土) 14時締切 ムード・方言・あったかい 自由吟	六甲道勤労市民センター 5F E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔打吹	9日(土) 13時30分締切 メロディー・好き・もごもご	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民川柳会	10日(日) 14時締切 試験・ぼちぼち・遠い・雑詠	八尾市安中町3-5-1 洪川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川柳塔わかやま吟社	10日(日) 14時10分締切 兼題=ちぐはぐ・嵌まる・茶 課題吟=さえ(助詞)	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 楽原道夫
西宮北口川柳会	11日(月) 14時締切 山・謹む・よいしょ・自由吟	西宮市立中央公民館 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる川柳同好会	12日(火) 13時30分締切 時計・整える・印象吟	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池 蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兔
川柳塔さかい	12日(火) 14時締切 運命・遅い・折句・さかた	東洋ビルディング 4F 堺東駅北西改札口から2分 〒599-8103 堺市東区菩提町5-171 矢倉五月

柳界展望

★「第10新春たましま川柳大会」は、1月12日岡

山県浅口市会館金光で開催。同人成績。

特選 山野 寿之

全開の蛇口へ流す嘘嘘

★平成30年「四国新聞」年間最優秀賞

川崎ひかり

★「第59回五健まつり川柳大会」は2月9日、愛媛県民会館にて開催。同人成績。

五健盾 木本 朱夏

真っ白いノートよ明日

愛媛県文化協会会長賞

柳田かおる

命命の話ポップコーン

を食べながら

▽ご芳志御礼△

○木津川計先生より通巻一一〇〇号記念お祝いとして金一封拝受致しました。

○松本文子さん(松江市

・理事)より金一封拝受

致しました。

○栃尾奏子さん(大阪市

・同人)より金一封拝受

致しました。

○「サークル檸檬」(代

表・西出楓楽)解散に伴

う会費の残金を拝受いた

しました。

▽訃報△

○津守なぎさ(同人・大

阪市)さん。1月15日逝

去。享年89。

▽訂正とお詫び△

○2月号、P88上段1行

目、「同人の歩み」↓「同

人への歩み」。P112中段

5行目を削除、文庫本片

手にほろり酒を酌むに変わ

更。同11行目、独りきり

で誰でもひとり渡る川↓

一人きりで誰でもいつか

渡る川。

▽新誌友紹介△

倉吉市 伊藤 嘉昭

紹介者 竹信 照彦

奈良県 室田 行久

紹介者 米田 恭昌

神戸市 堀本 忠志

紹介者 山崎 武彦

篠山市 横溝 安子

紹介者 北野 哲男

伊那市 丸山 健三

紹介者 木本 朱夏

常任理事会 2月7日

①第25回川柳塔創立95周

年記念まつりの骨子再確

認②第7回春の誌上大会

の作業について③業務規

程・慶弔規定の再考④天

候による本社句会休会案

内について⑤当期中間決

算の報告⑥定例確認事
次回常任理事会 3月7
日(木)AM10時

ひとこと欄原稿募集

一行15字 25行まで

タイトルは別

川柳に対する疑問、感想また

川柳塔へのご要望など内容は

自由です。ただし採否は編集

部に一任願います。

本社句会欠席投句のお勧め

*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつ書き、裏面に題とお名前を記入のこと。

*投句料は500円または82円切手6枚。

*句会の前々日までに事務所必着のこと。(土曜・日曜をはさむ場合は前倒し)郵便事情もありますから、お早い目にご投函ください。

*ご不明の点は事務所へお問い合わせください。

第23回 川柳展望全国大会

日時 4月14日(日) 10時30分開場
 場所 ホテル アウリーナ大阪
 大阪市天王寺区石ケ辻町19-12
 TEL (06)6772-1441

参加費 1500円

題と選者

席題	「 〃 」	永 井 天 晴
宿題	「 弓 」	吉 崎 柳 歩
	「遊 ぶ」	鈴 木 家 弘 司
	「危 険」	新 佐 藤 岳 俊
	自由吟	井 上 一 簡
	自由吟	森 中 惠 美 子
	自由吟	天 根 夢 草

各題2句 出句締切 12時00分
 自由吟は各選者に違う句を出してください

事務局

〒567-0009 茨木市山手台4-6-3-101
 TEL(072)649-5226 FAX(072)649-2334

主催 川柳展望社

王寺川柳会

創立60周年記念川柳大会

日時 4月20日(土) 午前9時半開場
 場所 りーべる王寺 東館5階 リーベルホール
 (JR大和路線王寺駅北口すぐ)

句会 (正午開始予定)

事前投句	「続 く」	西川 國治 選
兼 題	「桜」	安土 理恵 選
	「喜 び」	阪本 高士 選
	「遊 ぶ」	笹倉 良一 選
	「揃 う」	山田 順啓 選
	「再 び」	山野 寿之 選

出句締切 10時30分・各題2句
 懇親宴会費 3000円(懇親会費込み)
 事前投句 4月1日(月)締切 ハガキで1句
 〒636-0011

王寺町葛下1-3-1 小林和之方
 王寺川柳会記念大会事務局宛

問合せ・お申込み

小林和之 080-3117-6212

主催 やまと番傘川柳社・王寺川柳会

第19回 春はくろほこ川柳大会

日時 平成31年4月28日(日) 午前10時開場 出句締切 11時
 場所 さざんか会館(JR鳥取駅下車南口徒歩5分)
 I・事前投句の部 当日(出欠不問 各題2句)
 投句締切 3月20日(水) 消印有効

II・当日の部 (欠席出句可・各題2句)
 欠席投句締切 4月10日(水) 消印有効

「肌」	石井華蓮 選
「のれん」	内田厚子 選
「穴」	田辺与志魚 選
「マスク」	北川拓治 選
「紙」	大川孔晶 選
「踊る」	小西博樹 選
「割く」	荻野浩子 選
「許す」	久保田千代 選
「追う」	天根夢草 選
「含む」	小島蘭幸 選

当日会費 2000円(記念品・昼食呈)

投句要領 I・IIともに所定の用紙(コピー可)または任意の用紙
 に宿題・選者名と作品を連記のうえ郵便番号・住所・氏名・
 電話番号・所属結社名を添記。封書の表面に「春くろほ大会」
 と朱書きしてください。

◎出句先・問合せ先 烏取市気高町飯里84-4 鈴木 公弘 宛
 〒689-1034 3
 電話 0857-84-2886

主催 川柳同友会みらい

編集後記

★春愁の階段ゆるく螺旋をなせり
蕉風

★木津川計先生の年賀状から。「あらゆる健康法は40代50代のために開発されるのです。若者に説く人はいません。男なら、とにかく81の平均寿命を目指せ。それが目的です。私は83歳、目的は達せられたのです。すると、食べたいものを食べ、飲みたいだけ飲み、好き勝手に生きていける、そんな有難い年齢になったのです。(中略)

て2時から昔話「浦島太郎」を初演し、解明します。竜宮城や乙姫は何を意味するのか、古代の無名人は壮大なSFをこしらえていたのです。お伽断の謎とときが楽しみです。

★「句会燦燦」の鑑賞者は板垣孝志さん(葦群同人)に代りました。当欄は女性が続いていたのですが、板垣さんには男性ならではの鑑賞を期待しています。弘津秋の子さんには、瑞々しいレタスのような鑑賞を楽しませて頂きました。有難うございました。

★出版不況とはいえ、東京は六本木の書店が誕生した。書籍三万冊、一冊として同じ本はなく、好きだけ自由由に読める。お代り自由の飲み物つき。近ければ是非覗いてみたいものだ。

★あべのハルカス美術館で「驚異の超絶技巧」展を鑑賞した。明治から現代の漆工、牙彫、七宝、金工、陶

★私は71から始めた「一人語り劇場」が続けています。昨年11月に14作目の「はなれ警女おりん」を神戸で初演しました。・・・「はなれ警女おりん」今後の口演は、3月24日(日)池田アゼリアホール。5月18日(土)岸和田浪切ホール。いずれも2時からです。

★今年、6月23日(日)神戸元町 風月堂ホールに

「驚異の超絶技巧」展を鑑賞した。明治から現代の漆工、牙彫、七宝、金工、陶

ひとこと

「岡両画」を鑑賞して
昨年の秋「日本水墨画大賞展」を
尼崎市内にある「尼信会館」で鑑賞
した。ご存知の方も多と思うが、
水墨画は墨の濃淡を巧みに使い遠近
を描く絵だ。主に風景画が多いが人
物や動物も描いたものもあった。
作品を順次鑑賞していると、ある
作品の前で足がビタリと止まった。
この作品は他の作品と異なり横に細
長い十号ぐらいの小さな作品だつ
た。作品をゆっくり見るとななが描
かれているのかはやけていて、さつ
ぱりわからなかつたので、題をおも
むろに見ると「岡両画」(もうりよ
うが) サントリー賞とあつた。「岡
両画」は「魍魎」と同義と付記され
「自然の精霊、すがま」のことである。
脳裏を四文字熟語の「魍魎魍魎(ち
ももうりょう)」が掠めた。意味は
いろいろの化け物。さまざま怪物と
ある。昔中国で書かれていた技歩だ
が、今は消滅したという。うつつら
とシミが付いた壁に似たような感じ
であつた。関係者に聞くと松がうっ
すらと描かれているという。絵には
写実画、抽象画と具象画があるが、
岡両画は初めて鑑賞をした。だが
いまだにもうろうとした謎が脳裏に
残っている。(延寿庵野藪)

磁など、人間の十指と脳
細胞から生まれたとは信
じられない工芸品の数々。
4月14日まで。是非お出
掛けください。(朱夏)
△「曾祖父ちゃん」大山
さん「亡夫」和服「笑顔
布施」コミュ力とルビを
打った6句。全投句の中
から川柳塔誌の直近3ヶ
月に掲載されています。

△私は、川柳初歩時にルビ
打ち、選者に失礼だか
ら「亡母」を今一度見直し
て頂きたい。(憲彦)

△現状、ルビを打った投句
を多数見かけますが、やは
り選者が、無理に読ませる
ので避けるべきです(中略)
△川柳の理論と実践」の
178ページに「文芸作品
に振り仮名は似合いません
ので避けるべきです(中略)
どうしても読み替え指定を
しなければ収まらない素材
は思い切つて捨ててしま
うのも解決策の一つです」と
△ルビ打ちを今一度見直し
て頂きたい。(憲彦)

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から15時までにお願いたします。

作品募集

5月号発表 (3月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島 幸選
水煙抄 (8句)	西出 楽選
愛染帖 (2句)	新家 司選
檸檬抄「草」 (2句)	川端 一歩 共選
山岡 富美子	
インスピレーション・ナビ (2句)	大西 泰世選
「雫」	夏目 粹選
「レンズ」	安田 忠子選
「ペット」 (3句)	居谷 真理子 担当

初歩教室「ペット」は6月号発表

6月号

檸檬抄「柱」

一路集「大きい」「トンネル」

初歩教室「のろのろ」

川柳塔WEB句会のご案内

課題「書く」 [鳥田 駱舟 共選
斉尾 くにこ]

締切 3月20日 発表 3月25日頃

投句料 無料

インターネットで「川柳塔」を検索しWEB句会をクリックしてご投句ください。

定価 八百円 (送料97円)

半年分 五千円 (送料共)

一年分 九千八百円 (同)

二〇一九年(平成三十一年)三月一日発行

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―四一―七

印刷所 美研アート

編集人 小島 和幸

編纂人 木本 朱夏

発行所 川柳塔社

電話 (〇六)六七九三三四九〇番

振替 〇〇九八〇一四―二九八四七九番

花野ビル201号室

本社3月句会

とき 3月7日(木) 13時開場・13時40分締切

ところ アウィーナ大阪 4階 金剛の間

天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441

おはなし「新元号を予想する」

兼題「ほとほと」

「息」

「不覚にも(詠み込み不可)」

「育つ」

「野性」

伊達 郁夫氏

矢倉 五月選

両川 無限選

鴨谷 瑠美子選

藤井 宏造選

水野 黒兔選

小島 蘭幸選

会費 1000円

投句料 500円(切手可)

(各題2句以内)

本社4月句会

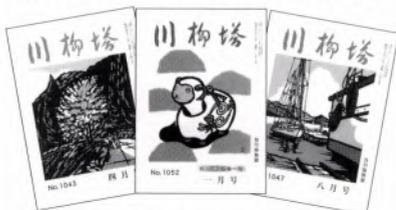
8日(月) 午後1時から

兼題「恩」「ぐにゃ」「余る」

「ひたすら」「芝居」

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

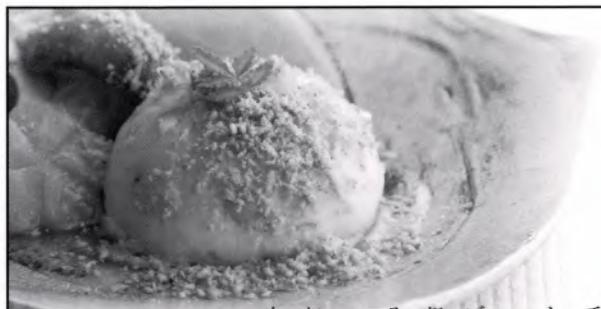
ホームページ <https://www.bikenart.com>

※事務所移転につき住所・電話番号が変わりました。

オニザキのプレミアムロースト

つぎま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、

香ばしい薫り。舌と記憶に

しつかりと残る、深いコク。

料理をより美味しくする

ゴマを作りたい、真つすぐな

想いから生まれた逸品。

それが「プレミアムロースト」。

素材本来の良さを余すこと

無く引き出した、オニザキの

自信作をお届けします。



株式会社 オニザキコーポレーションセールズ
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>